

平成24年度公立高等学校 みやぎ学力状況調査 分析結果報告書

調査の概要等	P. 1
調査結果の概要と分析	P. 2
1 2学年学力状況調査の教科別結果	
2 2学年学力状況調査の結果分析と改善の方向	
3 1学年学習意識調査の結果と分析	
4 2学年学習意識調査の結果と分析	
5 生活・「志教育」に関する意識調査の結果	
学力向上に向けた今後の取組	P. 2 7
教科に関する調査「国語」結果と考察.....	P. 2 8
教科に関する調査「数学」結果と考察.....	P. 3 5
教科に関する調査「英語」結果と考察.....	P. 5 5
質問紙調査結果（2学年）.....	P. 6 2
質問紙調査回答別正答率（教科との関連）（2学年）...	P. 7 2
質問紙調査結果（1学年）.....	P. 7 9

平成24年11月

宮城県教育委員会

調査の概要等

第1学年

- (1) 第1学年における生徒の学習状況及び心の有り様並びに志教育に関する意識等を調査分析し、各学校における学習指導及び進路指導の改善並びに本県の教育行政に役立てる。
- (2) 公立(県立・市立)高等学校の79校の1年生、約15,200人を対象に、平成24年7月5日(木)から7月13日(金)までの間、各学校で実施(仙台市立は昨年度より実施)

質問紙調査

生徒の学習・生活・「志教育」に対する意識等についてのアンケート調査を実施

〔調査実施人数〕

意識調査回収人数 14,842人(回収率 約98%)

第2学年

- (1) 学習指導要領に示された指導内容の定着状況と、第2学年における生徒の学習状況及び心の有り様並びに志教育に関する意識等を調査分析し、各学校における学習指導及び進路指導の改善並びに本県の教育行政に役立てる。
- (2) 公立(県立・市立)高等学校の79校の1年生、約15,100人を対象に、平成24年7月5日(木)から7月13日(金)までの間、各学校で実施(仙台市立は昨年度より実施)

学力状況調査

〔調査実施教科〕

- ・国語, 数学, 英語の3教科の学力状況調査
- ・国語, 数学, 英語の作問に当たっては, 高校1年次に学習した内容の基礎・基本と思考力・応用力を問う問題で構成し, 平均正答率を50%と設定して作成
- ・国語, 数学, 英語はそれぞれ共通問題に加え学校選択問題を設定
学校選択型A問題(A問題)は基礎的・基本的な内容の設問
学校選択型B問題(B問題)は思考力・表現力・応用力をみる設問

〔調査実施人数〕

国語 14,575人 (A問題選択57校7,050人, B問題選択32校7,525人)

数学 14,570人 (A問題選択64校8,601人, B問題選択25校5,969人)

英語 14,554人 (A問題選択63校8,478人, B問題選択26校6,076人)

学校数は全日制本校74校, 定時制11校, 分校3校, 岩ヶ崎鶯沢校舎を1校の計89校として集計した。

質問紙調査

生徒の学習・生活・「志教育」に対する意識等についてのアンケート調査を実施

〔調査実施人数〕

意識調査回収人数 14,586人(回収率 約96%)

調査結果の概要と分析

1 2学年学力状況調査の教科別結果

国語

共通問題正答率は、54.2%（前年度37.8%）

- 基本的知識は身に付いているが、それらを活用して文意を把握する力が不足

言語事項に関する設問のうち、日常生活レベルの語彙や表現を問うものについては概ね良好な結果であるが、主に文章表現において用いられる言葉について問うものについては正答率が低い。また、抽象的な表現を具体的なものとして捉え直し、文意の把握につなげる力が不足している。古文・漢文については、ともに基礎的・基本的な知識はある程度身に付いているが、それらの知識を活用して文脈を推測し、全体の理解へとつなげていく力は不足している。

数学

共通問題正答率は、48.7%（前年度45.3%）

- 文字式の計算・三角比等の基礎事項の定着度は上昇したが、複数の条件を組み合わせて思考する力が不足
- 基礎・基本の定着については、「方程式と不等式（数と式、二次方程式、二次不等式）」や「図形と計量」の分野で一定の定着が見られるものの、指数計算の正確性、絶対値記号の意味理解には課題が残る。また、「二次関数」については、グラフの概形をかく問題の状況を分析することが十分に行えていない。読み取った情報を組み合わせた上で、思考し計算する問題の正答率が低く、与えられた条件から適切な公式や定理を選択し、複数の手順を経て解答する問題を解く力が不足している。

英語

共通問題正答率は、41.2%（前年度39.2%）

リスニングにおいて高い理解力を認めるも、基本語句の知識定着に課題がある

リスニング問題の正答率が高い。しかし、文法事項を問う問題では基本語句を活用する力が不足している。それに付随して、長文を読み事実や情報を見つけ出す力や、筆者の考えや意見を見いだす力を問う問題の正答率が低い。また、整序問題は一定の正答率を残しており、英文を構成する力は認められる。

各教科の受験者数、共通問題の正答率等概要

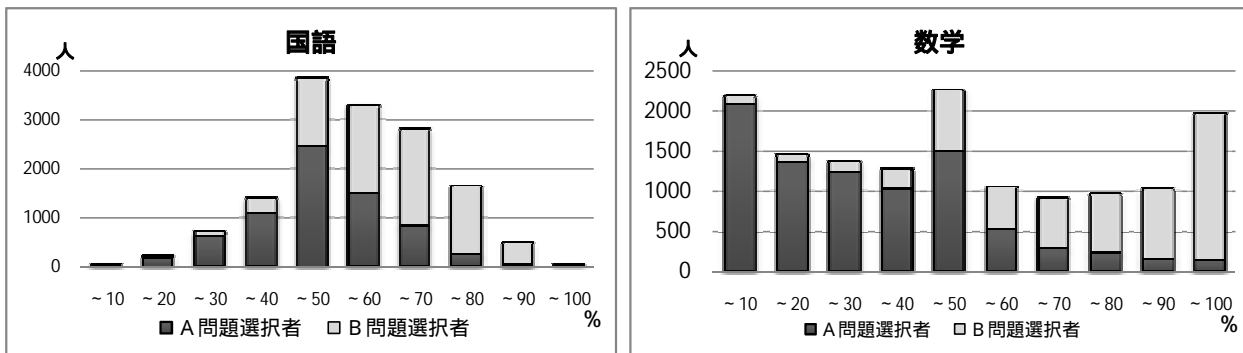
学校数は全日制本校74校、定時制11校、分校3校、岩ヶ崎鶯沢校舎を1校の計89校として集計した。

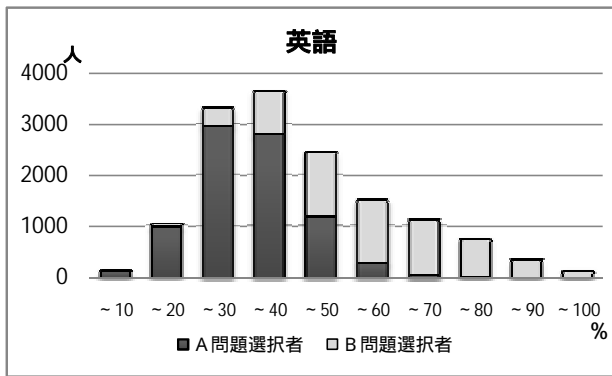
教科	国語		数学		英語	
	国語A	国語B	数学A	数学B	英語A	英語B
選択						
内容	基礎的・基本的な内容の設問	思考力・表現力・応用力をみる設問	基礎的・基本的な内容の設問	思考力・表現力・応用力をみる設問	基礎的・基本的な内容の設問	思考力・表現力・応用力をみる設問
学校数	57	32	64	25	63	26
調査人数	7,050	7,525	8,601	5,969	8,478	6,076
共通問題部分の正答率	47.4 (32.5)	60.6 (43.6)	31.6 (27.1)	71.8 (69.3)	31.7 (31.3)	54.5 (50.6)
A・B選択者別の全体正答率	47.4 (32.5)	56.9 (41.2)	23.9 (22.0)	54.2 (48.6)	30.9 (30.6)	51.8 (48.4)

()内は前年度の正答率

図1-1 共通問題の正答率別度数分布

各教科における共通問題部分の正答率の度数分布についてA問題及びB問題を選択した生徒に分けて積算集計したもの





分析

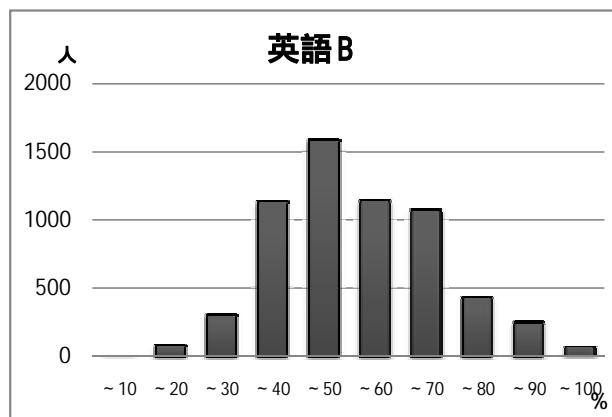
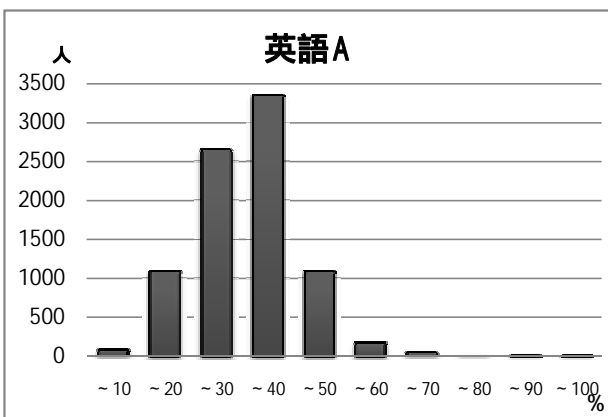
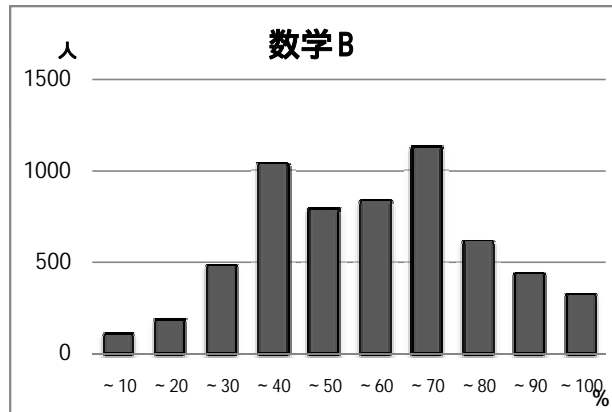
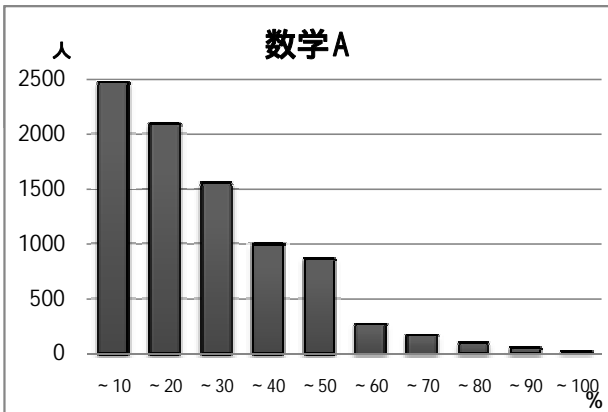
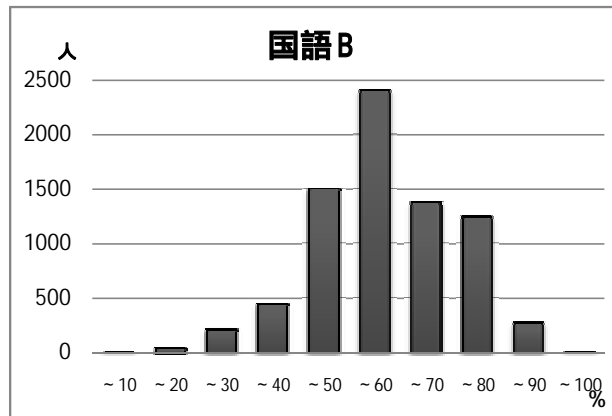
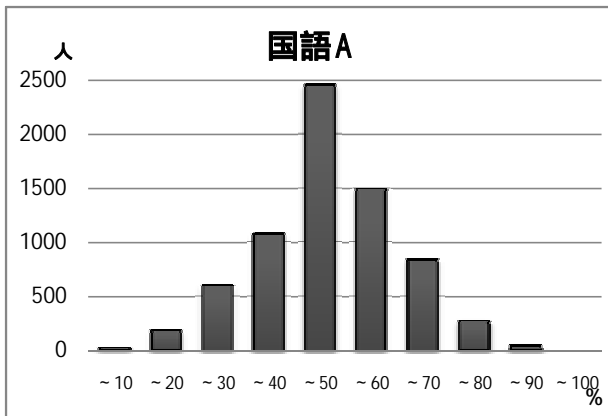
国語は正答率が上昇した。これは、慣用語や口語で使用される表現について問い、定着度が良好であったことによる。一方、文法事項の定着には課題が見られる。

数学は正答率の高い生徒と低い生徒に分散している。これは、1年次に学習した基礎・基本の定着度に分野別ごとのばらつきがあることが原因と考えられる。

英語の分布も分散が大きい傾向があり、正答率に広がりが見られる。これは、動詞に関する知識の定着度や英語特有の表現に関する理解の定着度にばらつきがあることが原因と考えられる。

3教科ともB問題選択者は正答率が高く、基礎的・基本的な力がある程度身に付いていると考えられる。

図1 - 2 A問題, B問題別の正答率度数分布
各教科における共通問題部分を含めた全問題正答率の度数分布



2 2 学年学力状況調査の結果分析と改善の方向

国語

分析と課題

(…相当数の生徒ができています。 …課題がある。)

日常生活で触れる機会が多い語に関する問題ほど正答率が高い。慣用句についての基礎的な知識は身に付いている。

文章語として用いられる漢字の書き取りや読み方になると正答率が大きく下がってしまう。

口語文法や敬語表現の理解、日本語の適切な使い方については十分でない。

⇒ **課題1：中学校までに学習した言語に関する知識や理解を系統的に深めるとともに、社会人として必要となる言語能力を身に付けるための機会を確保することが急務である。**

論理的な文章では、文脈を踏まえて内容を理解するように努めている。

論理的な文章では、具体例を基に、抽象的に表現された筆者の主張を読み取る力が不足している。

文学的な文章では、表現の特徴にも注意しながら、叙述に即して本文の内容を捉える力が不足している。

⇒ **課題2：文章の構成を踏まえ、抽象的な表現から書かれている内容を的確に読み取り、適切な表現でまとめる力が求められる。**

基本となる語句や文法・句法など、既習の知識は身に付いてきている。

敬語や重要な句形の理解・定着が不十分である。

細部の情報を基に、文脈をつかみながら内容を的確に読み取る力が身に付いていない。

⇒ **課題3：古典に親しむ態度を育成し、既習知識を活用しながら、自分の力で読み解いていくことの楽しさに気づかせるような指導の工夫が求められる。**



改善の方向

社会で必要となる基礎的・基本的な言語知識を定着させるために、授業の中で言語事項を扱う機会を設定するとともに、学校図書館とも連携しながら読書指導を進める。言語事項に関する知識を活用することで思考力や表現力の向上につながるような授業展開を工夫する。

- ・漢字については、正確な知識の習得を目指させるとともに、日頃から多様な文章に触れさせ、それらを活用する場面を確保する。
- ・ことわざや慣用句については、意味や用例を理解させ、実際に活用する場面を設定して具体的なイメージの備わった知識として定着させる。
- ・敬語については、その成り立ちと社会生活における意義を理解させた上で、状況に応じて適切に用いる能力を育成する。

論理的な文章では、具体例が持つ意味や言い換えの表現等に着目し、論理展開を把握しながら要旨を的確に読み取る力が育成できるよう工夫する。また、文学的な文章では、情景や心情などを表現に即して読み味わう姿勢を育成するとともに、登場人物の心情の変化を読み取る力を身に付けるための指導の工夫を図る。

- ・文章を恣意的に読むのではなく、根拠となる表現に基づく客観的視点から文章全体を意味付けしていく力と、内容を適切にまとめる力を身に付けさせることが必要である。
- ・本文のみならず、問題文やその選択肢についても、書かれてある意図を意識して、丁寧に読む姿勢を身に付けさせる。
- ・文学的な文章では、登場人物の行動描写や会話部分に着目させる。その際、段落相互の関係を踏まえることで主題を把握させ、作品の読み取りが深化するように工夫する。

古典に親しみをもたせ、古典を学ぶ意欲を高めることで、基礎的・基本的知識の定着を図り、作品をより深く味わうことができるような指導の工夫を図る。

- ・古典常識や基本的な語句、文法・句法の知識の充実を図るとともに、既習知識を活用して読解に結びつけるような場面を設定する。
- ・文法事項の指導のみに終始することなく、現代語訳を適宜利用するなどして内容のおもしろさを実感させる。
- ・目的を持ったグループ活動などを取り入れ、教師主導型の授業ではなく、生徒の主体的な読みを喚起するような指導の工夫を図る。
- ・音読や暗誦によって作品のリズムを感じながら、文章の雰囲気や話の展開を味わわせる。

数学

分析と課題

(…相当数の生徒ができています。 …課題がある。)

「方程式と不等式(数と式, 二次方程式, 二次不等式等)」、「図形と計量」の基礎・基本については, 当該設問の正答率が高いことから, 一定の定着が見られる。

複数の基本事項を組み合わせて処理する問題や, 定理の活用法を思考・選択することが必要な問題, 絶対値や二次関数を扱った問題は, 正答率が低い(あるいは低下している)。

⇒ **課題1**：授業や家庭学習において, 基礎・基本の定着が, 知識の習得・技能の習熟に偏っている。

文章から条件を読み取り一次不等式を立式し, その解を求める問題では正答率が高い。

数学の内容を活用する場面で, 複数の視点から問題の分析を行い, 必要な情報を見つける問題では正答率が低い。

⇒ **課題2**：数学を活用する場面で, その有用性に気付くことができず, 問題の本質が何なのかを見つけたり, 複数の視点から問題を考察したりする力が不足している。

段階を踏み, 複数の知識・技能を順序よく用いる問題の正答率が低い。

立式はできるが, 得られた解の適切さを吟味する力の定着が不十分であることが窺える。

⇒ **課題3**：基本的な概念や原理・法則を理解したり, 論理的に思考したりする機会としての数学的活動が少ないために, 公式や定理を活用する力や得られた結果を吟味する力が身に付いていない。

グラフから情報を読み取ること, グラフを活用して変化の様子を考察すること等について, 理解や習熟に課題があることが窺える。

問題に用いられている用語の意味を正確に読み取り, 正しく活用する力が不十分であることが窺える。

⇒ **課題4**：文章や式, グラフ等から必要な情報を読み取り, それを活用する力や, 数学の用語や記号, グラフ等を用いて表現し, 思考する力が不足している。

改善の方向

基礎的・基本的な知識や技能の定着度を高める一方で, 数学を学ぶ意欲を向上させるために, 数学を学習する楽しさや意義, 数学的な見方や考え方のよさを実感させる授業を工夫する。

- ・身近に見られる事象や体験した事柄を数学化する等, 現実の生活を反映した問題を扱い, 数学への興味・関心をもたせ, 学習意欲を高めるよう指導する。
- ・公式や定理の導き方を教える等, 数学的な見方や考え方のよさを認識させるように工夫する。

数学を学ぶことの有用性に気付かせながら, 様々な視点から問題を考察するための思考力を, 生徒同士が互いに高め合えるよう指導を工夫する。

- ・「実生活において数学がどのように役立てられるのか。」という視点を重視し, 数学を学ぶことの有用性を認識させ, 様々な公式や定理がどのような場面で役立つのかに気付かせるように指導を工夫する。
- ・グループ学習等を積極的に授業に取り入れる等, 様々な視点から考え, 思考することの楽しさを感じ, 生徒達が思考力を高め合うことに繋がる工夫を行う。

論理的に表現する力を育成するために, 自らの考えを数学的に表現し根拠を明らかにして説明したり議論したりする指導を工夫する。

- ・一般化を急がず, 公式や定理を導く過程と問題解決や解答の過程とが一致するような具体例を扱い, 公式や定理の導出過程を他の場面に応用できる指導を工夫する。
- ・学習した内容を生活と関連づけ, 数学的に表現し, 処理して得られた結果を現実の事象に照らして吟味させるような指導の工夫をする。

数学の用語や記号を用いて書かれた文章等を理解・処理するために, グラフや図を活用し, 具体化・視覚化することを通して思考が深められる示唆や支援を重視する。

- ・条件を具体数に置き換え問題を考察することの大切さを実感させ, 図をかき状況を正確に判断し, その本質を捉える指導を工夫する。
- ・グラフを正確に読み取り, 必要な情報を的確に判断し, 活用する力を養う。
- ・ICTを積極的に活用し, 状況を視覚的に捉えさせること等を通して, 生徒自身が事象の変化に対応し, 考察を深めていくことができるように指導を工夫する。

英語

分析と課題

(……相当数の生徒ができています。 ……課題がある。)

聞く力を見る問題で、中学校までに習う基本的表現に関しては定着度合が高い。
まとまりのある英語を聞く中で、語法が多岐にわたる動詞が、どの用法で使用されているかを判断することなど、細部にわたり読み取る力について課題が見られる。

⇒ **課題 1：まとまった量の英語を聞き取る際、使われている動詞の語法などを文脈に応じて理解し、内容を聞き取る力が不足している。**

高校で学習する語彙・熟語・文法を正しく使用できるレベルまで到達していない。
特に動詞に関する表現に関しては、多くの文法分野で活用する力が身に付いていない。

⇒ **課題 2：高校段階で学習する語彙・熟語・文法、とりわけ動詞に関する知識が正確に身に付いていない。**

日本語との語順の違いに注意して英語表現できる能力についてはある程度身に付いている。
日本語の感覚が当てはまらない英語特有の表現に関する理解が不足している。

⇒ **課題 3：日本語とは異なる英語特有の表現に関する理解の定着が十分でない。**

英語で示された資料などから、必要な情報を探し出す力はある程度認められる。
未知の単語について、その意味を推測することなどをせず、早々に読むことをあきらめる傾向が見受けられる。

⇒ **課題 4：英語の長文を読む活動に対する慣れが不足している。また、読解に必要な語彙が不足している。**

改善の方向

聞き取る力の土台となる基礎的な文法・語法の定着を図り、音読指導を多く取り入れる。その上で英語を聞く機会を多く設け、音声への慣れを促す。

- ・英語を聞く機会を多く設ける。
- ・多様な音読指導を通して、英語のリズムなどに慣れさせ、英語を聞くことを苦にしない態度を育てる必要がある。
- ・聞く目的を持たせた上でリスニング活動を実施することが重要である。そのためには、授業における教師のスモールトークなどの活用が望まれる。

文法・語法を言語活動と効果的に関連づけて指導することが重要である。知識を定着させ、活用できるまでに高める指導が求められる。

- ・教師が既習の文法・語法を用いたスモールトーク等を行うことにより、生徒に活用場面を意識させる。
- ・授業において生徒が既習の文法・語法を用いたコミュニケーションをする場面を設定する。
- ・生徒の言語活動に対して、教師からの明示的なアドバイスを欠かすことなく与え続け、どのように英語を運用すべきかを、文法・語法の活用を通して体得させる。

話すこと・書くことを中心とした言語活動を充実させ、生徒の表現活動を多く取り入れることが望まれる。

- ・既習の言語事項を様々な活動で生徒に活用させる場面を多く持つ。
- ・生徒が話したこと・書いたことに関して、その都度教師が適切なアドバイスを与えるなど、よりよい表現モデルを提示することが大切である。
- ・教師の説明が大半を占める授業ではなく、説明した事柄を生徒が実践する場を確保する。
- ・生徒が興味関心を示し、表現したくなるような題材を選ぶことも重要である。

自ら進んで英文を読もうとする態度の育成が急務であり、そのためには言語に関する基礎基本事項を定着させることが必要である。

- ・英語という言葉に関する関心を持たせる。その上で生徒の興味を引く題材を活用して、生徒自らが進んで読もうとする場面作りを工夫する。
- ・読む活動をする前に、背景知識を与える、使用語彙を定着させるなどの活動を行い、前向きに取り組む下地を作る。
- ・読解の手助けとなるような発問を工夫して、生徒が読み続ける姿勢を支援する。
- ・パラグラフリーディングやスキミング等の読解の手法を示すことで、目的を持って長文を読む態度を育成する。

3 1学年学習意識調査の結果と分析

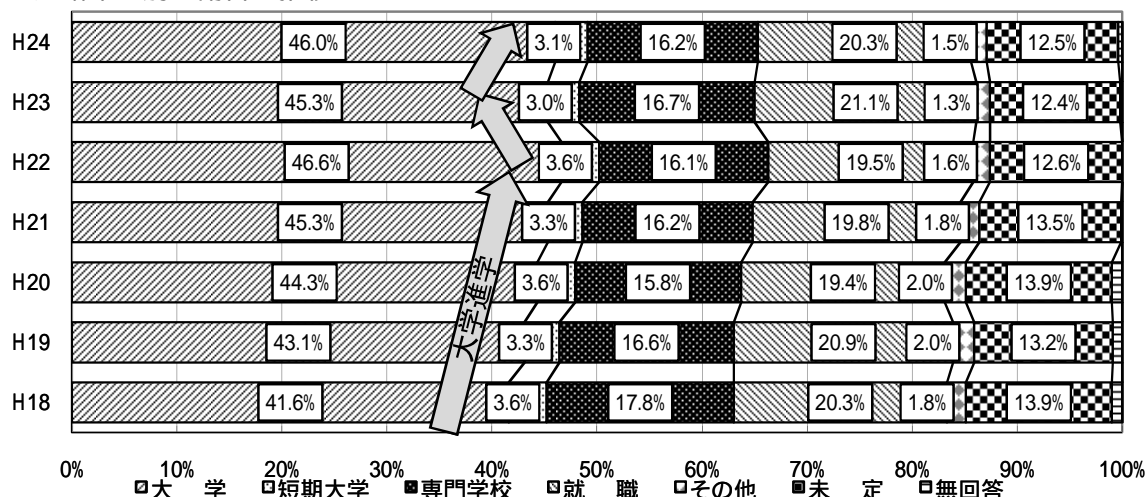
過去7年間の推移

(1)「現在最も強く希望している進路は」 **「大学進学希望者」が再び増加、「就職希望者」が減少**

	大学	短期大学	専門学校	就職	その他	未定
H24	46.0%	3.1%	16.2%	20.3%	1.5%	12.5%
H23	45.3%	3.0%	16.7%	21.1%	1.3%	12.4%
H22	46.6%	3.6%	16.1%	19.5%	1.6%	12.6%
H21	45.3%	3.3%	16.2%	19.8%	1.8%	13.5%
H20	44.3%	3.6%	15.8%	19.4%	2.0%	13.9%
H19	43.1%	3.3%	16.6%	20.9%	2.0%	13.2%
H18	41.6%	3.6%	17.8%	20.3%	1.8%	13.9%

<分析> 前年度より、「大学進学希望者」は0.8ポイント増加。「就職希望者」は0.8ポイント減少

図2 進路希望別の割合の推移

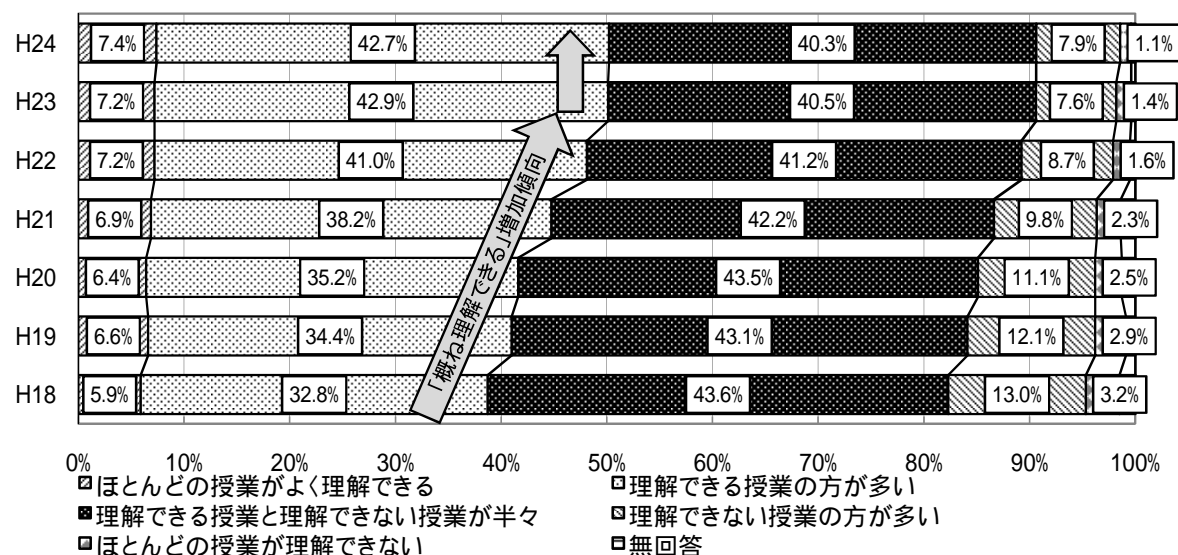


(2)「授業がどのくらい理解できるか」 **「授業が理解できる」が横ばい**

	ほとんどの授業がよく理解できる	理解できる授業の方が多い	理解できる授業と理解できない授業が半々	理解できない授業の方が多い	ほとんどの授業が理解できない
H24	7.4%	42.7%	40.3%	7.9%	1.1%
H23	7.2%	42.9%	40.5%	7.6%	1.4%
H22	7.2%	41.0%	41.2%	8.7%	1.6%
H21	6.9%	38.2%	42.2%	9.8%	2.3%
H20	6.4%	35.2%	43.5%	11.1%	2.5%
H19	6.6%	34.4%	43.1%	12.1%	2.9%
H18	5.9%	32.8%	43.6%	13.0%	3.2%

<分析> 「授業が概ね理解できる」と回答した生徒が50.1%と、昨年と同じで50%を超えた。

図3 授業理解度の割合の推移



(3) 「受たい授業はどんな授業か」

「興味関心をもてる授業」「分かる授業」を期待

	基礎・基本から分かるまで教えてくれる授業	発展的な内容まで教えてくれる授業	興味や関心をもてる授業	進路希望達成につながる授業	資格取得につながる授業
H24	35.3%	7.6%	38.0%	13.9%	4.9%
H23	37.0%	6.7%	38.0%	13.2%	4.9%
H22	37.3%	7.5%	37.3%	13.2%	4.4%
H21	35.4%	6.3%	38.9%	13.9%	5.3%
H20	35.1%	6.6%	39.0%	12.9%	5.3%
H19	36.5%	6.5%	38.2%	13.1%	4.8%
H18	35.6%	6.5%	38.5%	12.7%	5.5%

<分析> 受たい授業の1位は「興味関心をもてる授業」であり、次に「基礎・基本から分かるまで教えてくれる授業」が続く。「発展的な内容まで教えてくれる授業」は、前年度より増加した。

(4) 「平日の学習時間」

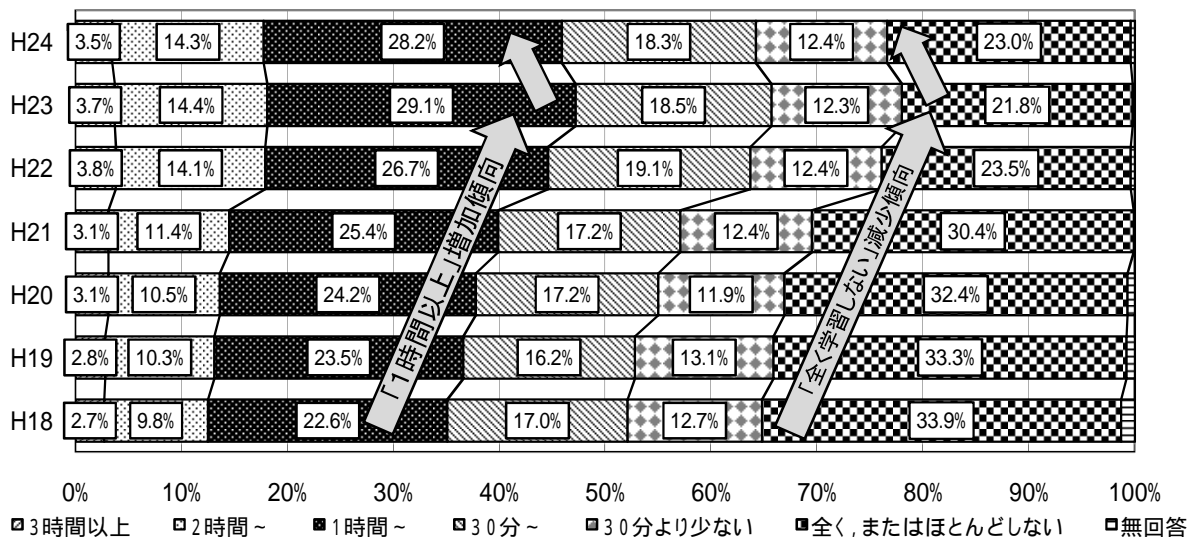
学習時間の増加傾向が減少に転じ、「全く学習しない」は減少傾向から増加に転じた

平日（テスト期間や長期休業中などを除く通常の月曜日から金曜日）に、家庭学習（塾・予備校で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしている時間も含む。）をどの程度しているか。

	5時間以上	4時間～	3時間～	2時間～	1時間～	30分～	30分より少ない	全く、またはほとんどしない
H24	0.2%	0.5%	2.7%	14.3%	28.2%	18.3%	12.4%	23.0%
H23	0.1%	0.5%	3.1%	14.4%	29.1%	18.5%	12.3%	21.8%
H22	0.2%	0.5%	3.1%	14.1%	26.7%	19.1%	12.4%	23.5%
H21	0.3%	0.5%	2.3%	11.4%	25.4%	17.2%	12.4%	30.4%
H20	0.3%	0.5%	2.3%	10.5%	24.2%	17.2%	11.9%	32.4%
H19	0.3%	0.4%	2.1%	10.3%	23.5%	16.2%	13.1%	33.3%
H18	0.2%	0.4%	2.1%	9.8%	22.6%	17.0%	12.7%	33.9%

<分析> 平日の学習時間は前年度よりも「1時間以上」が1.3ポイント減少、「全く、またはほとんどしない」は1.2ポイントの前年度より増加した。

図4 家庭学習時間の割合の推移



(5) 「どんなときに家庭学習をするか」

「ほぼ毎日学習する」生徒は増加傾向から減少に転じた

	ほぼ毎日	主に平日	主に休日	考査前	宿題・課題 があるとき	宿題・課題 や考査前	塾・予備校が ある時や家庭 教師がくるとき	気が向いたとき	ほとんど しない	その他
H24	18.6%	5.0%	8.3%	11.7%	8.0%	26.8%	1.7%	12.5%	6.5%	0.6%
H23	20.8%	5.0%	9.5%	11.7%	8.3%	24.4%	1.1%	11.7%	6.5%	0.7%
H22	20.5%	5.7%	8.4%	11.7%	7.9%	22.9%	1.3%	12.9%	7.6%	0.8%
H21	15.7%	5.1%	7.0%	15.5%	5.9%	25.8%	1.5%	13.3%	8.7%	1.5%
H20	15.8%	4.4%	6.6%	15.3%	5.5%	24.8%	1.5%	13.7%	10.4%	1.2%
H19	14.1%	4.5%	6.8%	7.2%	4.4%	36.0%	1.5%	13.3%	10.5%	1.0%
H18	13.0%	4.5%	6.0%	7.6%	5.1%	36.1%	1.6%	13.3%	10.8%	1.1%

<分析> 前年度より「ほぼ毎日」学習しているは2.2ポイント減少。「ほとんどしない」は変化なし

(6) 「学校での宿題・課題、小テストの割合」

小テストの「ほとんど毎日」実施が再び増加

<学校からの宿題・課題の割合>

<学校での小テストの割合>

	ほとんど毎日	週に2~3回	週に1回くらい	ほとんど出で ない
H24	21.9%	40.4%	31.3%	6.1%
H23	22.9%	40.5%	30.4%	5.8%
H22	23.1%	36.9%	32.1%	7.7%
H21	17.4%	34.4%	33.9%	14.1%
H20	15.4%	33.5%	36.7%	13.6%
H19	14.9%	36.2%	31.1%	16.5%

	ほとんど毎日	週に2~3回	週に1回 くらい	ほとんどない
H24	12.8%	36.1%	34.3%	16.3%
H23	10.1%	36.4%	35.3%	18.0%
H22	13.3%	35.9%	33.9%	16.7%
H21	11.9%	31.2%	31.5%	25.1%
H20	11.1%	31.1%	32.6%	24.3%

H20に新設した質問

<分析> 前年度より宿題・課題が「ほとんど毎日」割合が1.0ポイント減少。小テストを「ほとんど毎日」実施は2.7ポイント増加

(7) 「家庭学習をする上で悩んでいること」

「集中できない」が増加、「方法が分からない」は減少傾向が継続

	方法が分 からない	集中でき ない	計画が長 続きしな い	部活動と の両立	成績が 伸びない	その他	特になし
H24	13.6%	28.3%	15.9%	20.5%	5.8%	2.3%	13.3%
H23	14.0%	26.6%	15.2%	21.4%	6.4%	2.8%	13.4%
H22	14.5%	26.7%	15.2%	20.7%	6.3%	3.2%	13.2%
H21	14.8%	27.3%	15.1%	18.5%	6.7%	3.4%	14.1%
H20	14.4%	26.4%	14.5%	18.6%	6.6%	3.7%	14.8%
H19	13.7%	25.2%	14.5%	21.2%	5.9%	3.5%	15.0%
H18	14.2%	25.3%	14.2%	21.1%	5.6%	3.6%	14.1%

<分析> 学習上の悩みは「集中できない」が最も多く、前年度より「部活動との両立」が0.9ポイント減少

(8) 「平日に家庭で最も時間をかけて行っていること」

「ゲーム・インターネット」が増加

	家庭学習	テレビや ビデオ	ゲームや インターネット	電話や メール	読書	自分の 趣味	家族と の対話	手洗い	その他
H24	9.8%	18.0%	18.6%	17.3%	3.9%	15.0%	4.6%	1.3%	11.0%
H23	10.8%	19.6%	15.8%	17.8%	3.6%	14.9%	5.1%	1.4%	10.8%
H22	9.8%	19.7%	12.4%	20.5%	3.9%	16.3%	4.5%	1.3%	11.4%
H21	6.4%	25.1%	14.0%	18.3%	3.6%	16.1%	4.3%	1.3%	10.7%
H20	6.3%	24.3%	12.1%	19.7%	3.5%	16.4%	3.9%	1.4%	11.1%
H19	5.5%	23.9%	10.7%	22.0%	3.9%	16.5%	3.7%	1.2%	10.7%
H18	5.5%	23.4%	4.3%	20.3%	3.8%	23.2%	3.7%	1.3%	11.8%

*「ゲームやインターネット」の項目は、H22までは「ゲームやパソコン」、H18までは「ゲーム」のみでの調査結果である。

<分析> 「家庭学習」は前年度より1.0ポイント減少。「ゲームやインターネット」が昨年度より2.8ポイント増加し、「家族との対話」は0.5ポイント減少

(9) 「学校に行く前に朝食をとるか」

朝食をとる生徒は減少傾向

	必ずとる	たいていとる	とらないこと が多い	全くとらない
H24	77.0%	13.6%	5.5%	3.6%
H23	77.3%	13.8%	5.1%	3.6%
H22	77.4%	13.4%	5.4%	3.7%
H21	77.2%	13.0%	5.1%	4.4%
H20	74.0%	14.5%	5.9%	4.9%
H19	71.6%	15.4%	6.2%	5.0%

<分析> 朝食を「必ずとる」または「たいていとる」生徒は、前年度より0.5ポイント減少

4 2学年学習意識調査の結果と分析

1年次との比較, 過去5年間の推移

(1) 「現在最も強く希望している進路は」

進路希望が1年次より一層明確化, 「大学進学希望者」は前年並み

	大学	短期大学	専門学校	就職	その他	未定
H24(2年)	48.8%	2.9%	15.9%	24.1%	1.6%	6.5%
H23(1年次)	45.3%	3.0%	16.7%	21.1%	1.3%	12.4%
H23(2年)	48.8%	3.2%	15.6%	24.3%	1.5%	6.5%
H22(2年)	50.3%	2.8%	15.8%	23.1%	1.4%	6.2%
H21(2年)	48.2%	3.2%	15.7%	24.1%	1.4%	7.2%
H20(2年)	47.9%	3.0%	14.9%	24.3%	1.5%	6.7%

<分析> 1年次より未定者が半減。「大学進学希望者」及び「就職希望者」が, 前年度から, ほぼ横ばい

図5 進路希望別の割合の推移 (上図: 1年次との比較, 下図: 過去5年の推移)

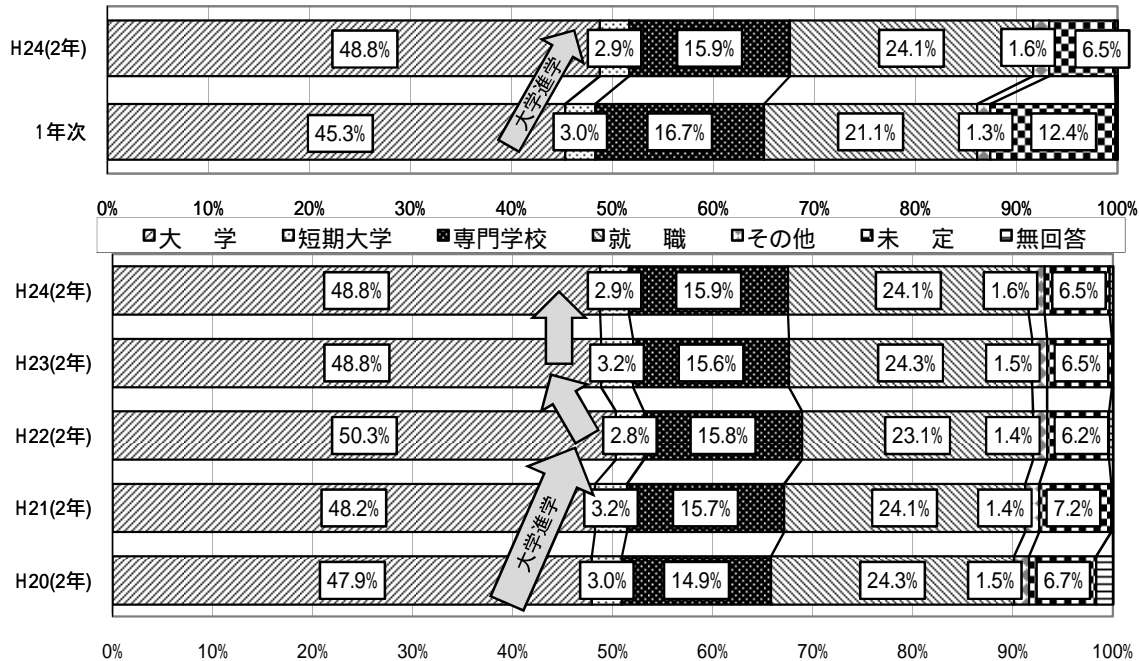
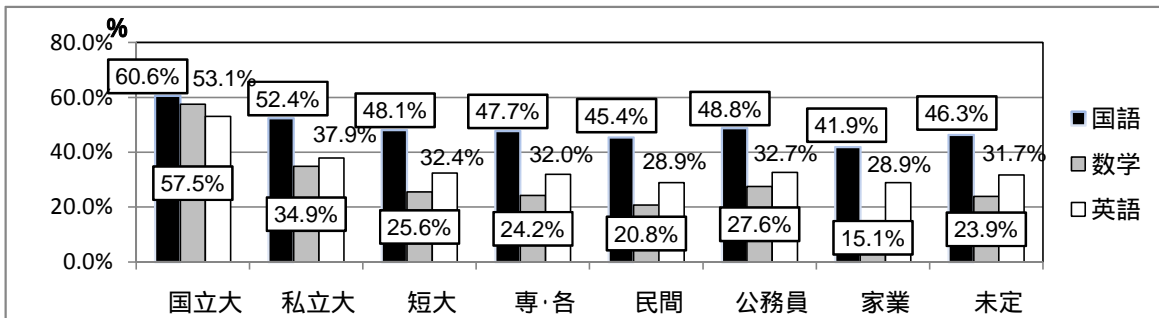


図6 進路希望別の国語・数学・英語の正答率 (共通問題)



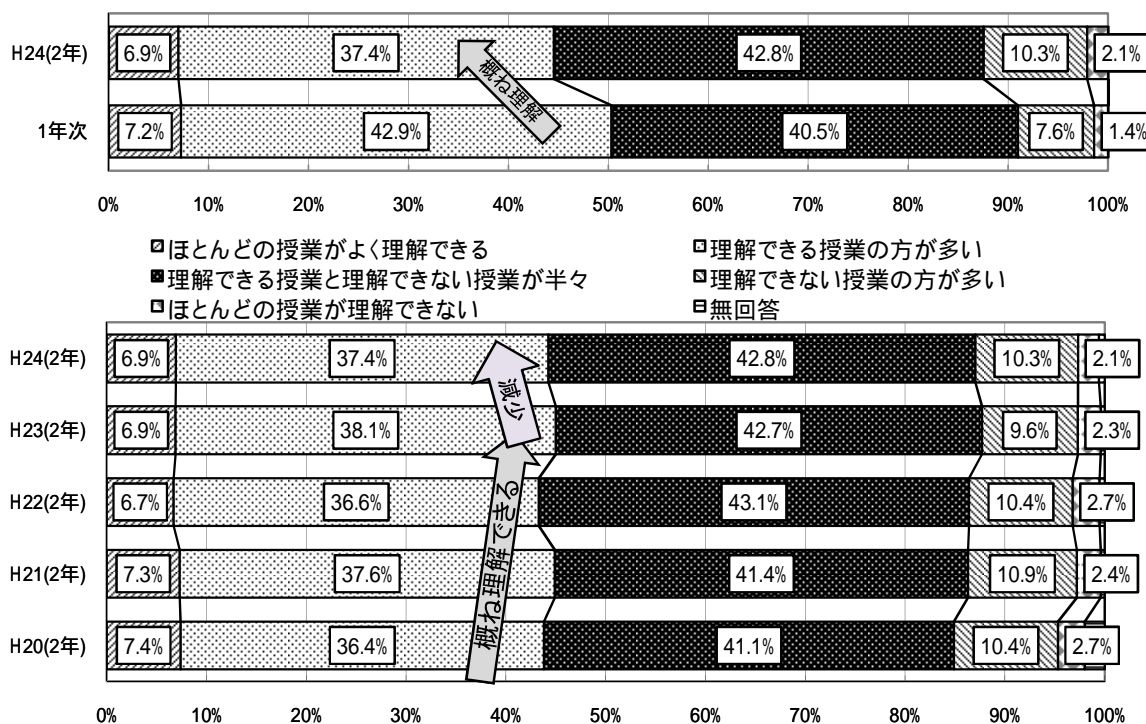
(2) 「授業がどのくらい理解できるか」

「授業が理解できる」が1年次よりも減少

	ほとんどの授業がよく理解できる	理解できる授業の方が多	理解できる授業と理解できない授業が半々	理解できない授業の方が多い	ほとんどの授業が理解できない
H24(2年)	6.9%	37.4%	42.8%	10.3%	2.1%
H23(1年次)	7.2%	42.9%	40.5%	7.6%	1.4%
H23(2年)	6.9%	38.1%	42.7%	9.6%	2.3%
H22(2年)	6.7%	36.6%	43.1%	10.4%	2.7%
H21(2年)	7.3%	37.6%	41.4%	10.9%	2.4%
H20(2年)	7.4%	36.4%	41.1%	10.4%	2.7%

<分析> 「授業が概ね理解できる」と回答した生徒が1年次より5.8ポイント減少。前年度より0.7ポイント減少し44.3%であった。

図7 授業理解度の割合の推移(上図:1年次との比較,下図:過去5年の推移)



(3)「平日の学習時間」

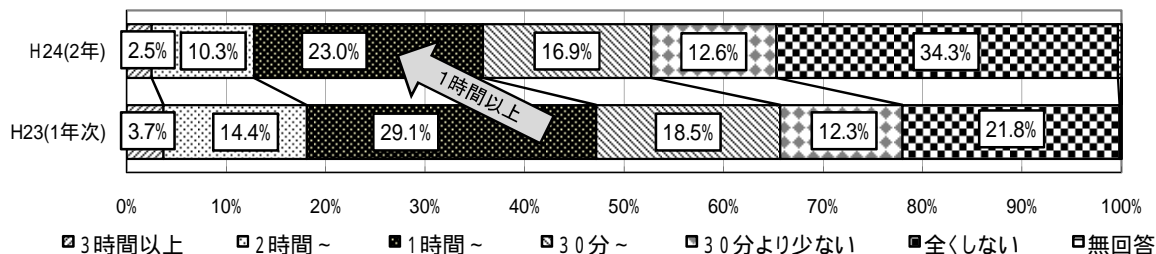
2～3時間集中した学習が効果的

平日(テスト期間や長期休業中などを除く通常の月曜日から金曜日)に、家庭学習(塾・予備校で勉強したり,家庭教師の先生に教わったりしている時間も含む。)をどの程度しているか。

	5時間以上	4時間～	3時間～	2時間～	1時間～	30分～	30分より少ない	全く,またはほとんどしない
H24(2年)	0.3%	0.4%	1.8%	10.3%	23.0%	16.9%	12.6%	34.3%
H23(1年次)	0.1%	0.5%	3.1%	14.4%	29.1%	18.5%	12.3%	21.8%
H23(2年)	0.3%	0.5%	2.4%	11.2%	22.8%	16.3%	13.1%	33.2%
H22(2年)	0.3%	0.3%	2.0%	10.4%	23.3%	16.7%	12.3%	34.4%
H21(2年)	0.3%	0.5%	2.4%	10.3%	21.5%	15.0%	12.3%	37.6%
H20(2年)	0.4%	0.4%	2.3%	10.3%	21.5%	14.3%	12.3%	37.8%

<分析>「全く,またはほとんどしない」は1年次より12.5ポイント増加,前年度2年生よりは1.1ポイント増加。「2時間以上」は1.6ポイント減少

図8 家庭学習時間の割合の推移(上図:1年次との比較,下図:過去5年の推移)



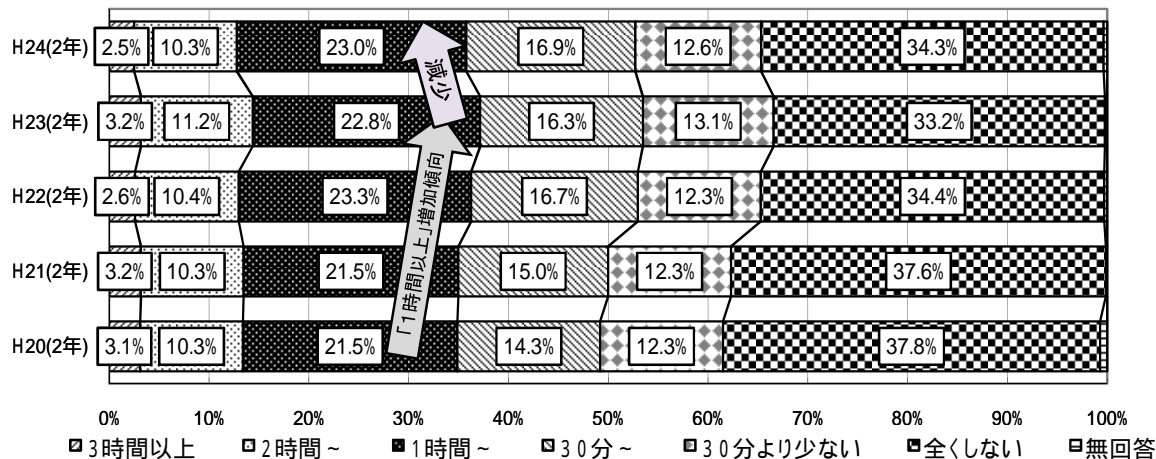
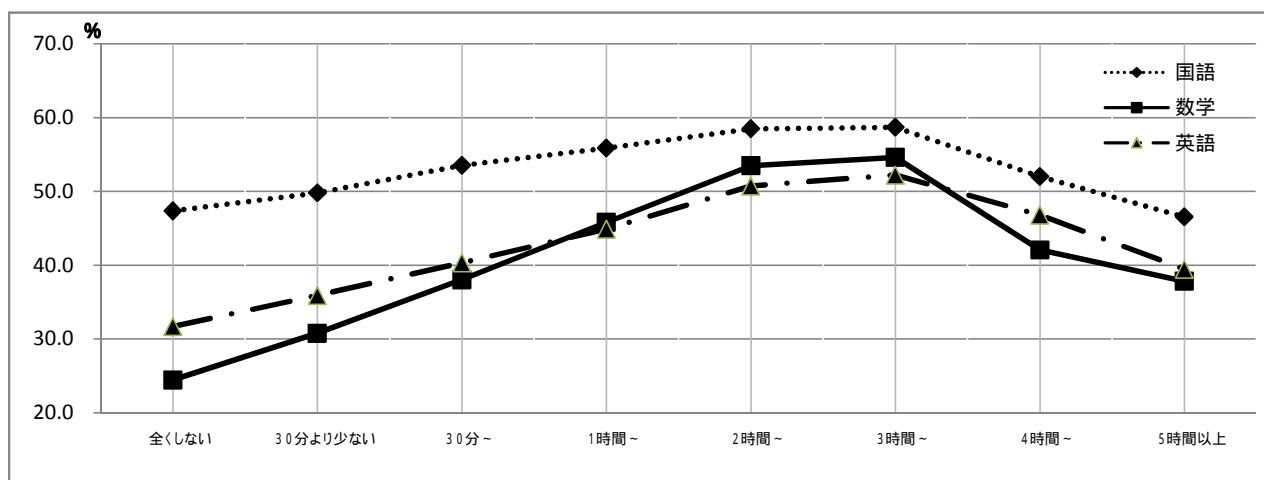


図9 家庭学習時間と共通問題の正答率との関係



(4) 「どんなときに家庭学習をするか」

「ほぼ毎日学習する」生徒が1年次と比べ減少傾向

	ほぼ毎日	主に平日	主に休日	考査前	宿題・課題 があるとき	宿題・課題 や考査前	塾・予備校が ある時や家庭 教師がくるとき	気が向いたとき	ほとんど しない	その他
H24(2年)	15.2%	3.8%	5.7%	17.6%	6.4%	26.1%	1.5%	11.8%	10.4%	0.8%
H23(1年次)	20.8%	5.0%	9.5%	11.7%	8.3%	24.4%	1.1%	11.7%	6.5%	0.7%
H23(2年)	17.3%	4.4%	6.5%	18.3%	6.1%	23.2%	1.2%	11.0%	10.8%	1.0%
H22(2年)	15.4%	4.7%	6.6%	18.4%	5.7%	23.5%	1.3%	12.0%	11.1%	1.1%
H21(2年)	15.0%	4.4%	5.6%	19.2%	4.8%	24.9%	1.3%	11.4%	12.1%	1.4%
H20(2年)	15.2%	4.5%	5.4%	19.9%	4.3%	23.9%	1.6%	11.4%	11.8%	1.2%

<分析> 「ほぼ毎日」学習しているは1年次より5.6ポイント減少, 前年度2年生より2.1ポイント減少

(5) 「学校での宿題・課題, 小テストの割合」

宿題・課題, 小テストが基礎・基本の定着に効果大

<学校からの宿題・課題の割合>

<学校での小テストの割合>

	ほとんど毎日	週に2~3回	週に1回ぐらい	ほとんど出 ていない
H24(2年)	15.8%	35.0%	38.2%	10.7%
H23(1年次)	22.9%	40.5%	30.4%	5.8%
H23(2年)	18.6%	32.9%	35.3%	12.9%
H22(2年)	16.1%	33.1%	37.9%	12.6%
H21(2年)	11.9%	28.3%	39.1%	20.4%
H20(2年)	11.1%	28.8%	40.1%	19.3%
H19(2年)	13.4%	29.1%	36.9%	19.5%

	ほとんど毎日	週に2~3回	週に1回 ぐらい	ほとんどない
H24(2年)	10.6%	36.4%	29.6%	23.1%
H23(1年次)	10.1%	36.4%	35.3%	18.0%
H23(2年)	14.1%	37.7%	29.6%	18.4%
H22(2年)	12.1%	36.6%	30.6%	20.2%
H21(2年)	11.9%	31.2%	31.5%	25.1%
H20(2年)	9.4%	35.2%	28.1%	26.6%

H20に新設した質問

<分析> 「ほとんど毎日」または「週に2~3回」宿題・課題が出されるのは, 1年次より12.6ポイント減少

「ほとんど毎日」または「週に2~3回」小テストがあるのは, 1年次より0.5ポイント増加

図10 宿題・課題の割合と共通問題の正答率との関係

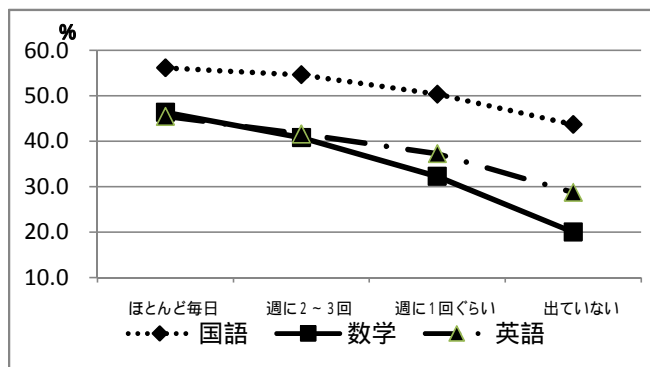
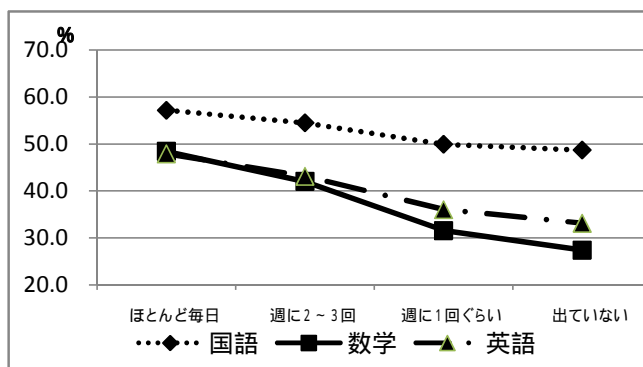


図11 小テストの割合と共通問題の正答率との関係



(6) 「家庭学習をする上で悩んでいること」

1年次に比べ「集中できない」が増加、「部活動との両立」は減少

	方法が分からない	集中できない	計画が長続きしない	部活動との両立	成績が伸びない	その他	特になし
H24(2年)	13.3%	29.7%	15.9%	16.0%	6.2%	3.0%	15.7%
H23(1年次)	14.0%	26.6%	15.2%	21.4%	6.4%	2.8%	13.4%
H23(2年)	13.4%	28.5%	14.7%	16.4%	7.3%	3.8%	15.8%
H22(2年)	14.6%	29.7%	15.1%	15.6%	6.4%	3.5%	14.8%
H21(2年)	13.4%	29.5%	15.7%	14.8%	6.9%	3.7%	15.9%
H20(2年)	12.7%	28.6%	15.5%	16.1%	6.3%	4.5%	15.5%

<分析> 1年次より「集中できない」が3.1ポイント増加。「部活動との両立」は5.4ポイント減少

(7) 「平日に家庭で最も時間をかけて行っていること」

「ゲームやインターネット」は前年度2年生より大幅増加

	家庭学習	テレビやビデオ	ゲームやインターネット	電話やメール	読書	自分の趣味	家族との対話	手伝い	その他
H24(2年)	7.0%	20.2%	22.7%	14.9%	3.5%	14.9%	4.4%	1.3%	10.7%
H23(1年次)	10.8%	19.6%	15.8%	17.8%	3.6%	14.9%	5.1%	1.4%	10.8%
H23(2年)	8.4%	21.8%	18.1%	15.9%	3.9%	15.0%	4.1%	1.2%	11.3%
H22(2年)	6.6%	23.2%	14.4%	17.8%	3.1%	17.2%	4.3%	1.3%	11.6%
H21(2年)	6.1%	26.3%	15.0%	16.0%	3.2%	16.6%	3.9%	1.5%	11.1%
H20(2年)	5.7%	25.3%	12.2%	18.1%	3.8%	16.7%	3.7%	1.3%	12.1%

* 「ゲームやインターネット」の項目は、H22までは「ゲームやパソコン」での調査結果である。

<分析> 「家庭学習」は前年度2年生より1.4ポイント減少。「ゲームやインターネット」は前年度2年生より4.6ポイント、1年次より6.9ポイント増加

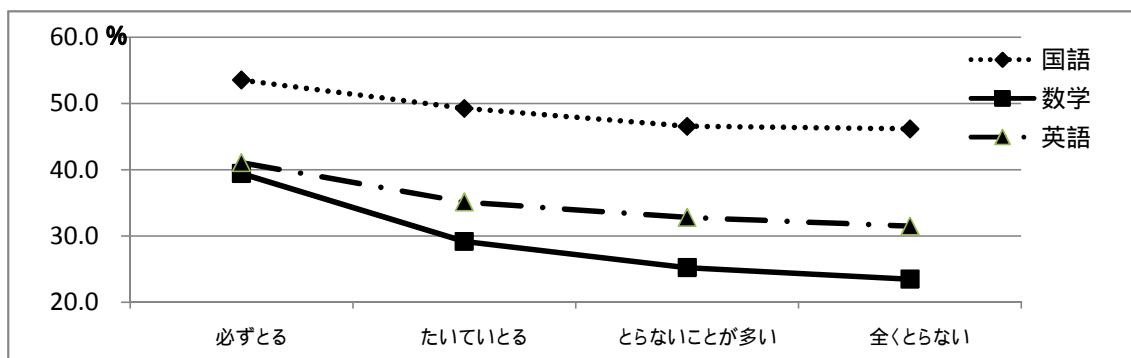
(8) 「学校に行く前に朝食をとるか」

朝食をとる生徒はすべての教科において高い正答率

	必ずとる	たいていとる	とらないことが多い	全くとらない
H24(2年)	73.7%	14.2%	6.5%	5.3%
H23(1年次)	77.3%	13.8%	5.1%	3.6%
H23(2年)	74.1%	14.8%	6.1%	4.8%
H22(2年)	74.3%	14.4%	5.5%	5.4%
H21(2年)	73.5%	14.3%	6.1%	5.9%
H20(2年)	71.9%	14.3%	6.8%	6.1%

<分析> 朝食を「必ずとる」または「たいていとる」は前年度2年生及び1年次より減少

図12 朝食習慣と共通問題の正答率



5 生活・「志教育」に関する意識調査の結果【平成25年度・新規】

「当てはまる」、「どちらかといえばあてはまる」と回答した割合が高い順に記載

生活全般	概ね8割の生徒が充実感を感じ、安定しているが、 2割の生徒が不安定な状況にあり早急な対応が必要	1年生	2年生
毎日同じくらいの時刻に起きている		94.7%	94.4%
友達と、良く話しをする		93.2%	92.8%
食欲がある		92.4%	91.5%
楽しく過ごすことが多い		86.4%	83.0%
体調は良い		82.1%	80.7%
人が困っている時は、進んで助ける		82.0%	79.6%
熟睡できている		78.1%	77.5%
毎日同じくらいの時刻に寝ている		75.6%	75.2%
学校生活に充実感を感じている		78.1%	70.7%
趣味の時間を確保している		71.7%	73.1%
のんびりと過ごす時間がある		70.8%	73.2%
新聞やテレビのニュース等に関心がある		58.3%	59.7%
つまらなく過ごすことが多い		21.1%	26.8%
心配なことがあり、学校生活に集中できない		21.4%	24.7%
感情の起伏を抑えられないことが多い		20.7%	23.6%
勉強について 部活について	勉強に集中できるは5割、部活に集中できるは8割 勉強に集中できる生徒を増やすことが課題	1年生	2年生
・ 勉強と部活の両立を目指している		78.5%	69.5%
・ 部活動に集中できている		78.5%	69.1%
・ 集中して勉強できる		51.5%	46.5%
・ 勉強できることがうれしい		38.3%	34.6%
「志教育」関係 の達成度 (自己理解)	「かかわる」は9割、「もとめる」と「はたす」は8割達成 挑戦意欲、情報発信、ボランティアに課題	1年生	2年生
・ 自分の長所を伸ばそうとしている		94.7%	94.7%
・ 自分の個性や適性が分かっている		70.4%	67.2%
(かかわる)			
・ 相手の言葉や意見に耳を傾けるようにしている		94.6%	93.9%
・ 相手の個性や考えを受け入れるようにしている		93.2%	91.7%
・ 時と場に応じた言葉づかいをしている		91.8%	90.0%
・ 仲間と力を合わせて活動しようとしている		90.3%	87.9%
・ 自分の考えを相手に的確に伝えている		67.0%	64.0%
(もとめる)			
・ 人の役に立つ人間になりたい		91.2%	87.2%
・ 夢中になれることがある		87.9%	84.6%
・ 一度はじめたことは最後までやり遂げる		82.7%	80.6%
・ 難しいことでも挑戦することが多い		59.4%	56.4%
(はたす)			
・ 校則や公共のルール・マナーを守っている		92.5%	89.8%
・ 自分の役割に責任を持って行動している		87.1%	85.9%
・ 働くことの意義を理解している		80.3%	78.5%
・ クラスや学校の行事等に積極的に取り組んでいる		79.3%	74.6%
・ ボランティア活動や地域の活動に進んで参加している		16.9%	22.7%

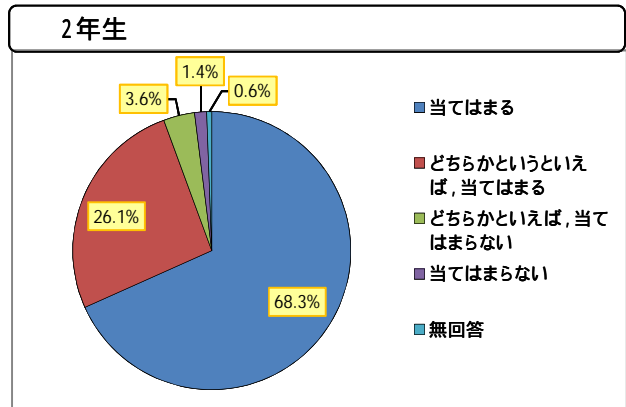
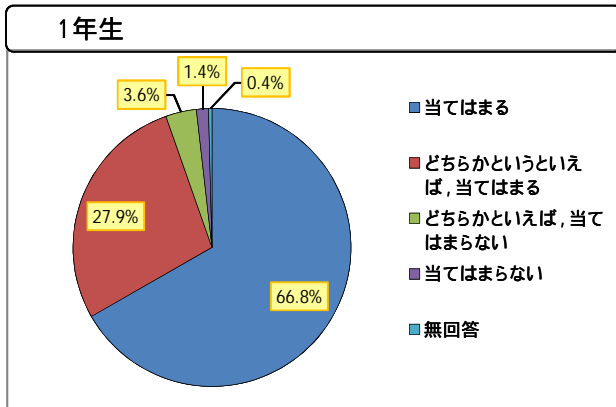
Q 2 6 以降の質問毎集計 学年比較

Q 2 6 ~ Q 3 0

起床時刻がほぼ安定している生徒は95%と多い。
就寝時刻が安定、熟睡できている、体調が良い、の3項目に概ね当てはまると答えた生徒はそれぞれ約75%。
逆に、就寝時刻が不規則、熟睡できない、体調が良くないという生徒はそれぞれ約25%。
生活リズムの維持や体調管理に問題を抱える生徒が約25%おり心配される。
食欲があるは9割を越え、健康そのもの。

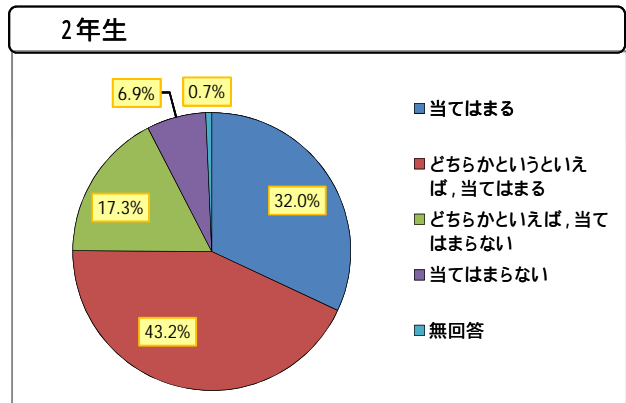
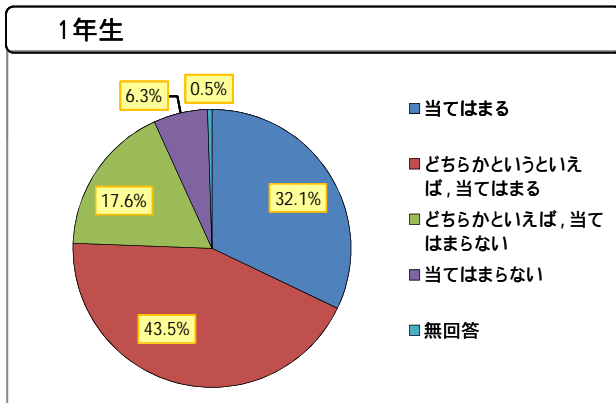
【生活習慣について】

Q26 毎日同じくらいの時刻に起きている



	1の%	2の%	3の%	4の%	無回答	総データ
1年生	66.8%	27.9%	3.6%	1.4%	0.4%	100.0%
2年生	68.3%	26.1%	3.6%	1.4%	0.6%	100.0%

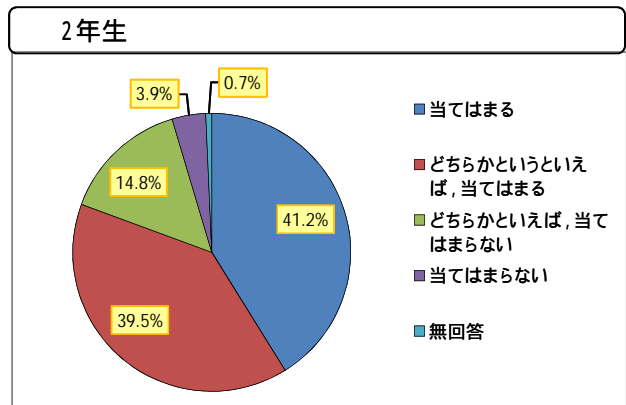
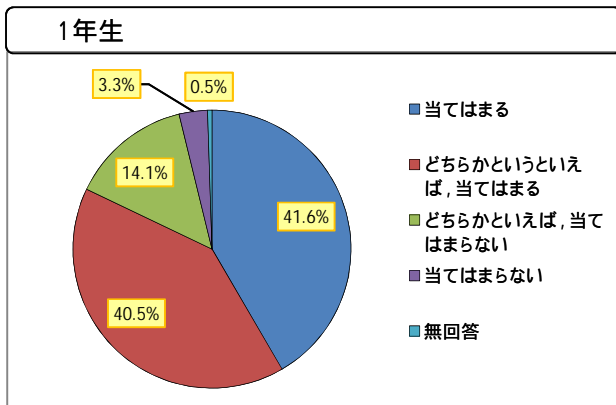
Q27 毎日同じくらいの時刻に寝ている



	1の%	2の%	3の%	4の%	無回答	総データ
1年生	32.1%	43.5%	17.6%	6.3%	0.5%	100.0%
2年生	32.0%	43.2%	17.3%	6.9%	0.7%	100.0%

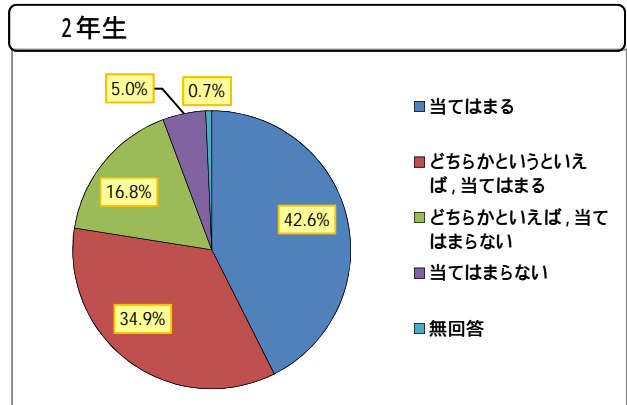
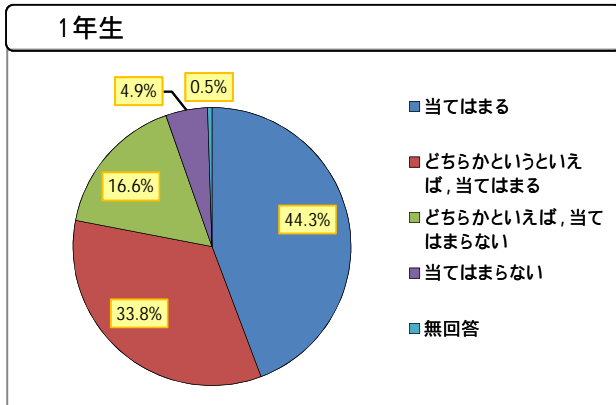
【身体や心のようすについて】

Q28 体調はよい



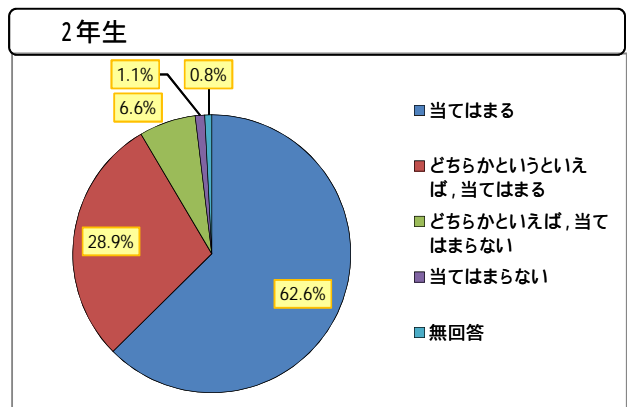
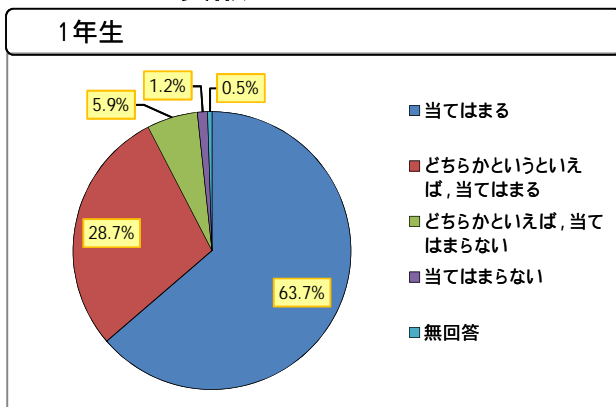
	1の%	2の%	3の%	4の%	無回答	総データ
1年生	41.6%	40.5%	14.1%	3.3%	0.5%	100.0%
2年生	41.2%	39.5%	14.8%	3.9%	0.7%	100.0%

Q29 熟睡ができています



	1の%	2の%	3の%	4の%	無回答	総データ
1年生	44.3%	33.8%	16.6%	4.9%	0.5%	100.0%
2年生	42.6%	34.9%	16.8%	5.0%	0.7%	100.0%

Q30 食欲はある

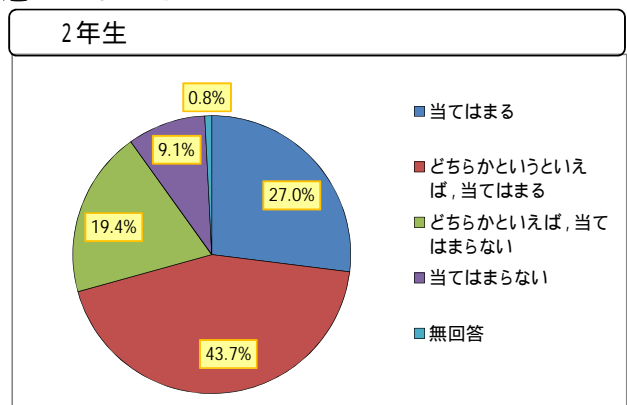
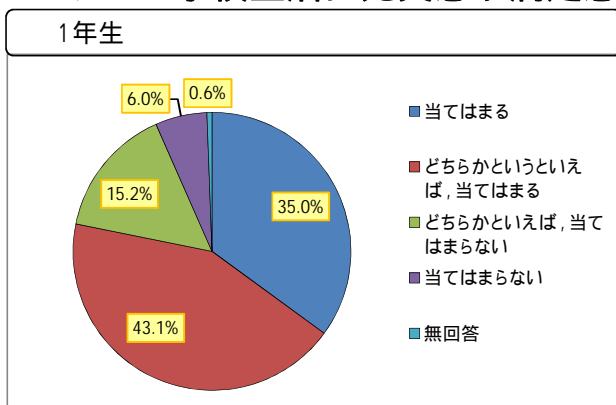


	1の%	2の%	3の%	4の%	無回答	総データ
1年生	63.7%	28.7%	5.9%	1.2%	0.5%	100.0%
2年生	62.6%	28.9%	6.6%	1.1%	0.8%	100.0%

Q31～Q33

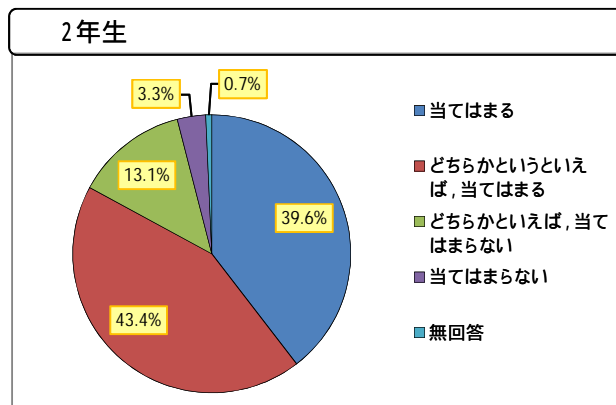
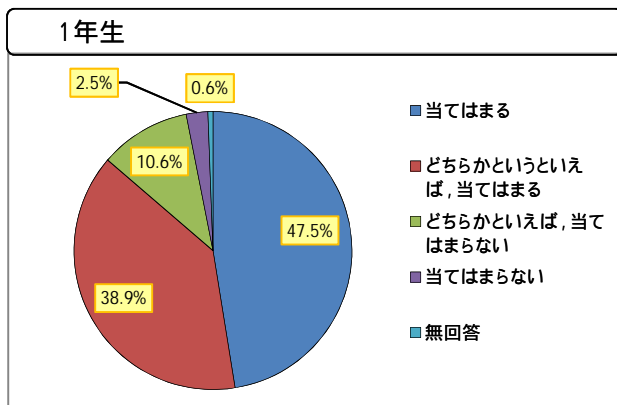
学校生活への充実感・満足を感じるが約75%、楽しく過ごす、友達と良く話しをするが約9割おり、高校生生活を友人とともに楽しく過ごしている者が多い。
 逆に、学校生活に満足を感じられないが約3割、楽しく過ごせないが約1割、友達と良く話しをするに当てはまらないが約5%程度おり、これらに当てはまる生徒のケアが必要と思われる。特に、2年生においては、学校生活の充実感・満足感の低下がみられることから、個人面談等の実施が望ましいと思われる。

Q31 学校生活に充実感や満足感を感じている



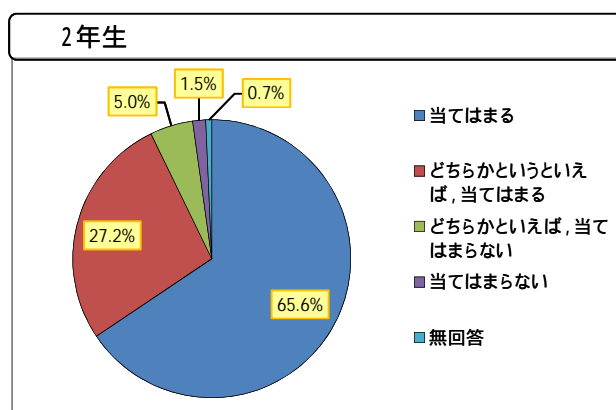
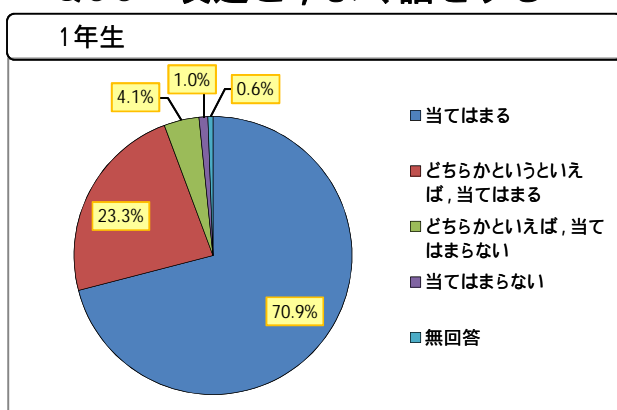
	1の%	2の%	3の%	4の%	無回答	総データ
1年生	35.0%	43.1%	15.2%	6.0%	0.6%	100.0%
2年生	27.0%	43.7%	19.4%	9.1%	0.8%	100.0%

Q32 楽しく過ごすことが多い



	1の%	2の%	3の%	4の%	無回答	総データ
1年生	47.5%	38.9%	10.6%	2.5%	0.6%	100.0%
2年生	39.6%	43.4%	13.1%	3.3%	0.7%	100.0%

Q33 友達と、よく話をする



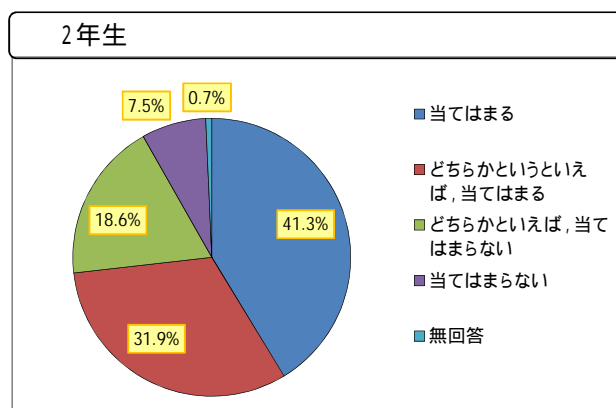
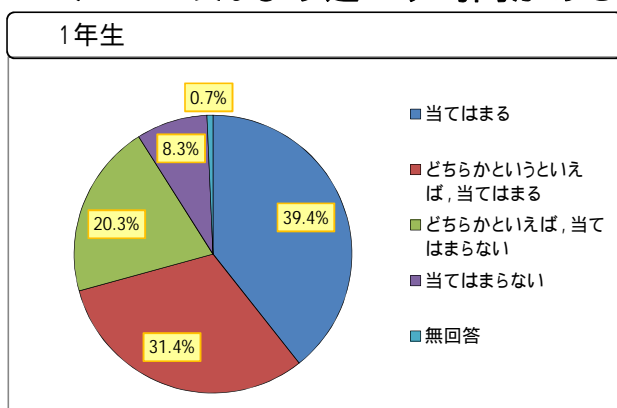
	1の%	2の%	3の%	4の%	無回答	総データ
1年生	70.9%	23.3%	4.1%	1.0%	0.6%	100.0%
2年生	65.6%	27.2%	5.0%	1.5%	0.7%	100.0%

Q34 ~ Q37

人が困っている時は進んで助けるようにしているは約8割、のんびりと過ごす時間がある、趣味の時間を確保しているは約7割、ニュースに関心があるは約6割で、時間の確保、外界への関心は概ね好調。

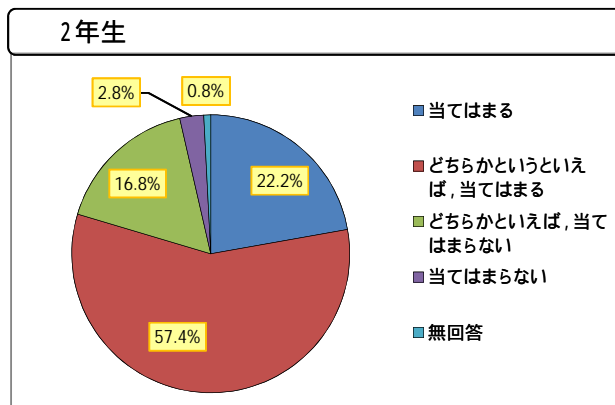
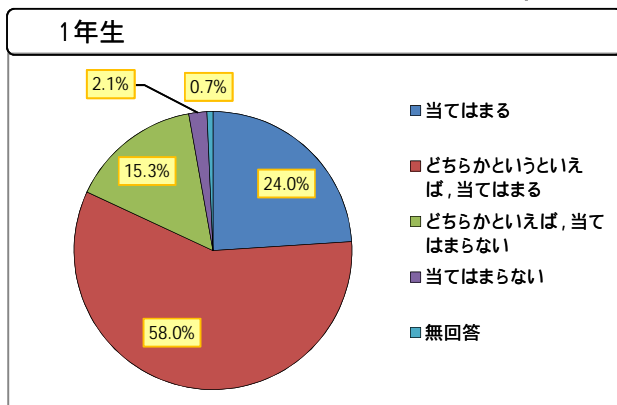
逆に、のんびり過ごす時間がない、趣味の時間が取れないが3割、困っている人を助けることができないが2割、ニュースに関心がない4割あり、忙しい等の理由から他人や外界に関心が持てなくなっている生徒も多く心配される。

Q34 のんびり過ごす時間がある



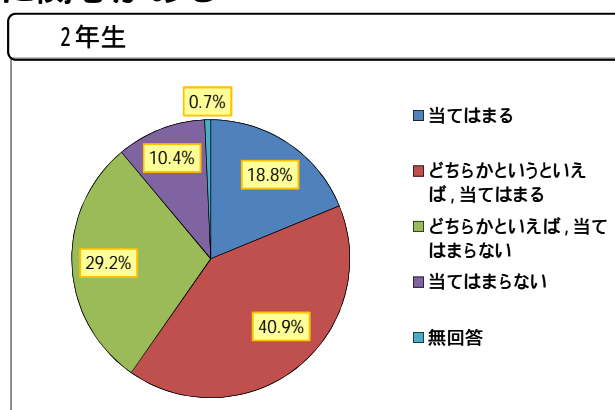
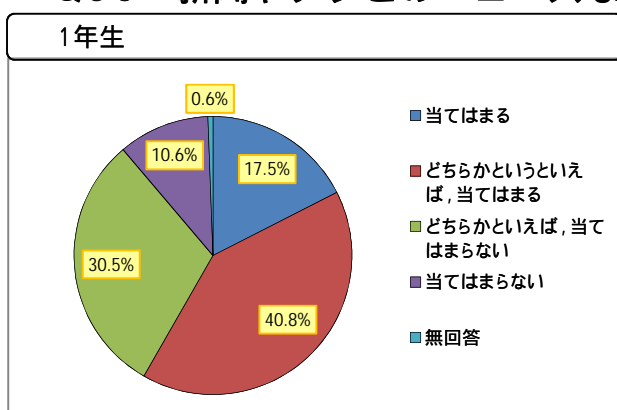
	1の%	2の%	3の%	4の%	無回答	総データ
1年生	39.4%	31.4%	20.3%	8.3%	0.7%	100.0%
2年生	41.3%	31.9%	18.6%	7.5%	0.7%	100.0%

Q35 人が困っている時は、進んで助けるようにしている



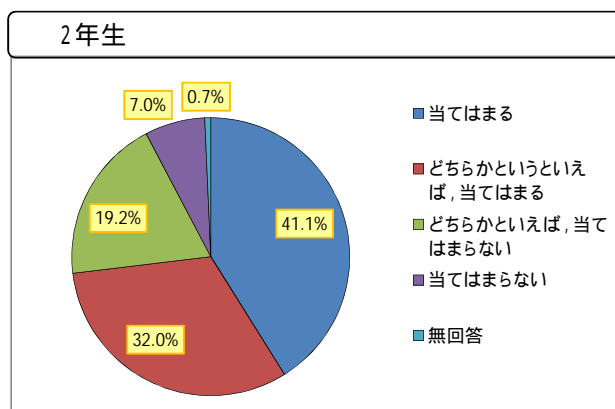
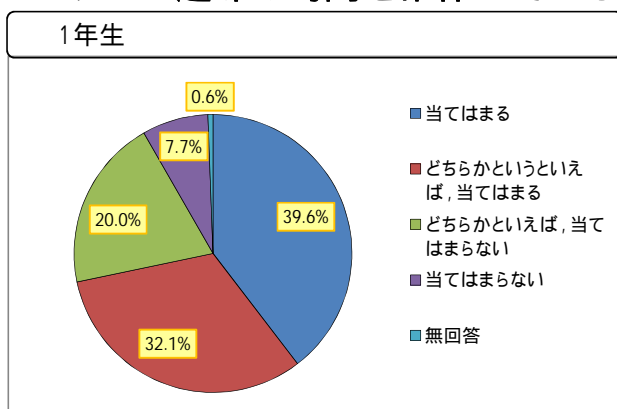
	1の%	2の%	3の%	4の%	無回答	総データ
1年生	24.0%	58.0%	15.3%	2.1%	0.7%	100.0%
2年生	22.2%	57.4%	16.8%	2.8%	0.8%	100.0%

Q36 新聞やテレビのニュースなどに関心がある



	1の%	2の%	3の%	4の%	無回答	総データ
1年生	17.5%	40.8%	30.5%	10.6%	0.6%	100.0%
2年生	18.8%	40.9%	29.2%	10.4%	0.7%	100.0%

Q37 趣味の時間を確保している

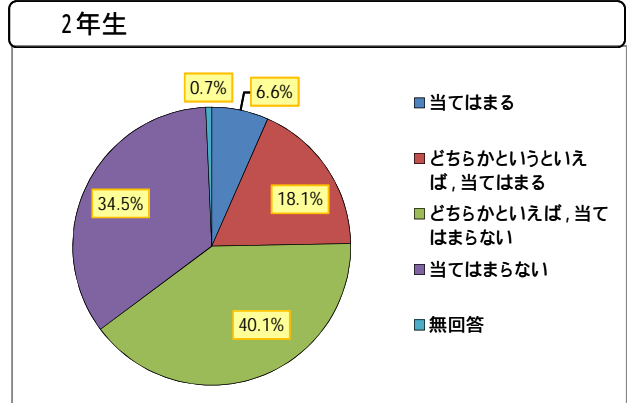
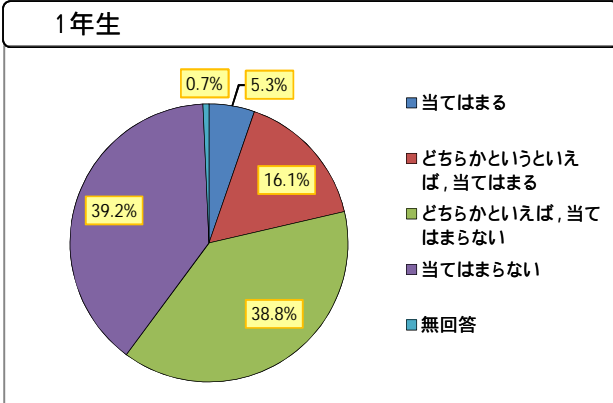


	1の%	2の%	3の%	4の%	無回答	総データ
1年生	39.6%	32.1%	20.0%	7.7%	0.6%	100.0%
2年生	41.1%	32.0%	19.2%	7.0%	0.7%	100.0%

Q38～Q40

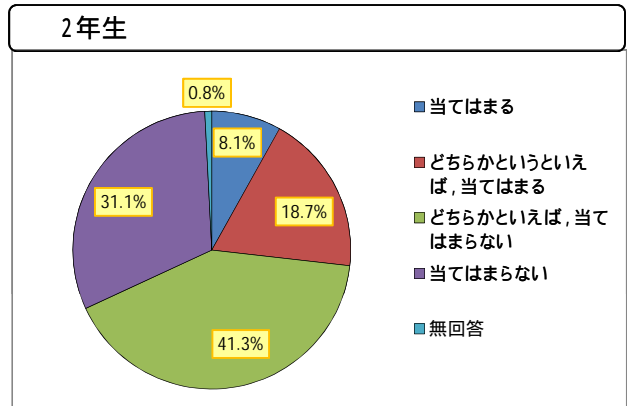
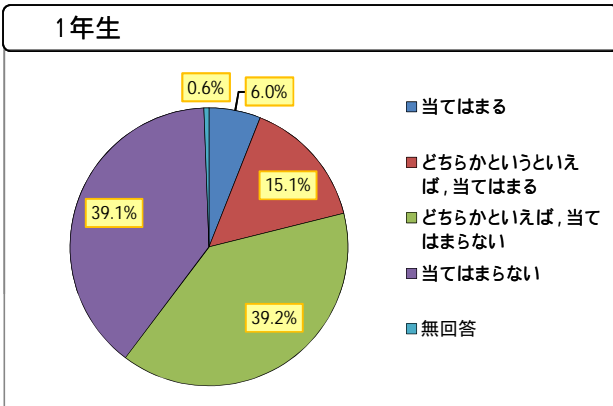
学校生活に集中できない、つまらなく過ごすことが多い、感情の起伏を抑えられないことが多いという生徒がそれぞれ約25%と一定数おり、心配される。いずれも、2年生の方が、若干多く、学校生活に充実感・満足感を得られないことに関係していることが、クロス集計から見られる

Q38 心配なことがあり、学校生活に集中できない



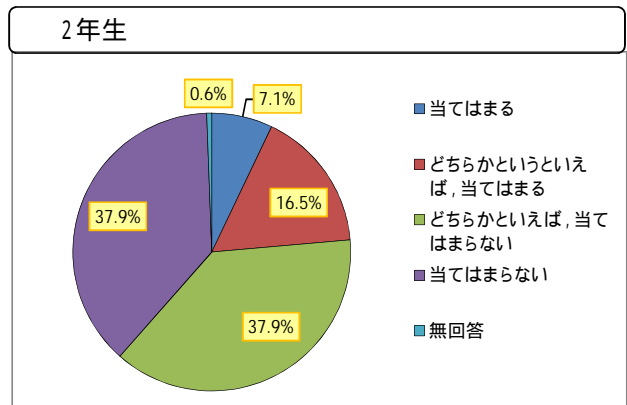
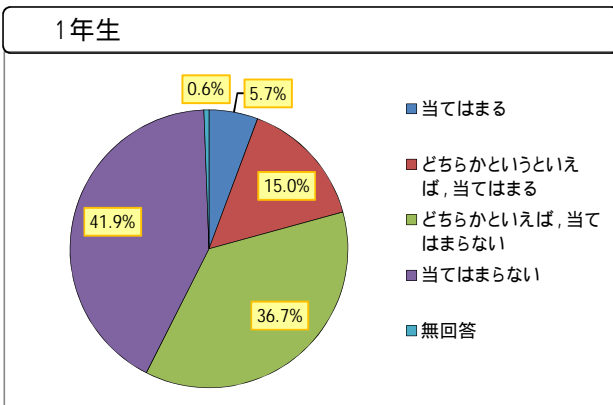
	1の%	2の%	3の%	4の%	無回答	総データ
1年生	5.3%	16.1%	38.8%	39.2%	0.7%	100.0%
2年生	6.6%	18.1%	40.1%	34.5%	0.7%	100.0%

Q39 つまらなく過ごすことが多い



	1の%	2の%	3の%	4の%	無回答	総データ
1年生	6.0%	15.1%	39.2%	39.1%	0.6%	100.0%
2年生	8.1%	18.7%	41.3%	31.1%	0.8%	100.0%

Q40 感情の起伏を抑えられないことが多い



	1の%	2の%	3の%	4の%	無回答	総データ
1年生	5.7%	15.0%	36.7%	41.9%	0.6%	100.0%
2年生	7.1%	16.5%	37.9%	37.9%	0.6%	100.0%

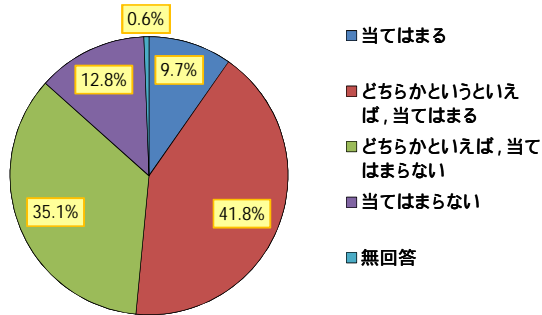
【勉強について】

Q4 1 ~ Q4 2

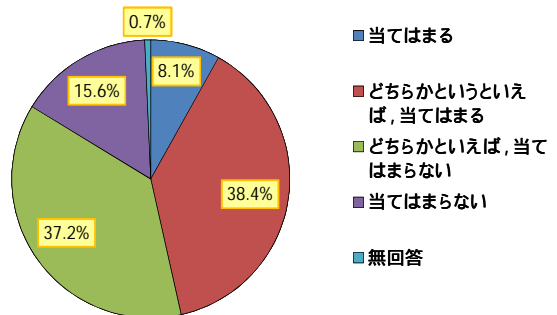
勉強に集中できるのは5割、勉強できることがうれしいは4割で、勉強に向いている生徒は約半数。比較的、勉強に取り組もうとする意欲は見られる。

Q4 1 集中して勉強できている

1年生



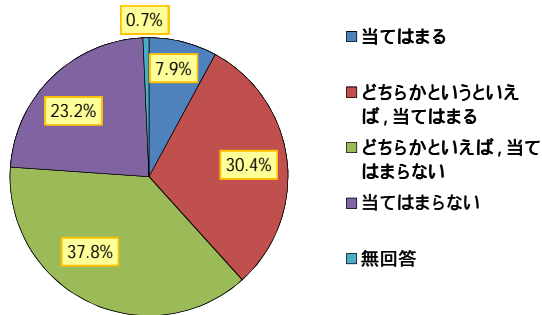
2年生



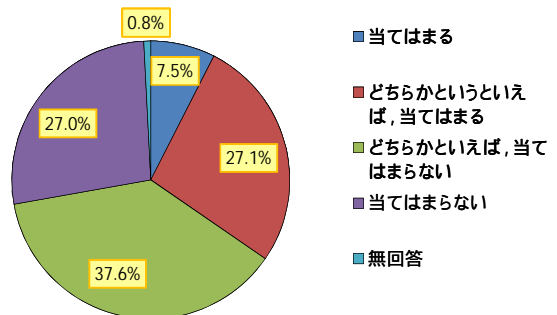
	1の%	2の%	3の%	4の%	無回答	総データ
1年生	9.7%	41.8%	35.1%	12.8%	0.6%	100.0%
2年生	8.1%	38.4%	37.2%	15.6%	0.7%	100.0%

Q4 2 勉強できることがうれしい

1年生



2年生



	1の%	2の%	3の%	4の%	無回答	総データ
1年生	7.9%	30.4%	37.8%	23.2%	0.7%	100.0%
2年生	7.5%	27.1%	37.6%	27.0%	0.8%	100.0%

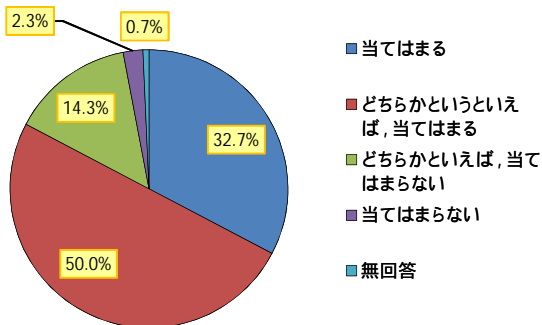
【意欲について】

Q4 3 ~ Q4 6

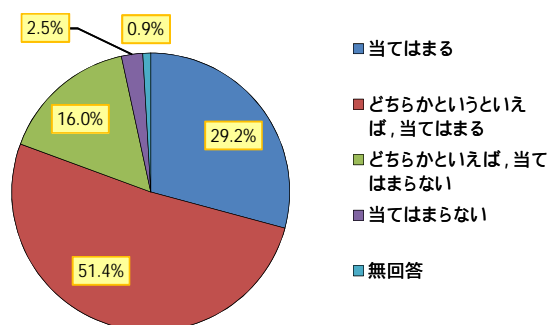
一度始めたことは最後までやり遂げるようにしている、は8割、人の役に立つ人間になりたいと思っている、夢中になれることがある、は9割。

Q4 3 一度始めたことは最後までやり遂げるようにしている

1年生

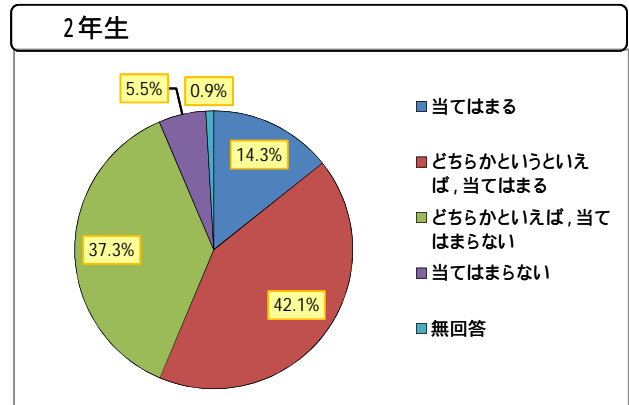
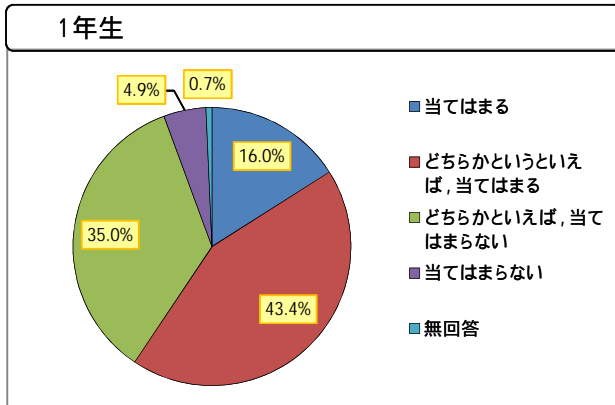


2年生



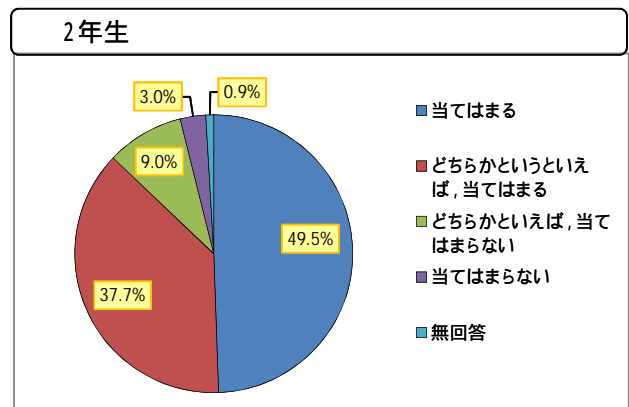
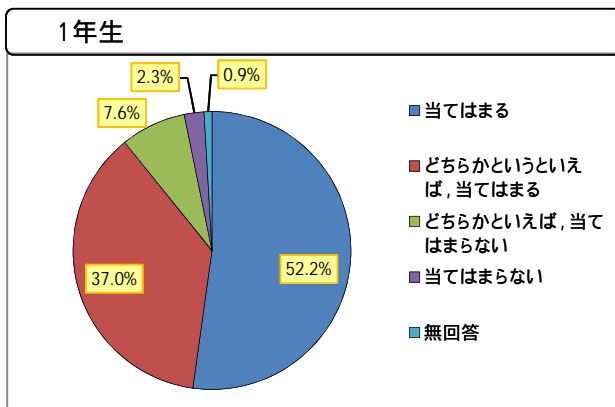
	1の%	2の%	3の%	4の%	無回答	総データ
1年生	32.7%	50.0%	14.3%	2.3%	0.7%	100.0%
2年生	29.2%	51.4%	16.0%	2.5%	0.9%	100.0%

Q44 難しいことでも挑戦することが多い



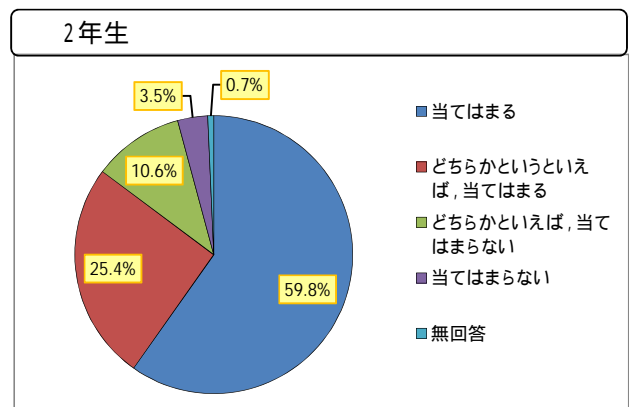
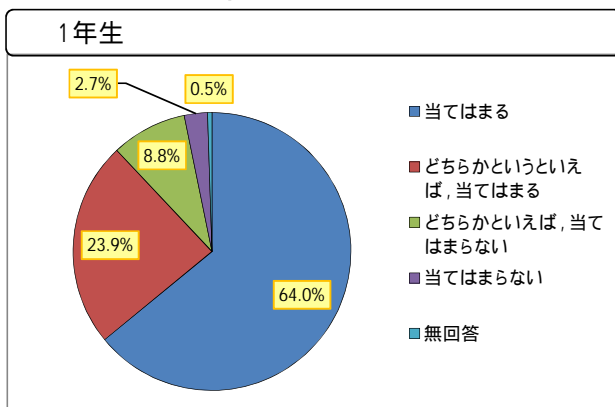
	1の%	2の%	3の%	4の%	無回答	総データ
1年生	16.0%	43.4%	35.0%	4.9%	0.7%	100.0%
2年生	14.3%	42.1%	37.3%	5.5%	0.9%	100.0%

Q45 人の役に立つ人間になりたいと思っている



	1の%	2の%	3の%	4の%	無回答	総データ
1年生	52.2%	37.0%	7.6%	2.3%	0.9%	100.0%
2年生	49.5%	37.7%	9.0%	3.0%	0.9%	100.0%

Q46 夢中になれることがある

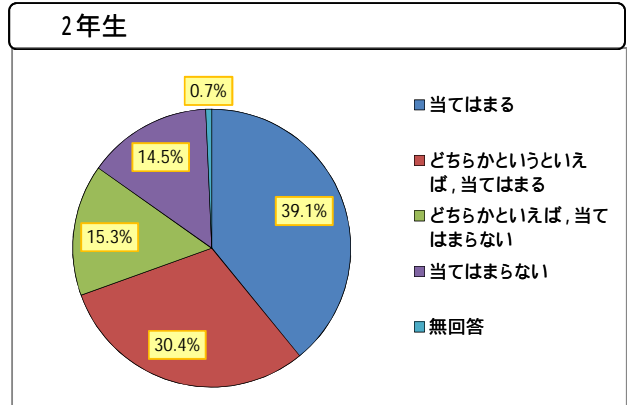
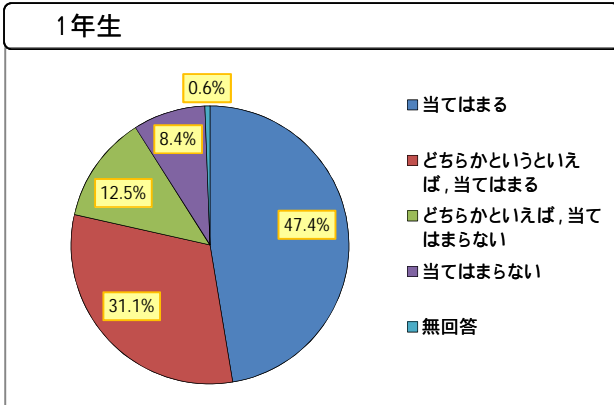


	1の%	2の%	3の%	4の%	無回答	総データ
1年生	64.0%	23.9%	8.8%	2.7%	0.5%	100.0%
2年生	59.8%	25.4%	10.6%	3.5%	0.7%	100.0%

Q47～Q48

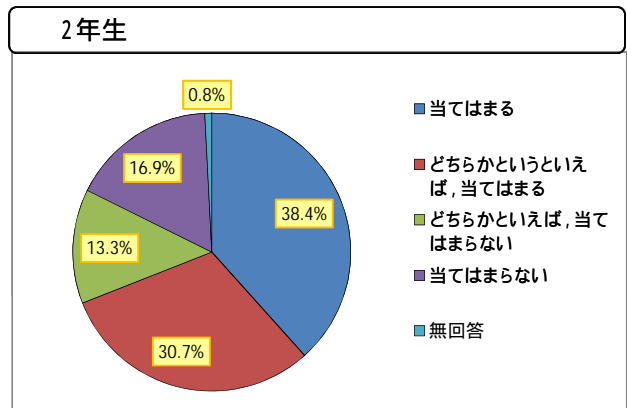
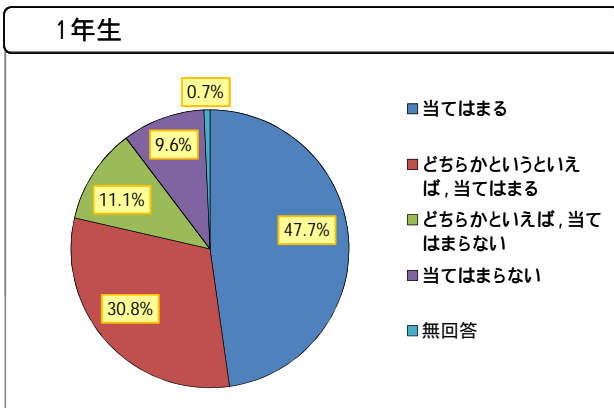
部活に集中できる、勉強と部活の両立を目指しているは1年生で8割、2年生で7割で、部活に気持ちが向いている生徒は勉強中心の生徒より多い。

Q47 勉強と部活動の両立を目指している



	1の%	2の%	3の%	4の%	無回答	総データ
1年生	47.4%	31.1%	12.5%	8.4%	0.6%	100.0%
2年生	39.1%	30.4%	15.3%	14.5%	0.7%	100.0%

Q48 部活動に集中できている



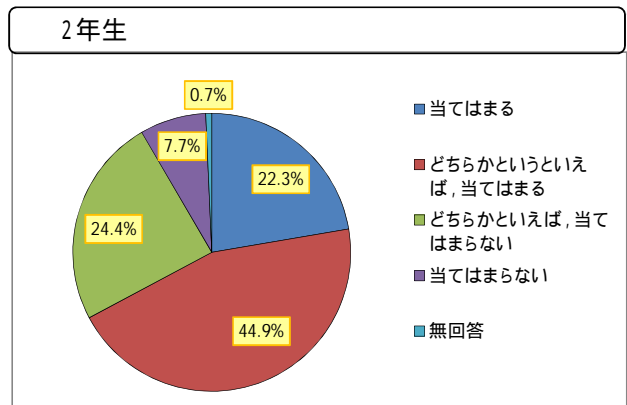
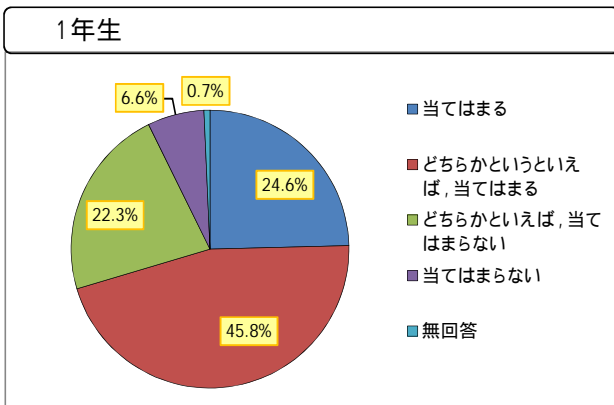
	1の%	2の%	3の%	4の%	無回答	総データ
1年生	47.7%	30.8%	11.1%	9.6%	0.7%	100.0%
2年生	38.4%	30.7%	13.3%	16.9%	0.8%	100.0%

【志について】

Q49～Q50

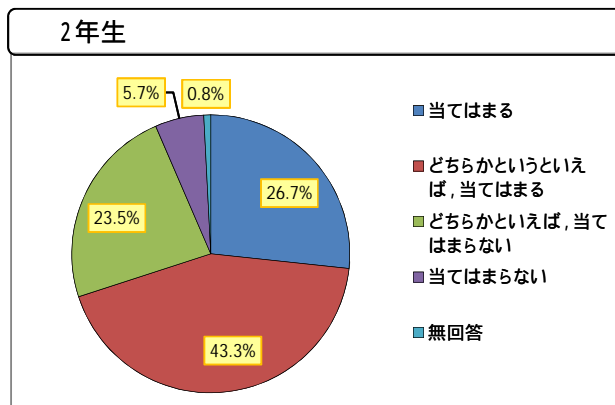
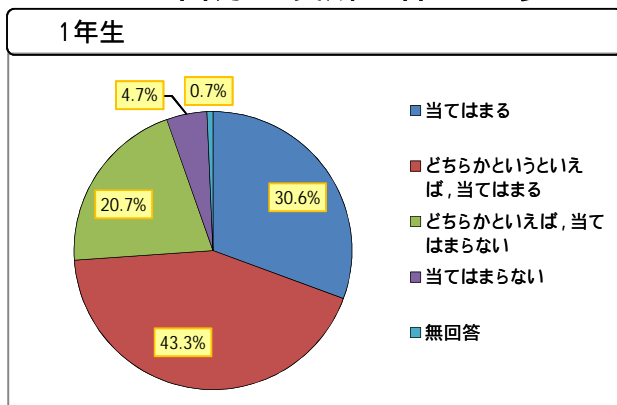
自分の個性、適性が分かっている。自分の長を伸ばそうとしているは、1年生で75%。2年生で70%。

Q49 自分の個性や適性が分かっている



	1の%	2の%	3の%	4の%	無回答	総データ
1年生	24.6%	45.8%	22.3%	6.6%	0.7%	100.0%
2年生	22.3%	44.9%	24.4%	7.7%	0.7%	100.0%

Q50 自分の長所を伸ばそうとしている

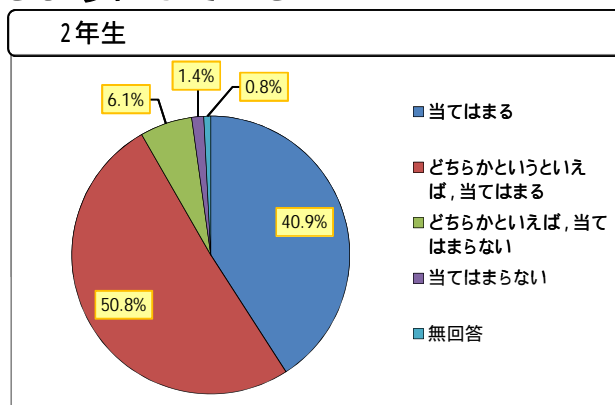
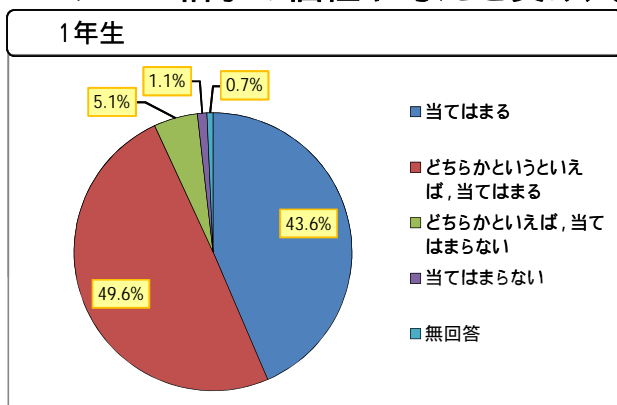


	1の%	2の%	3の%	4の%	無回答	総データ
1年生	30.6%	43.3%	20.7%	4.7%	0.7%	100.0%
2年生	26.7%	43.3%	23.5%	5.7%	0.8%	100.0%

Q51 ~ Q56

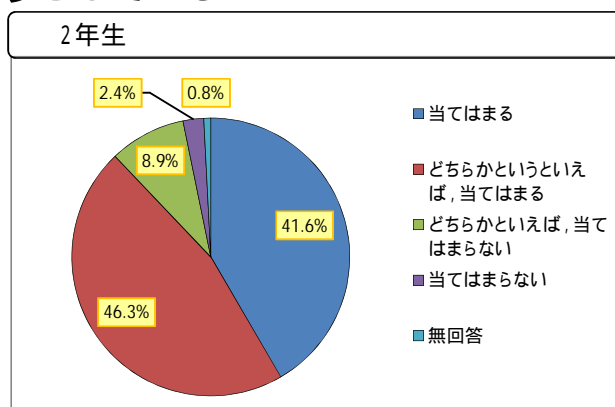
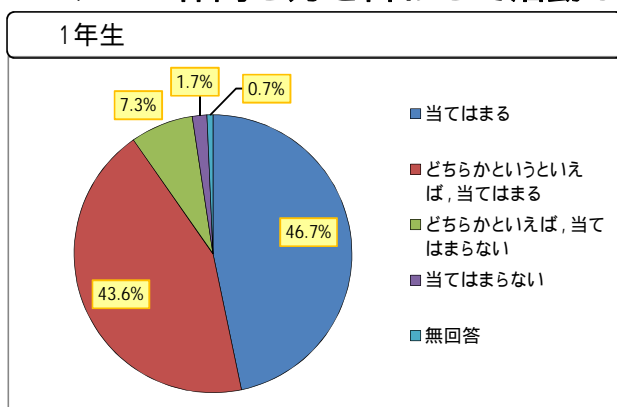
相手の個性や考えを受け入れるようにしている、仲間と力を合わせて活動しようとしている、相手の言葉や意見に耳を傾けるようにしている、時と場に応じた言葉遣いをしている、はいずれも9割以上。一方、自分の考えを相手に的確に伝えている、働くことの意義を理解している、は7割~8割。

Q51 相手の個性や考えを受け入れるようにしている



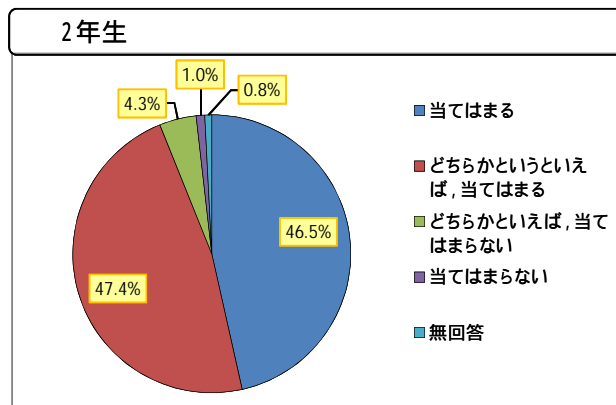
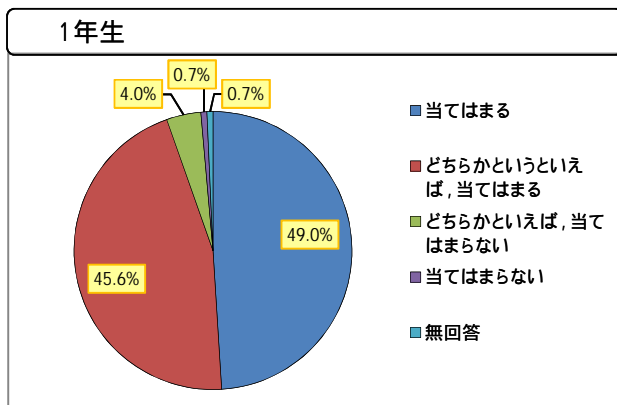
	1の%	2の%	3の%	4の%	無回答	総データ
1年生	43.6%	49.6%	5.1%	1.1%	0.7%	100.0%
2年生	40.9%	50.8%	6.1%	1.4%	0.8%	100.0%

Q52 仲間と力を合わせて活動しようとしている



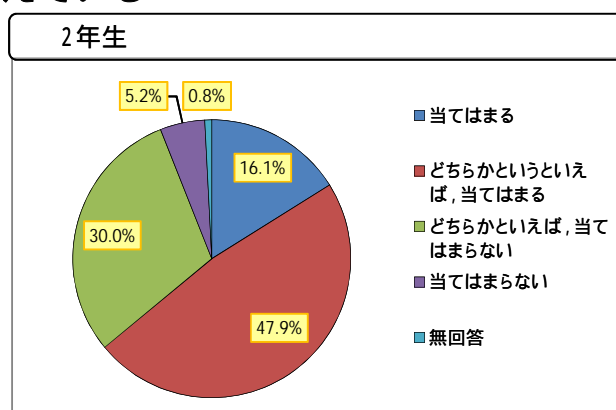
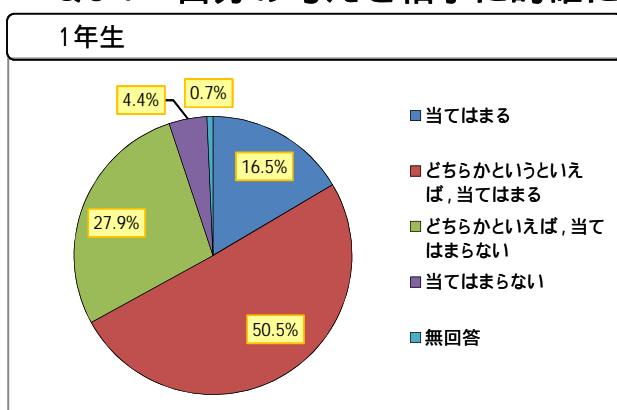
	1の%	2の%	3の%	4の%	無回答	総データ
1年生	46.7%	43.6%	7.3%	1.7%	0.7%	100.0%
2年生	41.6%	46.3%	8.9%	2.4%	0.8%	100.0%

Q53 相手の言葉や意見に耳を傾けるようにしている



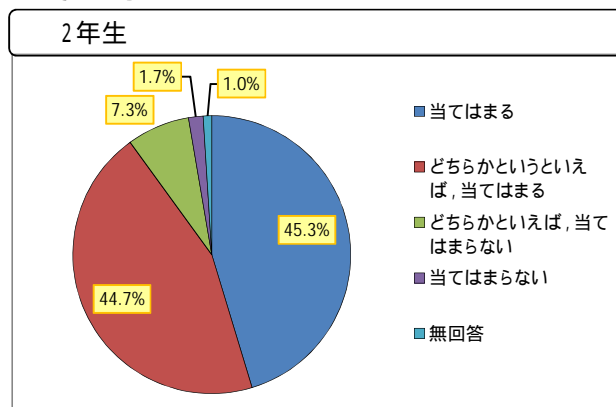
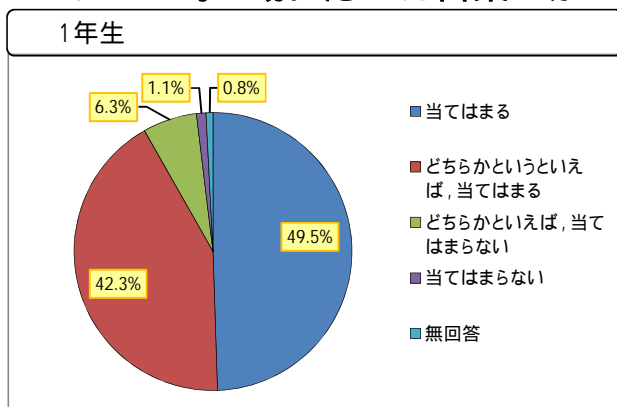
	1の%	2の%	3の%	4の%	無回答	総データ
1年生	49.0%	45.6%	4.0%	0.7%	0.7%	100.0%
2年生	46.5%	47.4%	4.3%	1.0%	0.8%	100.0%

Q54 自分の考えを相手に的確に伝えている



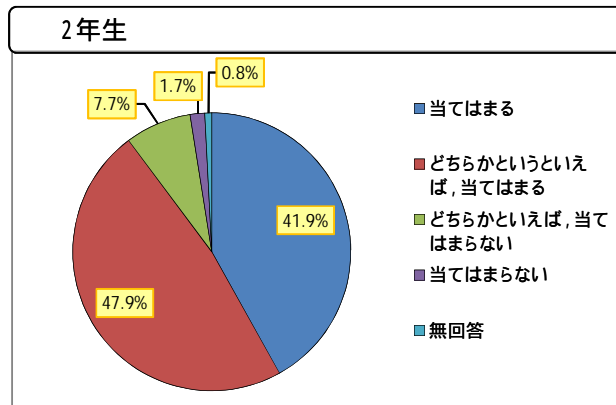
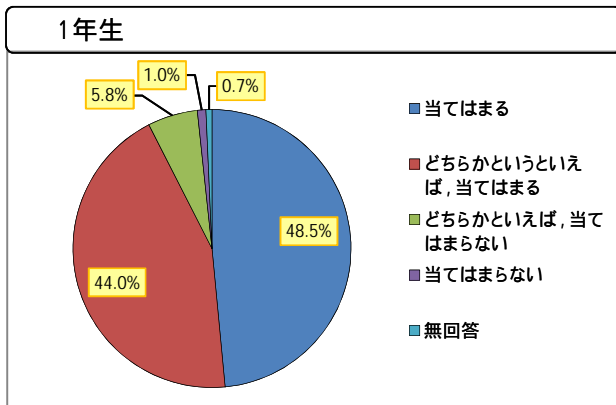
	1の%	2の%	3の%	4の%	無回答	総データ
1年生	16.5%	50.5%	27.9%	4.4%	0.7%	100.0%
2年生	16.1%	47.9%	30.0%	5.2%	0.8%	100.0%

Q55 時と場に応じた言葉づかいをしている



	1の%	2の%	3の%	4の%	無回答	総データ
1年生	49.5%	42.3%	6.3%	1.1%	0.8%	100.0%
2年生	45.3%	44.7%	7.3%	1.7%	1.0%	100.0%

Q56 校則や公共のルール・マナーを守っている

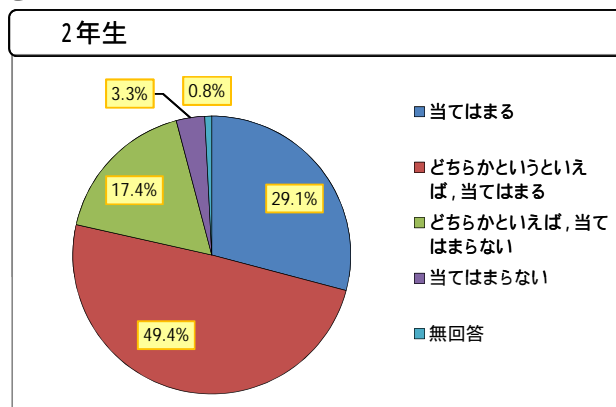
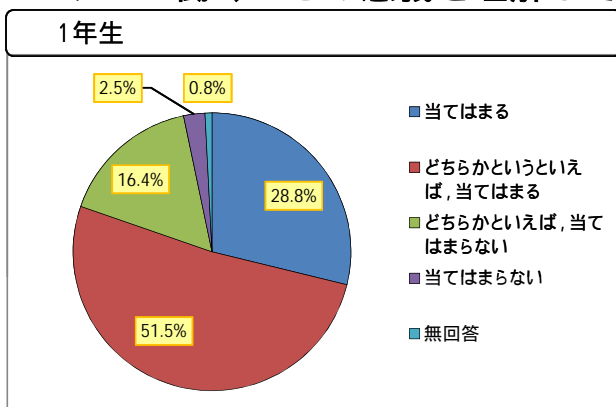


	1の%	2の%	3の%	4の%	無回答	総データ
1年生	48.5%	44.0%	5.8%	1.0%	0.7%	100.0%
2年生	41.9%	47.9%	7.7%	1.7%	0.8%	100.0%

Q57 ~ Q60

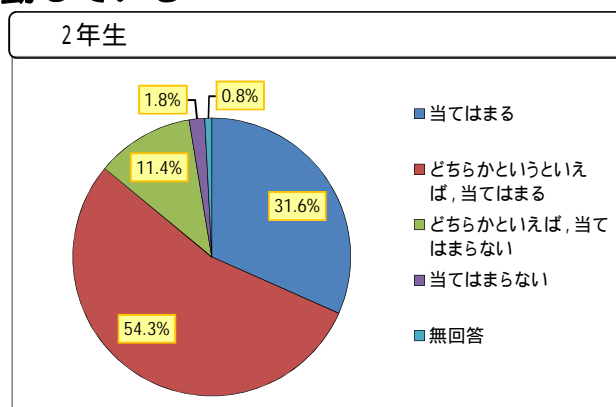
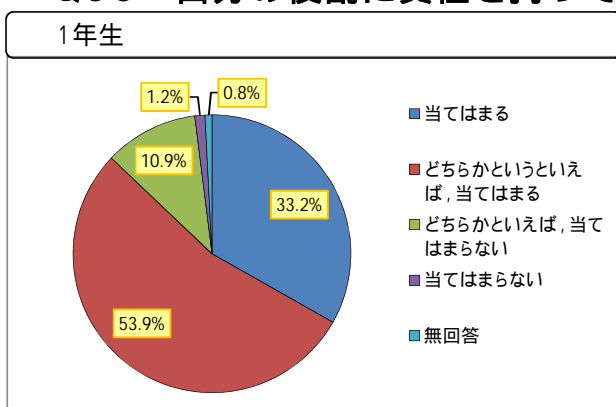
働くことの意義を理解しているは8割, 自分の役割に責任を持って行動しているは9割, クラスを学校の行事等に積極的に取り組んでいるは75%, ボランティア活動や地域の活動に進んで参加しているは25%

Q57 働くことの意義を理解している



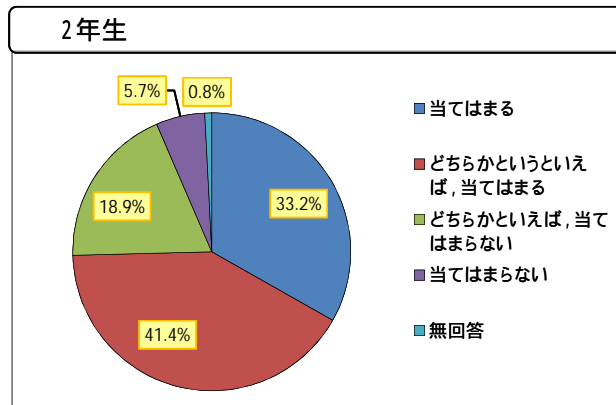
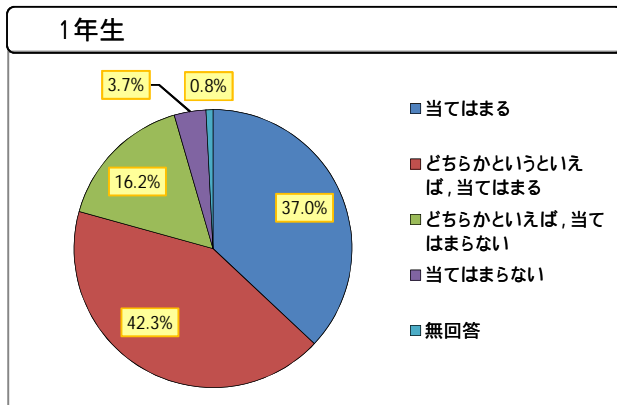
	1の%	2の%	3の%	4の%	無回答	総データ
1年生	28.8%	51.5%	16.4%	2.5%	0.8%	100.0%
2年生	29.1%	49.4%	17.4%	3.3%	0.8%	100.0%

Q58 自分の役割に責任を持って行動している



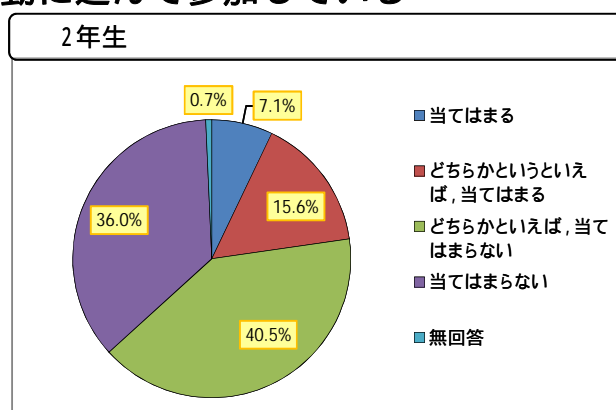
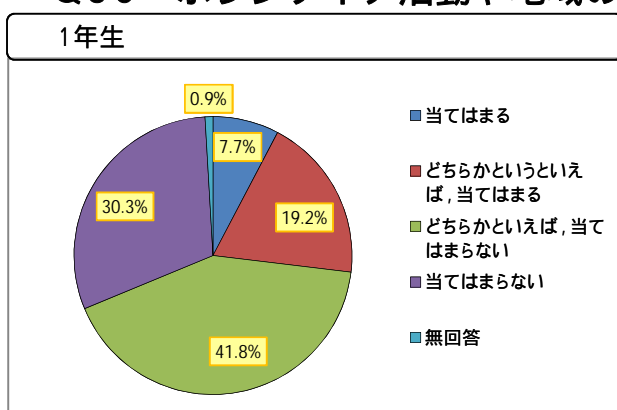
	1の%	2の%	3の%	4の%	無回答	総データ
1年生	33.2%	53.9%	10.9%	1.2%	0.8%	100.0%
2年生	31.6%	54.3%	11.4%	1.8%	0.8%	100.0%

Q59 クラスや学校の行事等に積極的に取り組んでいる



	1の%	2の%	3の%	4の%	無回答	総データ
1年生	37.0%	42.3%	16.2%	3.7%	0.8%	100.0%
2年生	33.2%	41.4%	18.9%	5.7%	0.8%	100.0%

Q60 ボランティア活動や地域の活動に進んで参加している



	1の%	2の%	3の%	4の%	無回答	総データ
1年生	7.7%	19.2%	41.8%	30.3%	0.9%	100.0%
2年生	7.1%	15.6%	40.5%	36.0%	0.7%	100.0%

【まとめ：Q26～Q60】

- ・ほとんどの項目を通して、約7割～8割の生徒は、肯定的な回答をしており、学校生活だけでなく、基本的な生活について、身体や心のようすについて、勉強について、意欲について、志について等、心の有り様については、概ね良好であると思われる。
- ・1年生と2年生の比較では、大きな差異は見られないものの、学校生活に関する項目は、1年生より低い傾向が見られる。
- ・調査項目に対して、震災が大きく影響しているとは判断できないが、各項目を通して、前向きな回答をしていない生徒が1割～2割おり、それらの生徒に対して、面談等を通じた早急な手当てが求められることから、各校での対応が必要である。

学力向上に向けた今後の取組

【各学校の取組】

授業の質の向上と家庭学習習慣の確立に向けた取組により「確かな学力」の育成を目指す。

授業改善の推進

授業理解度は上昇傾向にあるが、授業が理解できないとする生徒が半分程度いることから「分かる授業」「考えさせる授業」の実践など授業改善に向けた取組の一層の充実が望まれる。

家庭学習時間の確保

学習記録簿の活用，家庭学習計画立案の指導，毎日の適度な量と質の宿題，授業における小テストの実施などの工夫により，家庭学習の習慣付けのための取組の継続が望まれる。

「志教育」の充実，様々な学習機会の提供

授業や総合的な学習の時間など，あらゆる教育場面を効果的に利用しての「志教育」の推進，朝自習や朝読書，放課後学習会など，様々な学習機会を提供する取組の継続が望まれる。

家庭と学校との連携

家庭学習上の悩みとして「家庭学習に集中できない」と答える生徒の割合が多いことから，個別面談やカウンセリングの実施に加え，家庭と学校とのより一層の連携強化が望まれる。

【県教育委員会の取組】

研修会等による教員の資質向上と各種事業の展開により高校生の「学力向上」を支援する。

調査の継続的实施

学力状況調査，意識調査を継続的に行い，状況を正確に把握し続ける。

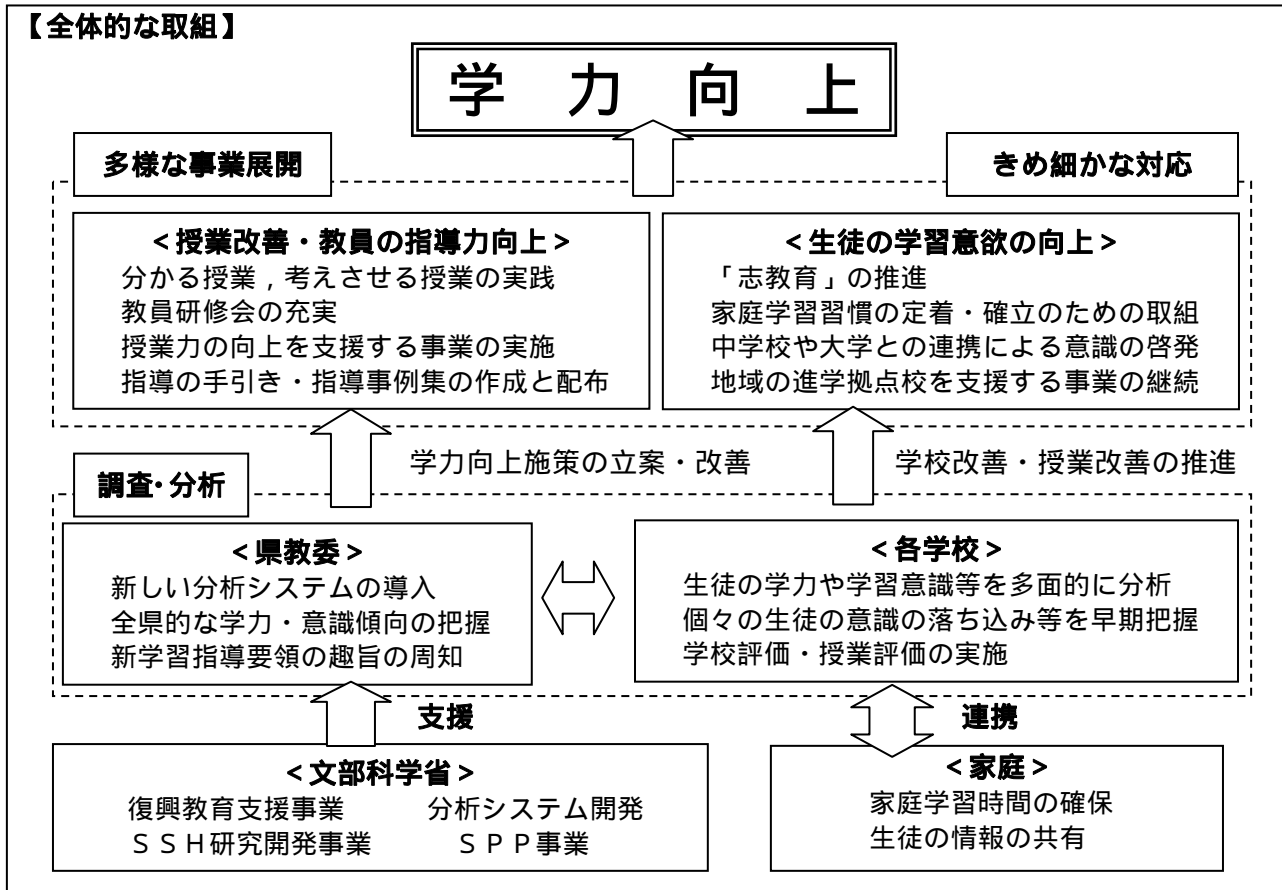
学力向上施策の推進

授業力向上事業，進学拠点校学力向上事業等の学力向上事業を推進し，各学校における学力向上に向けた取組を支援する。

教員の資質向上施策の推進

機関研修の充実，校内研修会の開催支援策の充実により，教員の資質向上を図る。

【全体的な取組】



教科に関する調査「国語」 結果と考察

1 出題のねらいと内容

本調査は、生徒の国語の学力状況を調査・分析することにより、本県の今後の各学校における学習指導の改善を図ることを目的としている。

国語科の領域は「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」、「C読むこと」及び〔言語事項〕の3領域・1事項から構成されているが、本調査では、そのうちの「C読むこと」及び〔言語事項〕について、中学校までの学習内容を基礎に高校二年前半までの学習内容を、選択問題形式により問うものとなっている。

2 設問ごとのねらい，結果の分析と考察

㊦ 漢字・語句・文法

問1は「漢字」の読み書きに関する問題で、(1)～(3)は適切な漢字を、(4)、(5)は読みを選ぶ問題、問2は「ことわざ」「慣用句」、問3は「副詞の呼応」「主述の係り受け」「適切な言葉遣い」、問4は「敬語」、問5は「品詞」の識別についての理解力をみる問題

問題番号	解答記号	正解	正答率	誤答率	記入ミス 無答率	選択肢ごとの誤答率(%)			
㊦ 問1	(1)	ア	36.5	63.1	0.3		1.0	60.6	1.5
	(2)	イ	82.2	17.5	0.4	1.2		8.2	8.0
	(3)	ウ	94.0	5.6	0.4	4.0		1.4	0.2
	(4)	エ	73.9	25.6	0.4	19.2	4.2	2.2	
	(5)	オ	89.1	10.4	0.5		4.7	4.6	1.1
問2	カ		78.1	21.5	0.5	2.4		5.2	13.9
問3	キ		44.7	54.8	0.5	6.7	37.5	10.7	
問4	ク		19.4	80.0	0.6	40.3	23.3	16.5	
問5	ケ		5.9	93.5	0.6		82.3	4.9	6.3

【考察】

問1(2),(3),(5)については正答率が高かった。いずれも日常において目にする機会が比較的多い字であることがその理由だと考えられる。(4)は「鬼のような形相」という慣用表現を知っていれば難しくはなく、正解率も73.9%とまずまずの結果であった。しかし、19.2%の生徒が「けいそう」を選んでいることから、生徒の日常生活で慣用表現自体が使われていないことが推測される。また、正答率が30%台であった(1)「現代はホウ食の時代と言われる」については、「飽食」が「豊かな食」というイメージで捉えられたことがその原因であろう。高校生という発達段階を考えると、古語の「飽く」との関連性に着目して、漢字の意味を推測する力も身に付けておいてほしい。

全体的に、「漢字」の読み書きに関する問題の解答からは、日常生活での関わりが深いレベル以外の漢字や慣用表現に対して、理解している度合いが低いことがうかがわれる。また、個々の知識はある程度確保できているものの、既習の知識を活用して理解につなげる能力が不十分であると考えられる。いずれにしても、言語の理解が音声言語の範囲に偏り、文章表現の中で使われる言語の知識・理解が不足している傾向が読み取れる。日頃から様々な文章に触れさせ、言語表現の多様性に気づかせることが今後の課題となる。

問2はことわざ・慣用句の使い方の適切でないものを選ぶ問題であり、正答率は78.1%とまずまずの結果であった。ただし、13.9%の生徒が「目から鼻に抜ける」を選んでおり、その割合は決して低くない。ことわざ・慣用句については本来の意味とは違った使い方がされている場面も見受けられるが、まずは正確な知識として定着させたい。問3では正答率が44.7%と5割を割って

おり、 を正解とした生徒も10.7%いることから、副詞の呼応について適切に理解しているのか、甚だ疑問である。また、37.5%の生徒が を選んでいるのは、「フルーツ」が「弾くこと」に係っているという文の構造に気づいていないことによる。日常生活において、日本語としての正しさを意識することなく言葉を用いていることが懸念される。問4は敬語の問題だが、 の誤答率が40.3%と一番高く、「お～になる」という尊敬表現の正しい使い方を理解できていない様子がかがわれる。様々なメディア等でも誤って使われている表現であり、生徒は間違った表現を鵜呑みにしてしまっている可能性が高い。正解 「お風呂をいただく」の正答率が19.4%と低かったのは、この表現自体が生徒にとっては耳慣れないものだったからであろう。問5は品詞に対する正しい知識を問う問題であるが、第一問の中で最も正答率が低かった。口語文法は中学校で既に学習しているが、高校で学んでいる文語文法を基に見分けることも十分可能だったはずである。82.3%の生徒が の誤答を選んでいるのは、体言+「だ」という視覚的な情報のみで判断をしたためと思われる。

㊦ 現代文 評論

問1，問2，問3は文脈を踏まえて内容を正しく理解できているか，問4は本文全体の内容を正しく捉えられているかをみる問題

問題番号	解答記号	正解	正答率	誤答率	記入ミス 無答率	選択肢ごとの誤答率（％）			
㊦	問1	コ	66.3	33.1	0.5	9.8	7.5	15.8	
	問2	サ	66.6	32.7	0.6		10.9	15.3	6.6
	問3	シ	53.4	46.0	0.6	8.2	4.6	33.3	
	問4	ス	58.6	40.7	0.7	8.0	22.6		10.1

【考察】

問1は、「脳を」「育む」ことと「人生の重大事」とのつながりを、冒頭部分からの確に把握し、文脈の中で意味づける力をみる問題である。正解 の正答率は66.3%と低くはなく、「脳のありよう」と「人生の体験」との関係についてはある程度読み取れていたようである。誤答としては、 の選択肢にある「私」の存在が「脳を育むことによるのみ成立する」という限定的な表現を見落とし、正答としたものが15.8%もいた。本文の内容を読み取るだけでなく、選択肢の表現の妥当性についても吟味を加える必要がある。また、 の誤答を選んだ生徒が合わせて17.3%にもなったのは、わずかな範囲の論旨でさえ読み取れていないことを示している。文章の読み方について、何について書かれた文章であるのかという最初の押さえができていないことは深刻な問題であろう。問2は、評論文では頻出の「逆説」という熟語の意味を理解し、傍線部までの内容とそれ以後の内容とを比較して、どの点が「逆説的」なのかを問うものである。66.6%の生徒が正解したが、 を選択したものが15.3%もいたのは、傍線部より後の文をよく読まずに、前の部分からだけで答えを探したためだと思われる。文章の構成から考えても、「脳を育むといっても、脳の中で起こることのほとんどは、意識でコントロールすることができない」ということを説明するために、傍線部直前の「庭」の具体例が提示されていると読み取れば、「逆説」の内容を正確に理解できるはずである。問3は、筆者が本文中で用いている「学習」の意味を、的確に理解できているかをみる問題であり、文章の主題を読み取る力が問われる。「学習」は「勉強」とは異なり、生涯続くものであることを述べた が正解で、正答率は53.4%あった。誤答の中では が一番多く、「様々な出来事によって」人間の考えや感覚が変化するのではなく、脳は常に学習し続けているという文脈が押さえられていなかったことによる。問4は本文全体の構成・内容を正しく理解できたかを問う問題である。正答率は58.6%と5割をやや超える程度であり、段落ごとの意味を捉えながら筆者の主張を読み取る能力に課題がみられる。 の選択肢を選んだ生徒は、本文中で書かれている言葉を安易につなげることにより判断したと思われる。選択問題では、書かれてある内容を記述に基づき理解すると同時に、別の言葉で置き換え、まとめる力も必要となる。

全体を通して見ると、問題文自体が平易な表現で書かれているために、生徒は比較的理解しや

すかったものと思われる。しかし、抽象的な表現が意味するところを、言い換えや具体例を頼りに解釈しながら読み進める力に課題を残す結果となった。

㉓ 現代文 小説

問1から問3は登場人物の心情を、問4は文章全体の内容や表現の特徴を正しく読み取れるかをみる問題

問題番号	解答記号	正解	正答率	誤答率	記入済 無答率	選択肢ごとの誤答率(%)			
㉓	問1	セ	40.1	59.2	0.6	48.0	5.6		5.7
	問2	ソ	74.7	24.5	0.8	5.6	9.9	8.9	
	問3	タ	64.9	34.4	0.7	11.3	13.6		9.5
	問4	チ	32.3	66.8	0.9	17.0		17.4	32.4

【考察】

周囲の大人や同年代の少年たちとのやりとりを通して主人公の「ぼく」が精神的に成長していく姿を読み取ることが必要となる。問2の正答率が高かった反面、問1、4の正答率は低かった。

問1は正答率が40.1%で、約60%が誤答である。特に誤答の を選んだ生徒が多く、傍線部直前にある「そういう後悔」という記述に引きずられてしまったものと思われる。傍線部後の「まっすぐに進んだ」という表現が、「ぼく」の決意の強さを表したものであることを読み取りたい。問2は小問の中で最も正答率が高く、74.7%であった。同じ就職組の友人二人が「ぼく」の帰りを待っていた場面であるが、詳細に試験内容を聞き、暗澹とする「先生」と、余計な詮索は何もしない友人たちの姿が対照的に描かれている。内容として、生徒は共感を持って読めていたようである。問3は正答率が64.9%とまずまずの結果であった。傍線部直前の友人たちとの会話や、「二人の精いっぱい励ましを受けとめずにはいられなくなった」という記述に着目することで、友人たちの温かい配慮に感動して涙をこぼしたと読み取ることができれば、 の正答を導き出すことも難しくなかったのではないか。問4は正答率が32.3%と小問の中で最も低く、約67%が誤答である。特に の誤答率が高い。これは選択肢の前半部分だけで判断し、後半部分の「回想場面を随所に」が妥当性を欠くことを考えずに、安易に選択してしまったためだと思われる。正解を導くためには、正解選択肢の中にある「世代によって異なっている感覚の対比」が、「ぼく」を視点とした周囲の大人たちとの見方の違いを指していることを理解する必要がある。

全体的にみると、構造や表現に注意しながら登場人物の心情を読み取る力が不足していることが読み取れる結果となった。また、解答する際には、安易に選択肢の表現に誘導されることなく、常に本文中に根拠を求めようとする姿勢を育成する必要がある。

㉔ 古文

問1は古語の知識、問2は敬語の理解、問3は文脈の把握、問4は本文全体の内容を正しく把握しているかをみる問題

問題番号	解答記号	正解	正答率	誤答率	記入済 無答率	選択肢ごとの誤答率(%)					
㉔	問1	a	ツ		84.0	15.2	0.8		8.3	3.5	3.5
		b	テ		42.1	57.0	0.9	32.4	10.3		14.4
	問2	ト		22.6	76.3	1.1	26.5		45.3	4.4	
	問3	ナ		29.6	68.9	1.5		31.2	18.0	19.7	
	問4	ニ		32.8	65.5	1.7	13.7	19.1	32.7		

【考察】

古文については、昨年度と比較すると古語の知識に関する問いの正答率は向上したものの、敬語の理解に関する問いの正答率が下がった。今年度の問題文を理解するには、人物関係を押さえ、文脈をつなげることで内容を把握する必要があるため、日頃の古文の読書量が内容読解に大きく影響したのではないだろうか。

問1は古語の基本的知識を問う問題である。a, bともに現代語と混同しやすい古語であるが、aの「あやしう」については正答率が8割以上の好成績であった。bの「やがて」を「しばらくして」と回答した生徒が3割近くいるが、定継の下人が中将実忠の家に走っていくという文章の内容が理解できれば、現代語のイメージに惑わされることなく、正解できたはずである。文脈を把握する力が、例年同様弱い傾向にあることがうかがえる。問2は敬語の理解に関する問題であるが、古文の設問中で最も正答率が低い。4割以上の生徒が敬意の対象として「中将実忠」を選んでいる。設問で使われている敬語は「せ給ふ」であり、助動詞「す」に尊敬の補助動詞「給ふ」が接続している二重敬語となっている。二重敬語が使われる対象は帝や皇族であるということを理解していれば、悩むことなく「主上」が選べるはずである。たとえ、主上が帝であることや、二重敬語について理解できていないとしても、リード文や本文中2行目の「主上、南殿に出御ありて御遊びありける」という箇所を読み取ることができれば、おのずと敬意の対象が推察できるはずである。敬語の知識についても、文脈を読み取る力についても十分ではないことがわかる。問3は下人が誰に仕えているかや、下人が何をしたのかということをもとに文脈から読み取る問題であったが、正答のよりも選んだ生徒が多い。人物関係が整理されておらず、下人が実忠に参上するよう連絡したことから、実忠に仕えていると勘違いした生徒が多いと推測される。本文中2行目の「かの定継が下人」という部分をしっかりと確認していれば、選択肢の は選ばないはずである。文章全体を読み込まずに、傍線が引かれている箇所のみで判断し、前後の内容を把握しなかった結果、誤答を選んだものと考えられる。問4は文章全体の内容を確認する設問であるが、正答である と誤答である に解答が分かれた。その理由としては、本文中の最後の部分「つかはずなりにけり」が読み取れておらず、定継が下人を許さなかったということと結び付かなかったためと考えられる。また、「比興の沙汰にてやみにけり」の内容を理解できなかった可能性もある。いずれにしても、人物関係をしっかりと押さえ、心情や書かれてある内容を読み取る力が不足していることがうかがわれる。

全体としては、基本的な古語についてはある程度身に付いているものの、わからない単語を前後の文脈から推測する力や、人間関係を把握しながら起こったことを読み解いていく力が不足している。古典常識や単語の知識を増やす一方で、前後の文脈から単語の意味や内容を推測して読み解く力が必要となる。また、内容の把握についても、リード文や文章の細部をしっかりと読み込み、正確に情報を読み取っていく力が求められる。

五 漢文（選択B問題）

問1, 問2は漢文の基本的な知識と口語訳する力を、問3は文脈を踏まえて内容を正しく理解できているかを、問4は本文全体の内容を正しく捉えられているかを問う問題

問題番号	解答記号	正解	正答率	誤答率	記入ミ 無答率	選択肢ごとの誤答率(%)				
五	問1	又	67.4	30.6	2.0	13.7		2.0	14.9	
	問2	(1)	ネ	24.9	73.0	2.1	25.2		30.5	17.3
		(2)	ノ	52.3	45.3	2.4		16.7	10.5	18.2
	問3	八	32.3	65.4	2.3		24.5	14.8	26.1	
	問4	ヒ	26.9	70.6	2.6	13.0	30.1	27.5		

【考察】

本文は孔子と哀公との会話になっており、句法や注を頼りに丁寧に読み進めていけば内容を理解することは難しくない。ただし、語句や句法の基礎的知識を正確に身に付けていないと、話の展開を把握できないため、文章の理解があいまいなままで問題を解かざるを得なかったことが、正答率の低さにつながったと思われる。

問1は、基本的な漢字の読みであり半数以上の生徒が読めている。問2は、疑問詞「奈何」の読み方と「どうしたらよいか」という手段・方法を示す言葉であることを踏まえて解く問題である。それがわかると(1)の正答は となるが、正答率は 24.9 %と著しく低い。 とほぼ同率の誤答として、 を「いかに」と選んでいることから、「如何」と混同している可能性が高い。昨年度出題した「是以」同様、漢文特有の熟語の読みと意味を定着させたい。(2)「之」の具体的な指示内容と「奈何」の訳をもとに現代語訳を問うものである。会話の流れから傍線部の前の孔子の会話部分に着目すればよく、約半数が正答している。誤答の を選択した生徒は、方法を問う部分は理解できているが、孔子の発言内容が把握できていない。誤答の を選択した生徒は、「奈何」の意味が理解できていない。問3は、「寡人」と「夫子」の意味とそれを活用して文脈を捉える問いである。正答率は 32.3 %と低い。「寡人」を諸侯の自称(一人称)と理解していれば、文脈から「哀公」と捉え か、そして、「夫子」を年長者や先生を呼ぶ尊称(二人称)と理解できていると、「孔子」となり、 と絞れ、正答が となる。だが誤答を見ると、両方とも理解できていない解答は の 24.5%、「夫子」は理解できているが「寡人」が理解できていない解答は の 26.1 %である。持っている知識を活用すれば、文脈から十分推測できたはずである。問4は、孔子が伝えようとした内容を問う問題である。「未～」の句法の理解と、「子=民」「父母=君子」という比喻表現の把握が必要であるため、問題を解くためには複雑な思考が要求される。誤答としては「未ダ～」を「まだ～ない」としている を選ぶのではないかと思われたが、13%程度にとどまっており、内容を吟味して選ぼうとしている様子うかがわれる。 の誤答率 30.1%の生徒は労役・課税を減らせれば民が富むという部分を、「民が労役・課税に従い国が豊かになる」と読み違えている。 の誤答率 27.5%の生徒は比喻が読み取れていない。

漢文における基本的な語句の読みや意味、句形の理解が不十分である。基礎的事項の定着と、その知識を活用して内容の理解に結びつけることができるような指導の工夫が必要である。

3 分析のまとめと指導上の改善

<分析のまとめと課題>

(1) 言語事項について

日常生活で触れる機会が多い語に関する問題ほど正答率が高い。慣用句についての基本的な知識は身に付いている。

書き取りや読み方も、口語表現以外になると正答率が大きく落ちてしまう。

敬語に関しては正しい敬語表現に関する十分な知識が不足している。

口語文法についての知識・理解や、適切な日本語の使い方が十分とはいえない。

<指導改善のポイント>

社会で必要となる基礎的・基本的な言語知識を定着させるために、授業の中で言語事項を扱う機会をできるだけ設定するとともに、学校図書館と連携しながら読書指導を進める。言語事項に関する知識を身に付け、活用することで思考力や表現力の向上につながるような授業展開を工夫する。

漢字については、特に文章語として用いられる語を中心に正確な知識の習得を目指させる。それとともに、日頃から多様な文章に触れる機会を設定し、それらをできるだけ活用して目的や場に応じた言語を使えるように指導する。

ことわざ、慣用句については、それ

課題 1：中学校で学習した言語に関する知識や理解を深め，社会人として必要となる言語能力を身に付けるための機会を確保することが急務である。

(2) 現代文(評論)について

論理的な文章では，文脈を踏まえて内容の理解に努めている。

論理的な文章では，具体例を基に筆者の主張を読み取る力が乏しい。



(3) 現代文(小説)について

主人公の心情を場面の展開に応じて読み取ることができる。

文学的な文章では，展開を考え，本文の内容や表現の特徴を捉える力が不足している。

課題 2：文章の構成を踏まえ，抽象的な表現から書かれている内容を的確に読み取り，適切な表現でまとめる力を身に付

らの意味や用例をまず理解させる。その上で生徒が短作文などを通じて，実際に活用する機会を設定して，具体的なイメージの備わった知識として定着させられるよう指導する。

敬語については，正しい用法と社会生活における意義を理解させた上で，状況に応じて適切に用いる能力を育てていくのがよい。日常生活の具体的な場面を取り上げるなどして，生徒の生活感覚に即した指導を工夫する。

論理的な文章では，筆者のものの見方，感じ方，考え方などの要旨を的確に捉えるために，具体例の意味や言い換えの表現等に着目し，論理展開を把握しながら正確に読み取る能力を育成できるよう工夫する。

内容理解のためには，恣意的に読むのではなく，根拠となる表現に基づく客観的視点から文章全体を意味付けしていく力を身に付けさせることが必要不可欠である。

論旨を捉えることは言うまでもなく，適切な表現でまとめる力，テーマを自分自身の問題として考えようとする態度を育てるための指導の工夫を図る。

本文のみならず，問題文やその選択肢についても書かれてある意図を意識して丁寧に読む習慣を身に付けさせたい。

文学的な文章では，文章に描かれた人物，情景，心情などを表現に即して読み味わう姿勢を育成するとともに，登場人物の変容を読み取る力を身に付けるための指導を工夫することが重要である。

文学的な文章では，登場人物の心情理解のために，行動や会話部分，情景描写に着目させる。その際，段落相互の関係に注意させ構造をつかみ，主題を把握する読解力も育成する。

ものの見方，感じ方，考え方を豊かにするために，学校図書館などと連携

けさせる指導の工夫が必要である。

(4) 古文について

基本となる古語や文法・句法の知識は身に付いてきている。

細部の情報を基に、文脈をつかみながら内容を正確に読み取る力が身に付いていない。

敬語などの古文の基本的な知識が身に付いていない。

(5) 漢文について

基礎的な語句の読みや意味について、高校一年での既習事項はある程度定着している。

重要な句形の理解・定着が十分ではない。

重要句形や基本的な語句の意味の理解があいまいなため、指示内容や全体を文脈に即して正確に読解することができない。

課題3：古典に親しむ態度を育成し、既習知識を活用しながら、自分の力で読み解いていくことの楽しさに気づかせるような指導の工夫が必要である。

して適切な読書指導を行い、できるだけ多くの種類の文章に接する機会をもたせることが必要となる。

古典に親しみが持てるよう、学習活動や教材の工夫をする。古典を学ぶ意欲を高めることで、基礎的・基本的知識の定着を図り、古典作品を深く味わうことができるよう、教材や指導の工夫を図る。

既習教材との関連性を示すなどして、学習内容と生徒の既存の知識とを結びつけ、系統立った学習となるように配慮する。

基本的な語句・文法・句法の知識の定着を図り、生徒自身が身に付けた知識を実際に活用できるような授業の工夫をしたい。

文法事項の指導や現代語訳をすることのみに終始せず、時には現代語訳を提示するなどして内容を把握させる。古典世界に生きる人々の心情が、現代にも通じるものであったり、逆にその時代特有のものであることを実感させるなどして、作品の奥深さを味わわせたい。

目的を持ったグループ活動などを適宜取り入れ、教師主導型の授業ではなく、生徒の主体的な読みを喚起するような指導を取り入れる。

場面をよりイメージしやすくさせるために、便覧等の利用を図る。古典において表現されている内容を具体的にイメージさせ、理解の助けとする。

音読や暗誦によって作品のリズムを感じながら、文章の雰囲気や話の展開を味わわせる。

生徒に、豊かな言語感覚と知識・理解に裏付けられた総合的な言語活用能力を身に付けさせ、生徒が主体的に学ぼうとする力を育成できるよう、バランスのよい指導を工夫する。

教科に関する調査「数学」 結果と考察

1 出題のねらいと内容

数学 で学習する「方程式と不等式」、「二次関数」、「図形と計量」について、共通問題では、基礎的・基本的事項の理解をみることを中心とし、学校選択型問題では、複数項目を組み合わせた問題や数学的な読解力をみる問題も出題した。作成にあたり、学習指導要領「数学」の目標とねらいの達成状況が把握できるように、目標とねらいを分析し、参考とした。

共通問題の1～4は、「方程式と不等式」についての問題、5～7は、「二次関数」についての問題、8～10は、「図形と計量」についての問題、学校選択型A用問題の11、12は、「方程式と不等式」についての問題、13～15は、「二次関数」についての問題、16～18は、「図形と計量」についての問題、学校選択型B用問題の11、12は、「方程式と不等式」についての問題、13～15は、「二次関数」についての問題、16～18は、「図形と計量」についての問題であるが、各問の内容とねらいは、それぞれ次のとおりである。

< 共通問題 >

設問	内 容 と ね ら い
1	指数法則を用いて式の計算ができるかをみる
2	無理数を含む式において分母の有理化ができるかをみる
3	絶対値の記号の意味と、無理数と整数の大小関係を理解しているかをみる
4	因数分解を利用して二次方程式を解くことができるかをみる
5	二次関数を標準形に変形して、グラフの頂点の座標を求めることができるかをみる
6	定義域の意味を理解し、二次関数の最大値及び最小値を求めることができるかをみる
7	二次不等式を解くことができるかをみる
8	三角比の定義を理解し、三平方の定理を利用できるかをみる
9	正弦定理を理解しているかをみる
10	余弦定理を理解しているかをみる

< 学校選択型A用問題 >

設問	内 容 と ね ら い
11	問題文の内容を理解し、不等式を用いて立式し条件に適した解答を求めることができるかをみる
12	二次方程式の解の判別式を利用できるかをみる
13	二次関数のグラフを利用して、係数に関する条件を求めることができるかをみる
14	二次関数のグラフの平行移動について理解しているかをみる
15	グラフから条件を読み取って二次関数をつくり、その最大値を求めることができるかをみる
16	三角比の相互関係を用いて残りの三角比の値を求めることができるかをみる
17	余弦定理を用いて距離を求めることができるかをみる
18	図の条件を読み取り、三角比を利用して面積を求めることができるかをみる

< 学校選択型B用問題 >

設問	内 容 と ね ら い
11	問題文の内容を理解し，不等式を用いて立式し条件に適した解答を求めることができるかをみる
12	二次方程式の解に関する条件を理解しているかをみる
13	二次関数のグラフを利用して，係数に関する条件を求めることができるかをみる
14	二次関数のグラフの対称移動，平行移動について理解しているかをみる
15	二次関数の二乗の係数と定義域との関係を理解し，最大値の条件を利用できるかをみる
16	余弦定理を用いて辺の長さを求め，三角比を利用して面積を求めることができるかをみる
17	三角比の相互関係を利用して式の値を求めることができるかをみる
18	三角比を用いて四面体の高さを求めることができるかをみる

2 結果と考察

【共通問題】

$$1 \quad (a^2b)^3 \times (-3b)^2 = \boxed{\text{ア}} a^{\boxed{\text{イ}}} b^{\boxed{\text{ウ}}}$$

ア： - 3 3 - 5 5 - 6 6 - 9 9

イ： 1 2 3 4 5 6 7 8 9

ウ： 1 2 3 4 5 6 7 8 9

指数法則を用いて式の計算ができるかをみる

問題番号	記号	正解	正答率	誤答・無答率	誤答例
1	ア		42.9	57.1	$9a^6b^6, 9a^8b^5, 9a^8b^6, 9a^5b^5$ など
	イ				
	ウ				

【考察】

同様のねらいで設けた昨年度の正答率が 42.5%であったが，今年度の正答率は昨年度より 0.4 ポイント上がったことになる。昨年度の設問では，指数法則の内主に $(a^m)^n = a^{mn}$ と $a^m \times a^n = a^{m+n}$ の定着が求められたが，今年度も積と和を混同している生徒が多いことが原因として考えられる。それほど正答率が変わっていないので，中学校でやっているからと言って流さず，指数法則の意味を理解させるとともに，特に文字を扱う基本問題の練習を丁寧に繰り返し，正確な計算力を身に付けさせる必要がある。

2 $\frac{3}{\sqrt{5}+2}$ の分母を有理化すると 工 である。

工：
$$\frac{3\sqrt{5}-6}{\sqrt{5}+2} \quad \frac{3\sqrt{5}+6}{7} \quad \frac{3\sqrt{5}-2}{7} \quad \frac{3\sqrt{5}+2}{\sqrt{5}-2}$$

無理数を含む式において分母の有理化ができるかをみる

問題番号	記号	正解	正答率	誤答・無答率	誤答例
2	工		48.4	51.6	(20.7%), (7.6%), (6.7%), (5.4%) など

【考察】

昨年度の問題の正答率が46.4%であったため、正答率は昨年度より2.0ポイント上がったことになる。昨年度は最後に約分をしなけりばならなかったが今年度はその必要がない分上がったと考えられる。最も多かった誤答については、分母と分子に $\sqrt{5}$ のみを乗じて分母の有理化を行ったと考えられる。また誤答については、 $3(\sqrt{5}-2)=3\sqrt{5}-2$ のような誤った乗算を行った結果と考えられる。また、誤答については、 $(\sqrt{5}+2)(\sqrt{5}-2)=5-2=3$ と乗算を誤った結果であろう。分母の有理化は他科目・分野での学習の中でも頻繁に必要となることから、分母の項数に注意してその都度手順を確認させることが必要である。

3 $|\sqrt{2}-3|$ の値は オ である。

オ：
$$\frac{-1}{\sqrt{2}-3} \quad \frac{1}{\sqrt{2}+3} \quad \frac{-3-\sqrt{2}}{2-3\sqrt{2}} \quad \frac{3-\sqrt{2}}{2+3\sqrt{2}}$$

絶対値の記号の意味と、無理数と整数の大小関係を理解しているかをみる

問題番号	記号	正解	正答率	誤答・無答率	誤答例
3	オ		35.1	64.9	(28.1%), (22.3%), (3.5%), (3.4%) など

【考察】

昨年度の正答率は39.4%で今年度は昨年度より4.3ポイント下がった。誤答を見ると「(絶対値記号を外すときは)プラスはプラスに、マイナスはプラスに」という安易な覚え方のために、一つ一つの項(数)にそのような考えを適用させたと思われる。絶対値の意味理解が進むような指導が求められる。ついで、 $\sqrt{2}$ と3の大小関係が分からず、絶対値の記号をそのまま外したと思われる誤答が多かった。誤答例は昨年度とほぼ同様となっており、基本問題+応用問題の練習を丁寧に繰り返し正確に行う必要があると考える。

4 2次方程式 $5x^2+7x-6=0$ の解は カ である。

カ： $x = \frac{2}{5}, -3$ $x = -\frac{2}{5}, 3$ $x = \frac{3}{5}, -2$ $x = -\frac{3}{5}, 2$
 $x = \frac{1}{5}, -6$ $x = -\frac{1}{5}, 6$ $x = \frac{6}{5}, -1$ $x = -\frac{6}{5}, 1$

因数分解を利用して二次方程式を解くことができるかをみる

問題番号	記号	正解	正答率	誤答・無答率	誤答例
4	カ		69.4	30.6	(7.9%), (5.2%), (4.4%), (3.9%) など

【考察】

昨年度出題された二次方程式の問題では、符号が逆になっている誤答を選択したものが10.5%であり、同様の誤答を選択したものは7.9%に減少したものの、依然最も多い誤答である。その他の誤答の多くは、「たすきがけ」について、そのしくみを理解して正確に因数分解することができなかつた結果と考えられる。「 $AB=0$ ならば $A=0$ または $B=0$ 」の意味を再確認させたり、たすきがけにおいて特に x の係数に注意を払う必要があることを繰り返し指導したりすることが必要である。

5 2次関数 $y=2x^2-4x+5$ のグラフの頂点の座標は キ である。

キ： $(-2, -3)$ $(-2, 1)$ $(-1, 3)$ $(-1, 4)$
 $(2, -3)$ $(2, 1)$ $(1, 3)$ $(1, 4)$

二次関数を標準形に変形して、グラフの頂点の座標を求めることができるかをみる

問題番号	記号	正解	正答率	誤答・無答率	誤答例
5	キ		41.3	58.7	(10.3%), (9.7%), (9.6%) など

【考察】

同様のねらいで設けた昨年度の問題では $y=2x^2+8x+4$ で出題し、正答率37.1%であった。今年度は1次の係数を負の数で出題し、正答率41.3%と4.2ポイント上昇している。しかし誤答を見ると、2次の係数の2でくり忘れたと思われる平方完成のミスによる誤答が多いように読み取れ、平方完成による式変形の力がしっかりと定着していないと考えられる。平方完成の計算は、高等学校で学ぶ多くの分野に関連するものなのでしっかりと定着を図りたい。

6 二次関数 $y=(x-1)^2-2$ ($-2 \leq x \leq 4$) が最大となるのは のとき，最小となるのは のときである。

ク： $x=-2$ $x=-1$ $x=0$ $x=1$
 $x=2$ $x=3$ $x=4$ $x=-2, 4$

ケ： $x=-2$ $x=-1$ $x=0$ $x=1$
 $x=2$ $x=3$ $x=4$ $x=-2, 4$

定義域の意味を理解し，二次関数の最大値及び最小値を求めることができるかをみる

問題番号	記号	正解	正答率	誤答・無答率	誤答例
6	ク		36.0	64.0	(28.2%), (7.5%), (7.5%) など
	ケ		39.0	61.0	(22.2%), (11.8%), (8.4%) など

【考察】

二次関数の方程式からグラフの概形を読み取り，定義域を意識して解答する問題である。同様のねらいで設けた昨年度の問題では，定義域の両端を文字で示していたことから，正答率は上がると予想したが，最大値について正答率が下がった。放物線の対称性の理解不足や定義域の両端部分でしか最大・最小を考えていないことなどが誤答の出現順から読み取れる。問題5に関しても言えることであるが，一般的にグラフに関する理解度が低い。グラフの概形からその関数の持つ特徴を考察するなど，具体的な対象から特徴をつかむことを繰り返すことにより，実感をともなって概念を理解させる指導が求められる。

7 二次不等式 $x^2+x-12 < 0$ の解は である。

コ： $-6 < x < 2$ $-4 < x < 3$ $-3 < x < 4$ $-2 < x < 6$
 $x < -6, 2 < x$ $x < -4, 3 < x$ $x < -3, 4 < x$ $x < -2, 6 < x$

二次不等式を解くことができるかをみる

問題番号	記号	正解	正答率	誤答・無答率	誤答例
7	コ		62.5	37.5	(13.6%), (8.0%), (4.4%) など

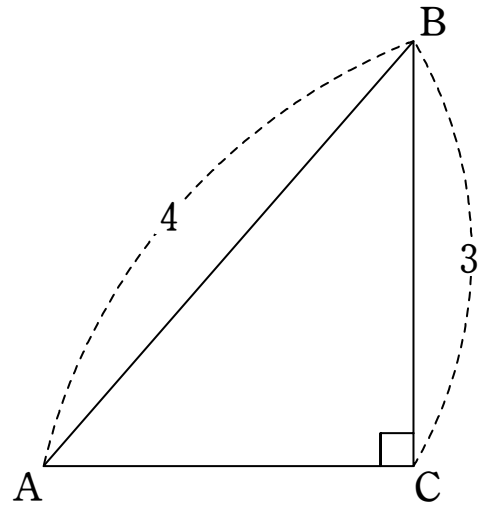
【考察】

昨年度は左辺を因数分解した形で，今年度は因数分解する段階を加えた形で出題したが，正答率は上昇した。ただし，因数分解における符号のミスによる誤答 や二次不等式の基本を理解できていないと思われる誤答 が比較的多かった。二次不等式を指導する際に，二次方程式や二次関数の基本事項を含めて確認させる必要がある。

8 下の図のような $AB=4$, $BC=3$, $\angle C=90^\circ$ の直角三角形 ABC において ,

$$\sin A = \frac{\boxed{\text{サ}}}{\boxed{\text{シ}}} , \cos A = \frac{\sqrt{\boxed{\text{ス}}}}{\boxed{\text{セ}}}$$

である。



三角比の定義を理解し, 三平方の定理を利用できるかをみる

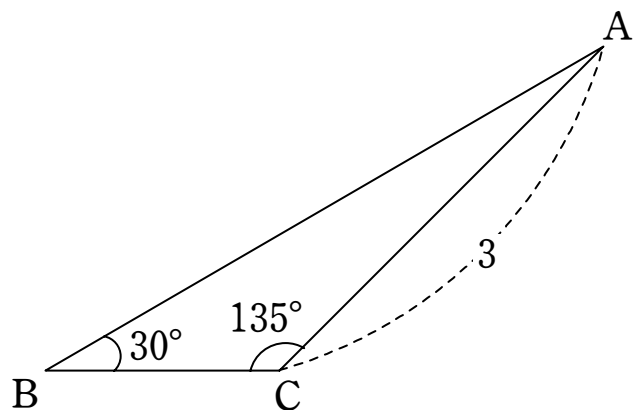
問題番号	記号	正解	正答率	誤答・無答率	誤答例
8	サ	3	73.5	26.5	$\frac{4}{3}$ など
	シ	4			
	ス	7	49.2	50.8	$\frac{\sqrt{5}}{4}$, $\frac{\sqrt{3}}{4}$, $\frac{\sqrt{2}}{4}$, $\frac{\sqrt{7}}{3}$ など
	セ	4			

【考察】

$\sin A$ の値については, 正答率は高かったものの, 分子と分母を逆にしてしまう誤答も多く, 4人に1人以上の生徒が正弦の定義をしっかりと理解できていない。今回の問題における $\sin A$ の値については, できればほぼ全員の生徒に正答して欲しい。 $\cos A$ を求める問題については, 分子の値を間違える誤答が多く, 三平方の定理を用いて辺の長さを求める方法の定着が十分ではないために, AC の長さを求められなかったことで正答率が低くなったと考えられる。

9 下の図のような ABC において , $CA=3$, $\angle B=30^\circ$, $\angle C=135^\circ$ のとき ,

$$AB = \boxed{\text{ソ}} \sqrt{\boxed{\text{タ}}} \text{ である。}$$



正弦定理を理解しているかをみる

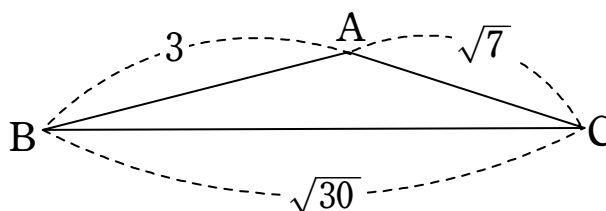
問題番号	記号	正解	正答率	誤答・無答率	誤答例
9	ソ	3	35.6	64.4	$2\sqrt{3}$, $3\sqrt{5}$, $2\sqrt{5}$, $3\sqrt{3}$ など
	タ	2			

【考察】

正弦定理を用いて辺の長さを求める基本的な問題であるが、鈍角の三角比を利用することもあり、昨年度よりも正答率が10ポイント下がった。 $2\sqrt{3}$ という誤答が多いことから、鈍角の三角比の値をしっかりと覚えていないことに加え、正弦定理を用いて正しく立式することができていないことも読み取れる。さらに、根号を含む分数式の計算について正確に処理できていないことも考えられ、基本的な問題だけに徹底した指導が必要である。

10 下の図のような $\triangle ABC$ において、 $AB=3$, $BC=\sqrt{30}$, $CA=\sqrt{7}$ のとき、

$$\cos A = -\frac{\sqrt{\boxed{\text{チ}}}}{\boxed{\text{ツ}}} \text{ である。}$$



余弦定理を理解しているかをみる

問題番号	記号	正解	正答率	誤答・無答率	誤答例
10	チ	7	51.5	48.5	$-\frac{\sqrt{3}}{2}$, $-\frac{\sqrt{3}}{7}$ など
	ツ	3			

【考察】

余弦定理を用いて解く基本的な問題であるが、問題9とともに学習後時間が経過している分野からの出題であり、誤答の多くは直観的に、 $A=150^\circ$ として、鈍角の三角比から解答したものや、マークミスから分母分子が逆転したものであった。正答率が50%程度にとどまった原因としては、余弦定理の利用について、辺を求めることよりも角の余弦を求めることの方がより定着していないことが挙げられる。今後の指導過程での注意が必要である。

【学校選択型 A 用問題】

11-A 自分の部屋の電球を交換したいと考えた太郎君は、2種類の電球についてインターネットで調べた。下の表は、その結果をまとめたものである。

電 球	1個の定価	1ヶ月の電気代
LED電球	2500 円	25 円
白熱電球	200 円	200 円

「1ヶ月の電気代」は、使用時間など現在の使用条件から求めた1個当たりの金額。

太郎君は、2種類の電球を「1個の定価」と「1ヶ月の電気代」の**合計金額**で比較してみることにした。どちらも1個ずつ使用する場合、LED電球の**合計金額**が、白熱電球の**合計金額**の2分の1以下となるのは何ヶ月以上使用した場合か、不等式を使って考えることにした。

2種類の電球を使用する期間を x ヶ月とすると、太郎君が立てた最も適切な不等式は、テ であり、その解は ト となる。ただし、この期間中はLED電球、白熱電球ともに1回も取り替えないものとする。

$$\begin{array}{ll} \text{テ: } 2500 + 25x \geq \frac{1}{2} & 2500 + 25x \leq \frac{1}{2} \\ 2500 + 25x > \frac{1}{2}(200 + 200x) & 2500 + 25x < \frac{1}{2}(200 + 200x) \\ 2500 + 25x \geq \frac{1}{2}(200 + 200x) & 2500 + 25x \leq \frac{1}{2}(200 + 200x) \\ \frac{1}{2} \times 2500 + 25x \geq 200 + 200x & \frac{1}{2} \times 2500 + 25x \leq 200 + 200x \\ \frac{1}{2} \times 2500 + 25x > 200 + 200x & \frac{1}{2} \times 2500 + 25x < 200 + 200x \end{array}$$

$$\begin{array}{lllll} \text{ト: } x \geq 100 & x \leq 100 & x < 32 & x > 32 & x \geq 32 \\ x \leq 32 & x \geq 6 & x \leq 6 & x > 6 & x < 6 \end{array}$$

問題文の内容を理解し、不等式を用いて立式し条件に適した解答を求めることができるかをみる

問題番号	記号	正解	正答率	誤答・無答率	誤答例
11-A	テ		26.6	73.4	(13.9%), (11.4%), (9.8%) など
	ト		22.7	77.3	(14.7%), (10.7%), (10.3%) など

【考察】

不等式の立式については、不等号の向きが異なる の誤答が多く、これは、問題文の意図を十分に理

解できていないことが考えられる。また、等号が抜けている の誤答も多く、「以上」や「以下」の意味についての理解が不足していることも考えられる。不等式の解については、不等号の向きが異なる の誤答が、不等式の立式に比べて多いことから、負の数で割ったときに不等号の向きを変えていない生徒も多いようである。問題文をしっかりと読む力を身に付けさせることと、不等式を正確に解く力を付けさせる必要がある。

12-A 2次方程式 $x^2 + 2x + m + 4 = 0$ が実数解をもつとき、定数 m の値の範囲は

である。

ナ： $m > -3$ $m < -3$ $m \geq -3$ $m \leq -3$
 $m > 2$ $m < 2$ $m \geq 2$ $m \leq 2$

二次方程式の解の判別式を利用できるかをみる

問題番号	記号	正解	正答率	誤答・無答率	誤答例
12-A	ナ		16.3	83.7	(15.4%), (14.9%), (12.8%) など

【考察】

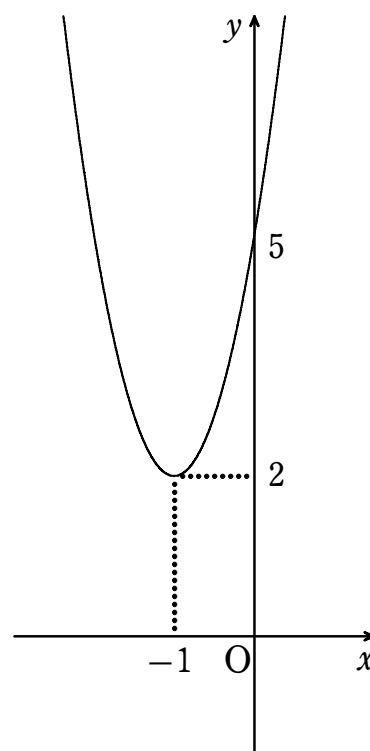
不等号の向きが異なる の誤答が多いことから、問題 11 - A と同様に、不等式の両辺を負の数で割った際に、不等号の向きを変えていない生徒が多いようである。また、等号が抜けている の誤答も多く、「2つの異なる実数解をもつ」と「実数解をもつ」ことの違いがしっかり理解できていないものと思われる。さらに、無答の生徒も多いことから、「実数解をもつ」という条件から判別式を利用することに繋がられないと考えられ、二次方程式の解の判別に関する理解を定着させる指導が求められる。

13 - A 右のグラフが2次関数のグラフであるとき、

この関数の式は、

$$y = \boxed{\text{ニ}} x^2 + \boxed{\text{ヌ}} x + \boxed{\text{ネ}}$$

である。



二次関数のグラフを利用して、係数に関する条件を求めることができるかをみる

問題番号	記号	正解	正答率	誤答・無答率	誤答例
13-A	ニ	3	3.6	96.4	$y=x^2+2x+5$, $y=2x^2+x+5$, $y=x^2+2x+3$, $y=2x^2+3x+5$ など
	又	6			
	ネ	5			

【考察】

グラフから頂点の座標や y 軸との交点を読み取って二次関数の方程式を導き出す問題であるが、正答率が極端に低く、ほとんどの生徒がグラフから二次関数の方程式を導き出すことができない。誤答の中に「ネ」の欄に5を入れているケースが多いことから、 y 軸との交点が「ネ」の欄に対応することはある程度の生徒が理解しているものと考えられる。教科書などでもこのような形式の問題を扱うことは少なく、どちらかという二次関数の方程式を変形してからグラフをかかせる問題が多い。そのため、グラフから方程式を読み取る力がかなり不足しているようである。具体的なグラフの特徴から、求める関数の方程式を決定するために必要となる要素を正確に読み取り、実感を伴って関数の性質を理解させる指導を行う必要がある。

14 - A 放物線 $y=x^2+2x-1$ を、 x 軸方向に -4 、 y 軸方向に 6 だけ平行移動すると、
移動後の放物線の方程式は、 $y=(x+\boxed{\text{ノ}})^2+\boxed{\text{ハ}}$ である。

二次関数のグラフの平行移動について理解しているかをみる

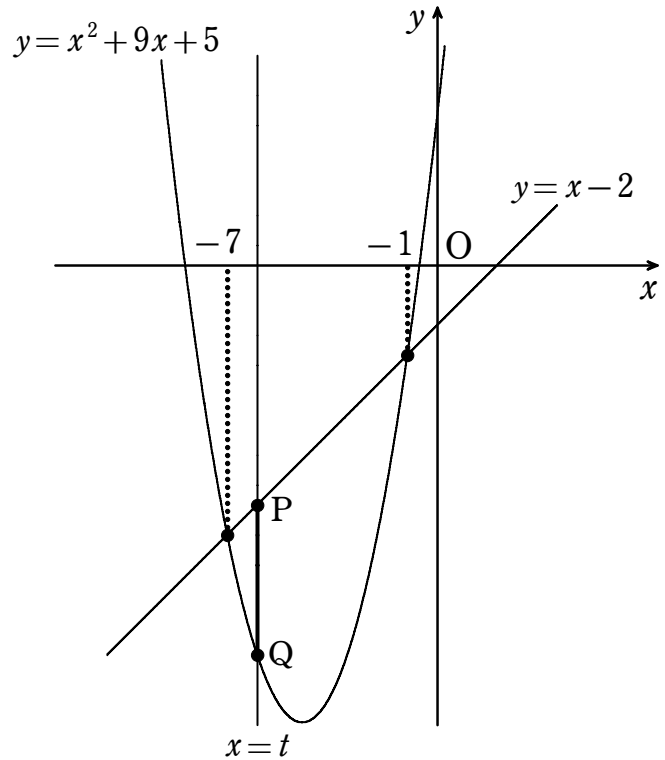
問題番号	記号	正解	正答率	誤答・無答率	誤答例
14-A	ノ	5	6.5	93.5	4と6, 2と5, 2と4, 2と3 など
	ハ	4			

【考察】

標準形に変形してから頂点を平行移動させる問題であるが、正答率が極端に低かった。誤答例をみても問題文で与えられた数値をそのまま記入しているものが多い。平行移動の条件を視覚化して認識することができず、どのように答えを導き出してよいのか見つけられていないと考えられる。問題 13 - A と同様に、グラフと方程式の対応をしっかりと認識させながら、グラフの概形をかき、視覚的に平行移動というものがどういうものなのか理解させていく必要がある。

15 - A 放物線 $y = x^2 + 9x + 5$ と直線 $y = x - 2$ の交点の x 座標は $x = -7, -1$ である。
 y 軸に平行な直線 $x = t$ ($-7 < t < -1$) をひき、
直線 $y = x - 2$ 、放物線 $y = x^2 + 9x + 5$ との交点をそれぞれ P, Q とするとき、
線分 PQ の長さの最大値は ヒ である。

- ヒ：
 $\frac{27}{4}$ 7
 $\frac{15}{2}$ 8
 $\frac{17}{2}$ $\frac{35}{4}$
9 $\frac{37}{4}$



グラフから条件を読み取って二次関数をつくり、その最大値を求めることができるかをみる

問題番号	記号	正解	正答率	誤答・無答率	誤答例
15-A	ヒ		12.4	87.6	(17.5%), (13.6%), (13.2%) など

【考察】

放物線と直線のグラフの方程式から線分 PQ の長さを表し、その最大値を求める問題で、難易度はやや高いように思われる。1 割以上の生徒が正解しているものの、や の誤答例が多いことから、しっかり問題の内容を理解しながら計算をして答えを導き出しているとは言えない。 の誤答例については、 $y = x^2 + 9x + 5$ の式変形をしながら、頂点の位置で最大値になると考えた生徒もいると思われる。いずれにせよ、1 割以上の生徒が無答であることから、多くの生徒がどう手を付けてよいのか分かっておらず、放物線と直線の関係について、共有点を求めることなども含めて徹底して指導をしていかなければならない。

16 - A $0^\circ \leq \theta \leq 180^\circ$ とする。 $\cos \theta = -\frac{\sqrt{5}}{5}$ のとき、

$$\sin \theta = \frac{\boxed{\text{フ}} \sqrt{\boxed{\text{ヘ}}}}{\boxed{\text{ホ}}}, \quad \tan \theta = -\boxed{\text{マ}}$$

である。

三角比の相互関係を用いて残りの三角比の値を求めることができるかをみる

問題番号	記号	正解	正答率	誤答・無答率	誤答例
16-A	フ	2	23.5	76.5	$\frac{3\sqrt{5}}{5}, \frac{5\sqrt{5}}{5}, \frac{2\sqrt{3}}{5}, \frac{2\sqrt{5}}{3}$ など
	へ	5			
	ホ	5			
	マ	2	26.6	73.4	5 (21.4%), 1 (14.1%), 3 (11.0%) など

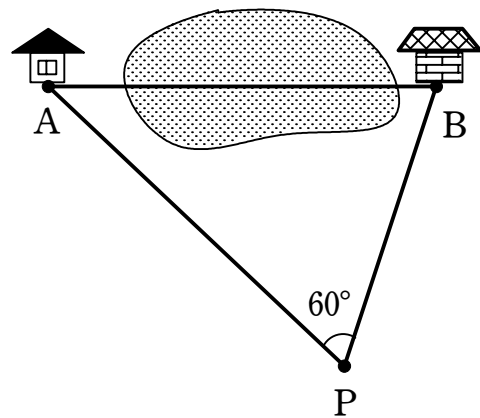
【考察】

三角比の相互関係を用いて残り2つの三角比の値を求める基本問題である。同様のねらいで設けた昨年度の問題の正答率はそれぞれ17.9%, 16.4%となっており、正答率は上がっている。sinθの値を正答できた者は、tanθの値の正答率も高くなっており、誤答や無答の要因は、三角比の相互関係の公式を覚えていないことにあると考えられる。公式の活用力を高めるよう、類題に数多くあたらせる必要がある。

17-A 池をはさんだ2つの地点A, Bがある。地点Pを定め、距離や角度を測定したところ、PA=40 m, PB=30 m, ∠APB=60°であった。

AとBの間の距離は mである。

- ミ :
- | | |
|---------------|---------------|
| 35 | 50 |
| $10\sqrt{13}$ | $10\sqrt{19}$ |
| $10\sqrt{37}$ | $13\sqrt{10}$ |
| $20\sqrt{3}$ | $30\sqrt{3}$ |



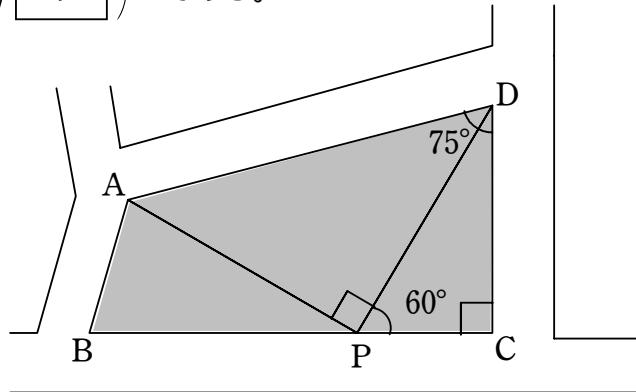
余弦定理を用いて距離を求めることができるかをみる

問題番号	記号	正解	正答率	誤答・無答率	誤答例
17-A	ミ		15.3	84.7	(20.1%), (18.6%), (10.2%) など

【考察】

同様のねらいで設けた昨年度の問題では余弦定理を用いる空間図形の計量を取り上げ、正答率は9.8%であった。今回の正答率は15.3%と上がったが、その要因は平面図形の計量を取り上げたことにあるだろう。三角比の意味をよく理解している生徒は、縮図を考えて平易な計算により正答を得たはずである。誤答については、与えられた図からおおよその距離(長さ)を予想して答えたものがほとんどであると考えられる。また、昨年より無答率も高い。今後は生活の中の身近な計量の題材をできるだけ取り上げ、三角比に関わる公式・定理の有用性を実感させて学習意欲を高める工夫を図る必要がある。

18-A 下の図のような四角形の土地 ABCD があり、 $\angle BCD=90^\circ$ 、 $\angle CDA=75^\circ$ である。BC 上に地点 P を定めて距離や角度を測定したところ、 $BP=20\text{ m}$ 、 $CP=10\text{ m}$ 、 $\angle CPD=60^\circ$ 、 $\angle DPA=90^\circ$ であった。この四角形の土地 ABCD の面積を $S\text{ m}^2$ とすると、 $S = \boxed{\text{ムメ}} \left(\boxed{\text{モ}} + \sqrt{\boxed{\text{ヤ}}} \right)$ である。



図の条件を読み取り、三角比を利用して面積を求めることができるかをみる

問題番号	記号	正解	正答率	誤答・無答率	誤答例
18-A	ム	5	0.7	99.3	$10(3 + \sqrt{5})$ 、 $11(1 + \sqrt{1})$ 、 $12(3 + \sqrt{4})$ 、 $13(2 + \sqrt{5})$ など
	メ	0			
	モ	6			
	ヤ	3			

【考察】四角形 ABCD の中に三角形は 3 つあり、それぞれの三角形の面積を足せば求められる。直角三角形の面積の公式と三角比を用いた面積の公式の 2 種類を使うことが必要となる。正答率は 0.7% と非常に低く、条件にあわせて複数の公式を使うことに課題があると考えられる。

【学校選択型 B 用問題】

11-B 自分の部屋の電球を交換したいと考えた太郎君は，2種類の電球についてインターネットで調べた。下の表は，その結果をまとめたものである。

電 球	1個の定価	1ヶ月の電気代
LED電球	2500 円	25 円
白熱電球	200 円	200 円

「1ヶ月の電気代」は，使用時間など現在の使用条件から求めた1個当たりの金額。

太郎君が，現在と同じ条件で，取り替えることなく電球を使用する場合，「1個の定価」と「1ヶ月の電気代」の合計金額について，LED電球1個分の合計金額が白熱電球1個分の合計金額を下回るのは テト ヶ月以上使用したときである。

問題文の内容を理解し，不等式を用いて立式し条件に適した解答を求めることができるかをみる

問題番号	記号	正解	正答率	誤答・無答率	誤答例
11-B	テ	1	51.7	48.3	13, 12 など
	ト	4			

【考察】

「下回る」などの意味をとらえきれず，条件文から正確な不等式の立式ができていないものや，立式はできているものの，不等号のもつ意味を十分に理解していないため，条件を満たす正答を導けないものが多かった。不等号の理解が不十分な生徒がいることに留意し，単に立式するだけでなく，言葉で表現されている条件を，不等式を用いて正確に表現する力の育成が必要である。

12-B 2次方程式 $x^2 - 2mx + 2m + 3 = 0$ が異なる2つの負の解をもつとき，定数 m の値の範囲は ナ である。

$$\begin{array}{cccc} \text{ナ:} & -1 < m < 3 & -\frac{3}{2} < m < -1 & -1 < m < 0 & 0 < m < 3 \\ & m < -1, 3 < m & m < -\frac{3}{2}, -1 < m & m < -1 & m > 3 \end{array}$$

二次方程式の解に関する条件を理解しているかをみる

問題番号	記号	正解	正答率	誤答・無答率	誤答例
12-B	ナ		18.3	81.7	(38.9%), (20.5%) など

【考察】

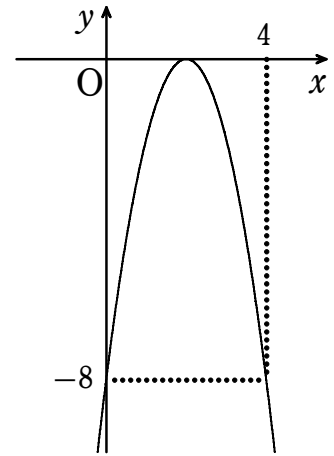
条件にあったグラフの概形を簡略的に図示し，それをもとに頂点や軸の方程式等に関する条件を過不足なく挙げ連立不等式を解くことが求められる問題である。単に「負の解をもつ」ことから $D < 0$ とする誤答があったことに注意をはらいたい。また，条件不足による誤答例としては，特に $f(0) > 0$ の条件不足が目立つ。二次関数・二次方程式・二次不等式は密接に関係し，いずれの分野においても図を活

用し考察することが必要であり、有効である。問題文を正確に理解し図示することの重要性や、図から条件の決定にいたる過程を根気強く指導していくことが必要である。

13 - B 右のグラフが2次関数のグラフであるとき、
この関数の式は、

$$y = - \boxed{\text{ニ}} x^2 + \boxed{\text{又}} x - \boxed{\text{ネ}}$$

である。



二次関数のグラフを利用して、係数に関する条件を求めることができるかをみる

問題番号	記号	正解	正答率	誤答・無答率	誤答例
13-B	ニ	2	36.5	63.5	$y = -2x^2 - 4x + 8$, $y = -x^2 - 4x + 4$, $y = -x^2 - 4x + 8$ など
	又	8			
	ネ	8			

【考察】

昨年度の下に凸なグラフに対し、今年度は上に凸なグラフを扱った。グラフが通る点を読み取り、また、放物線の対称性から頂点の座標を考えて、二次関数の方程式を求める問題であり、正答率も昨年度とほぼ同様である。誤答例 $y = -2x^2 - 4x + 8$ は $-2(x-2)^2$ 部分の展開を誤ったものであり、誤答例 $y = -x^2 - 4x + 4$ は頂点の座標は考察できたものの x^2 の係数を見落としたもの、誤答例 $y = -x^2 - 4x + 8$ は軸の方程式が $x=2$ であることと $(0, 8)$ を通ることとの2つの条件を組み合わせたものと考えられる。グラフの読み取りについては、放物線と y 軸との交点の座標から、誤答も含めて **ネ** のみは正しく答えたものが多かった。一方、放物線の対称性に関する理解・活用は不十分であると考えられる。 x^2 の係数が -2 でない誤答も多いことから、基本に立ち返り二次関数の方程式の標準形についての指導を見直す必要がある。

14 - B 放物線 $y = x^2 + 4x - 2$ を、 x 軸に関して対称移動し、さらに、 x 軸方向に **ノ**、
 y 軸方向に **ハ** だけ平行移動すると、放物線 $y = -x^2 + 4x + 3$ に重なる。

二次関数のグラフの対称移動、平行移動について理解しているかをみる

問題番号	記号	正解	正答率	誤答・無答率	誤答例
14-B	ノ	4	53.9	46.1	0 (13.9%), 2 (9.2%), 1 (8.2%) など
	ハ	1	49.3	50.7	5 (24.0%), 3 (5.6%), 4 (4.5%) など

【考察】

二次関数のグラフの平行移動，対称移動を頂点の移動から正しく判断する力が求められる問題である。最も多い誤答は，移動前の放物線の係数と移動後の放物線の係数を単純に比較したと思われるものであった。また，単に問題文中に出てくる数値を答えている解答も見られる。対称移動・平行移動については，問題 12 - B と同様に，グラフの概形をかき，実際に頂点などを視覚的に捉え，考察する力の育成が必要である。

15 - B 二次関数 $y = ax^2 - 2ax - a + 3$ ($0 \leq x \leq 3$) の最大値が 7 のとき， である。

ヒ： $a = -4$ $a = 2$ $a = -2$ $a = 1$
 $a = -4, 2$ $a = \pm 2$ $a = -4, 1$ $a = -2, 1$

二次関数の二乗の係数と定義域との関係を理解し，最大値の条件を利用できるかをみる

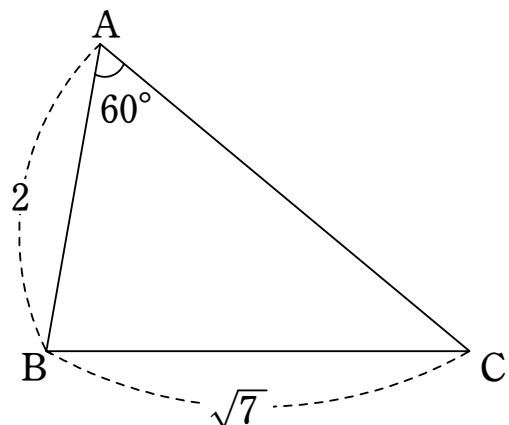
問題番号	記号	正解	正答率	誤答・無答率	誤答例
15 - B	ヒ		18.4	81.6	(33.2%)， (15.2%)， (11.9%) など

【考察】

二次関数の 2 乗の係数と定義域の関係を理解する問題である。正答率は低く，誤答の多くは 2 乗の係数が片方の符号の場合のみであった。二次関数というイメージから 2 乗の係数が正であると決めてしまっている生徒，最大値から上に凸のグラフのみをイメージしてしまう生徒が多いようである。また，短絡的に x が最大であるときに y も最大になると考えた生徒も多い。2 乗の係数によって場合分けが必要であることを再確認し，定義域を利用し頂点と端点の位置関係を，図を用いて正確に理解し，考察を深めていく指導が必要である。

16 - B 下の図のような ABC において， $AB = 2$ ， $BC = \sqrt{7}$ ， $\angle A = 60^\circ$ のとき，

$CA =$ であり， ABC の面積を S とすると， $S = \frac{\sqrt{\text{ヘ}} \sqrt{\text{ホ}}}{\text{マ}}$ である。



余弦定理を用いて辺の長さを求め、三角比を利用して面積を求めることができるかをみる

問題番号	記号	正解	正答率	誤答・無答率	誤答例
16-B	フ	3	74.9	25.1	4 (7.7%), 5 (5.7%), 2 (4.0%) など
	へ	3	41.9	58.1	$\frac{3\sqrt{7}}{2}$, $\frac{2\sqrt{7}}{2}$, $\frac{3\sqrt{2}}{2}$, $\frac{2\sqrt{7}}{3}$ など
	ホ	3			
	マ	2			

【考察】

フは、2辺の長さとして1つの角の大きさが分かっている三角形について、余弦定理を利用して残りの1辺の長さを求める問題である。辺CAについての二次方程式を解く必要があるが、正答率は比較的高くなった。しかし、無答率も高く、このあたりの問題まで手が回らない生徒も多いと考えられる。また、へ、ホ、マについては、先に求めたCAの長さを用いて三角形の面積を求める問題である。CAの長さが分かれば基本的な問題であるが、フと比較して正答率が低い。面積を求める公式の定着度が低いと考えられ、しっかり定着させたい。

17-B $0^\circ \leq \theta \leq 180^\circ$ とする。 $\sin \theta \cos \theta = -\frac{1}{4}$ のとき、 $\sin \theta - \cos \theta$ の値は

ニである。

$$\begin{matrix} \text{ニ} : & 1 & \pm 1 & \frac{\sqrt{6}}{2} & -\frac{\sqrt{6}}{2} \\ & \pm \frac{\sqrt{6}}{2} & \frac{\sqrt{5}}{2} & -\frac{\sqrt{5}}{2} & \pm \frac{\sqrt{5}}{2} \end{matrix}$$

三角比の相互関係を利用して式の値を求めることができるかをみる

問題番号	記号	正解	正答率	誤答・無答率	誤答例
17-B	ニ		34.3	65.7	(20.3%), (13.0%), (8.9%) など

【考察】

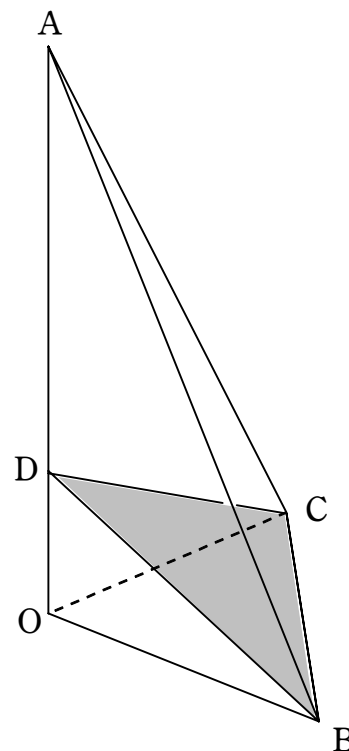
三角比の相互関係を活用して、解を求めていく問題である。 $\sin \theta \cos \theta$ の値から $\tan \theta$ の値を求める昨年より問題は解きやすく、正答率が上がった。しかし、 $(\sin \theta - \cos \theta)^2$ の値を求め、角 θ の条件と $\sin \theta \cos \theta < 0$ であることから、 $\sin \theta - \cos \theta > 0$ に絞られるが、最も多い誤答は2乗を外して、 \pm を付けたままの である。角度の変化とともに三角比の値がどのように変化していくのか丁寧に指導していく必要がある。

18-B 下の図のような $\angle AOB = \angle BOC = \angle COA = 90^\circ$, $OA = 4$, $OB = OC = 2$ の四面体 $OABC$ がある。点 D を辺 OA 上に $OD:DA = 1:3$ となるようにとる。

(1) $\cos \angle BDC = \frac{\boxed{\text{ム}}}{\boxed{\text{メ}}}$ である。

(2) 頂点 O から BCD に下ろした垂線と BCD との交点を H とするとき、

$OH = \frac{\sqrt{\boxed{\text{モ}}}}{\boxed{\text{ヤ}}}$ である。



三角比を用いて四面体の高さを求めることができるかをみる

問題番号	記号	正解	正答率	誤答・無答率	誤答例
18-B	ム	1	19.5	80.5	$\frac{1}{2}, \frac{2}{3}, \frac{3}{2}, \frac{1}{3}$ など
	メ	5			
	モ	6	10.0	90.0	$\frac{\sqrt{3}}{2}, \frac{\sqrt{5}}{2}, \frac{\sqrt{2}}{3}, \frac{\sqrt{3}}{3}$ など
	ヤ	3			

【考察】

$\boxed{\text{ム}}$, $\boxed{\text{メ}}$ は、三平方の定理を利用して BDC の辺の長さを求め、余弦定理を用いる問題である。余弦定理を同じように扱う共通問題 10 と比較して正答率が 30 ポイント程度低い。これは昨年度と同じ傾向であり、空間図形の一部を平面的に捉えて線分の長さや角の大きさを調べることが苦手な様子が出がえる結果となった。図形と計量に限らずベクトルなどでも必要とされる技能であることから、演習などを繰り返し、定着させる必要がある。また、 $\boxed{\text{モ}}$, $\boxed{\text{ヤ}}$ は、四面体の体積に着目して、2通りの表し方から垂線の長さを考察する問題である。 $\boxed{\text{ム}}$, $\boxed{\text{メ}}$ の結果を利用するため、正答率は必然的に低くなったと考えられるが、解答方法が見つからずほとんど手を付けられていないとも考えられ、見た目や問題に出ている数値を適当に組み合わせた誤答が目立つのは残念である。

3 分析のまとめと指導上の改善

<分析のまとめと課題>

(1) 基礎的・基本的な知識や技能

変形手順や定義，公式に関する単一の知識・技能の習得状況をみる問題 2，4，7，8，10 については，正答率が 47% を超えており，「方程式と不等式（数と式，二次方程式，二次不等式など）」，「図形と計量」の基礎・基本事項については，一定の定着が見られる。

複数の基本事項を組み合わせて処理する問題 1 や，定理の活用法を思考・選択することが必要な問題 9，絶対値や二次関数を扱った問題 3，5，6 は，正答率が低い。

課題 1：授業や家庭学習において，基礎・基本の定着が，知識の習得・技能の習熟に偏っている。

(2) 数学のよさや思考することの楽しさ

文章の内容を読み取りながら電球と電気代との合計金額を比較することで一次不等式をつくり，その一次不等式を解くことによって答え導き出す問題 11 - A，11 - B では，ある程度の正答率が得られている。

余弦定理を用いて池をはさんだ 2 地点間の距離を求める問題 17 - A や，四角形の土地を 3 つの三角形に分割することで面積を求める問題 18 - A は正答率が低かった。また，空間図形を平面図形に着目して考察したり，四面体の体積の 2 通りの求め方を考察したりする問題 18 - B でも，正答率が低い。

課題 2：数学を活用する場面では，その有用性に気付くことができず，問題の本質が何なのかを見つけたり，複数の視点から問題を考察したりする力が不足している。

(3) 論理的な思考力

問題 14 - A，17 - B など段階を踏み複数の知識・技能を順に用いる場合，公式，定

<指導改善のポイント>

基礎的・基本的な知識や技能の定着度を高めるとともに，数学を学ぶ意欲を向上させるために，数学を学習する楽しさや意義，数学的な見方や考え方のよさを実感させる授業を工夫する。

身近に見られる事象や体験した事柄を数学化するなど，現実の生活を反映した問題を多く扱ったり，文化や社会生活において数学が果たしている役割を話題にしたりすることで，数学への興味・関心をもたせ，学習意欲を高めるよう指導する必要がある。

公式や定理の導き方を考えさせ，生徒自身に学習の必要性を気付かせ，数学的な見方や考え方のよさ・数学的表現のよさ・数学の美しさを認識させるようにすることが大切である。

数学を学ぶことの有用性に気付かせながら，様々な視点から問題を考察するための思考力を，生徒同士が互いに高め合えるよう指導を工夫する。

「実生活において数学をどのように役立てられるのか。」という視点を重視し，身近な話題を取り上げ，数学の知識を用いながら問題解決する過程を考察させることで，数学を学ぶことの有用性を認識させることが必要である。様々な公式や定理がどのような場面で役立つのかということに気付かせ，それらの利用法を深く考えさせるように指導を工夫することが必要である。

グループ学習を積極的に授業に取り入れ，グループ内で論理的に思考させたり，自分の考えを表現させたりすることが必要である。単に一人で思考するだけでなく，他の人の意見も聞きながら新たな考えを生み出していくことで，思考が深まり，問題解決に向けて様々な視点から考えることが可能となる。結果として，思考することの楽しさをグループ内で共有し，互いの思考力を高め合うことに繋がると考えられる。

論理的に思考する力を育成するために，自らの考えを数学的に表現し根拠を明らかにして説明したり議論したりする指導を工夫する。

理や式変形の手順が基本的なものであるにも関わらず、正答率が低い。

普段の生活の場において、問題解決に数学を活用する機会が少ないため、問題 17 - A や 18 - A では、どの公式をどのように利用するのか戸惑い、正答率が低い。

問題 11 - A , 17 - B などの正答率・誤答の内訳から、立式はできるが、得られた解の適切さを吟味する力の定着が不十分であることもうかがえる。

課題 3：基本的な概念や原理・法則を理解したり、論理的に思考したりする機会としての数学的活動が少ないために、公式や定理を活用する力や得られた結果を吟味する力が身に付いていない。

(4) 文や図の読解力、数学的表現を活用した思考力

問題 6 や問題 14 - A ・ B の正答率の低さからは、グラフの概形をかいていないため対称移動や平行移動を視覚的に捉えきれず、図形的な意味を理解できていないことがうかがえる。

問題 11 - A ・ B のような数量の大小関係に関するものは、「時間」の関係や「以下」、「下回る」の言葉の意味と大小関係を正しく不等式を用いて表現することが不十分であると考える。

問題 13 - A ・ B では、グラフが通る点を読み取り、放物線の対称性から頂点の座標を考えて、二次関数の方程式を求める力が不足していることがうかがえる。

問題 15 - A ・ B のように、二次関数の最大値の問題の正答率の低さから、グラフや式の条件を読み取る力が不十分であり、思考を深めることができない様子が見られる。

課題 4：文章や式、グラフなどから必要な情報を読み取り、それを活用する力や、数学の用語や記号、グラフなどを用いて表現し、思考する力が不足している。

授業において「公式や定理がなぜ成り立つのか。」ということ意識させ、そのことについてじっくりと思考・考察させることが重要である。一般化を急がず、公式や定理を導く過程と問題解決や解答の過程とが一致するような具体例を扱い、公式や定理が問題解決に役立つことに気付かせるとともに、それらの導出過程を他の場面に応用できるようにするような指導が必要である。

学習した内容を生活と関連づけ、具体的な事象の考察に活用することが求められる。様々な課題について、数学的に表現し、処理して得られた結果をもとの課題に戻してその意味を考えさせるような指導が必要である。

数学の用語や記号を用いて書かれた文章などを理解・処理するために、グラフや図を活用し、具体化・視覚化することを通して思考が深められる示唆や支援を重視する。

文章問題については、変数を文字で置く処理や要点をまとめ大小関係を正確に把握し立式する力が不足していることから、具体数に置き換え問題を考察することの大切さを指導していく必要がある。

二次関数の種々の問題では、単に式変形のみで思考するのではなく、実際にグラフをかき、軸に関する対称性などのグラフの持つ特徴をつかむとともに、対称移動や平行移動の図形的な意味やその性質を理解することで、状況を正確に判断し問題の本質を捉えさせる指導が必要である。

ICT を積極的に活用し、文字を含む式においてグラフの図形的な意味や性質理解を深め、変数の値に伴って定義域や値域が変化することを予想し、状況を視覚的に捉えさせることなどを通して、生徒自身が事象の変化に対応し、考察を深めていくことができるような指導の工夫が必要である。

学習事項を継続的に復習すること、一方的な授業にならないよう数学的活動を工夫して授業を実践することにより、創造性の基礎を培い、数学を活用する能力と態度を育成することが今後求められる。

良好な状態

今後の改善が求められる状態

教科に関する調査「英語」 結果と考察

1 出題のねらいと内容

高校1年生で身に付けていてもらいたい英語力を，リスニングを含めた様々な出題方式によってみる問題とした。基本的な語彙・文法力を確かめるとともに，実際のコミュニケーションを想定した問いや，短時間でまとまった量の英語の情報処理能力をみることに重点を置いた。

2 設問ごとのねらい，結果の分析と考察

1 リスニング問題：地図，時計，グラフを見ながら英文を聞き，正しい描写を適切に答える問題

解答記号	正解	正答率	誤答率	無答率	選択肢ごとの誤答率	
1	ア	3	65.2	34.1	0.8	「1」11.5%，「2」17.1%，「4」5.5%
	イ	1	65.5	33.9	0.6	「2」11.9%，「3」19.7%，「4」2.3%
	ウ	4	71.4	27.8	0.8	「1」9.0%，「2」10.6%，「3」8.2%

【考察】

問題アは，場所を表す語句を理解しているかどうかをみる問題である。他の選択肢に比べ，正答になる文では at が使われており，比較的容易であったと思われる。問題イは，時計を見て時刻を表す語句を正しく選択する問題である。この問題では，“fifty” と “fifteen” を正確に聞き分けられるかがポイントとなる。問題ウは，比較表現が含まれた文を聞き，グラフが表す情報と一致するものを選ぶ問題である。どの選択肢も基礎的な表現であり，most が理解できれば比較的容易に正答を選ぶことができたはずである。

2 リスニング問題：英語による会話を聞き，流れに沿って適切に応答する力を見る問題

解答記号	正解	正答率	誤答率	無答率	選択肢ごとの誤答率	
2	エ	1	35.5	63.4	1.1	「2」25.6%，「3」26.9%，「4」10.9%
	オ	4	46.1	52.7	1.2	「1」12.0%，「2」20.3%，「3」20.4%
	カ	3	28.4	70.4	1.2	「1」21.6%，「2」38.5%，「4」10.4%

【考察】

問題エは，新しい会社までの通勤手段を尋ねる質問であることを理解し，適する応答を選ぶ問題である。それぞれの選択肢が全く異なる内容であるため，“How do you get there?” が「どのようにしてそこ（新しい会社）へ通っているのですか」という質問であると把握できれば迷うことなく正答を選ぶことができたのではないと思われる。しかし，通勤時間を表す選択肢2や，質問文に使われた get に惑わされて選択肢3を選ぶ誤答も見られた。

問題オは，タクシーに携帯電話を置き忘れたことについて，適する応答を選ぶ問題である。Aさんの “I left my cell phone in the taxi.” “But I can't find it anywhere.” が聞き取れれば，選択肢2や選択肢3は適切ではないこと，会話の流れから助言の役割を果たす文が正答であると導き出せたはずである。

問題カは，相手のコンピュータを使用する許可を求める表現の理解を問う問題である。Aさんの “Do you mind if I use it?” という発言の意味と返答の仕方が捉えられていれば正答を選ぶことができる。誤答である選択肢2を選んだ生徒が比較的多かったが，その原因としては会話の最初にある “Have you finished using the computer?” を聞き逃したこと，“Do you mind ~?” の mind が本来「～をいやがる，気にする」という意味の動詞であるため，「いいですよ」という返答として “Not at all.” が使われることに馴染みがなかったことなどが考えられる。

3] リスニング問題：まとまった英文と質問を聞き、内容を正しく理解し、適切に答える力をみる問題

解答記号	正解	正答率	誤答率	無答率	選択肢ごとの誤答率	
3]	キ	2	77.1	22.1	0.7	「1」 6.1% , 「3」 11.2% , 「4」 4.8%
	ク	4	61.7	37.6	0.8	「1」 8.1% , 「2」 18.8% , 「3」 10.7%
	ケ	3	26.8	72.4	0.8	「1」 45.4% , 「2」 10.8% , 「4」 16.2%

【考察】

この設問は、会話文ではなく、1人の人物によるまとまりのある英文を聞き、その内容に関する質問に適した答えを選ぶ形式である。このような形式の問題に取り組む上で有効な方略として、事前に質問や選択肢に目を通し、話題を予想したり、ある程度的を絞って英文を聞くこと、メモを取ることが許されている試験では、キーワードや日付、時刻、場所や数字などを積極的にメモし、情報を整理することなどが挙げられる。

問題キは、スピーチをすることになっている男性の心境についての英文である。この問題は、memorized, paper, speakers, speech, stage のような正答につながるキーワードが多く、文レベルではなく単語レベルでしか理解できない生徒にとっても理解しやすく、非常に高い正答率になったと考えられる。

問題クは、男性が明日の自分の予定を述べている英文である。途中、忘れていた予定を思い出したり、当初の予定をキャンセルしたりという紛らわしい箇所はあるものの、“I'll do my shopping tomorrow after school.” が聞き取れた生徒は正答を選択できたようである。

問題ケは、あらかじめ選択肢に目を通しておくことで、誤答を消去していきながら解答できる問題である。正答率が低かった要因としては、選択肢が比較的長い英文であること、ストーリー全体を聞き取る必要があることなどが挙げられる。結果としては選択肢1を選ぶ誤答が目立った。ストーリーでは“bound for ~” “~行きの”となっていたが、選択肢1は“left ~” “~を出発した”と表現されており、このforの有無による意味の相違に気づかなかったためであると思われる。

4] 語彙・熟語・文法問題：英語によるコミュニケーションを図るために必要となる基礎的・基本的表現、語法など、言語に関する知識・理解をみる問題

解答記号	正解	正答率	誤答率	無答率	選択肢ごとの誤答率	
4]	コ	4	24.1	75.3	0.6	「1」 33.5% , 「2」 24.5% , 「3」 17.3%
	サ	2	26.7	72.7	0.6	「1」 7.5% , 「3」 57.0% , 「4」 8.3%
	シ	4	28.6	70.8	0.6	「1」 10.6% , 「2」 38.5% , 「3」 21.7%
	ス	1	38.3	60.9	0.8	「2」 24.7% , 「3」 16.2% , 「4」 20.0%
	セ	3	27.3	71.9	0.8	「1」 17.1% , 「2」 25.6% , 「4」 29.2%
	ソ	1	24.4	75.0	0.6	「2」 36.5% , 「3」 26.3% , 「4」 12.1%
	タ	2	52.6	46.7	0.7	「1」 16.5% , 「3」 14.5% , 「4」 15.7%
	チ	1	14.7	84.6	0.7	「2」 18.5% , 「3」 10.8% , 「4」 55.3%
	ツ	3	19.8	79.4	0.8	「1」 45.6% , 「2」 9.3% , 「4」 24.5%
	テ	4	37.3	61.8	0.9	「1」 14.2% , 「2」 16.8% , 「3」 30.8%
	ト	4	40.0	59.1	0.8	「1」 26.5% , 「2」 14.1% , 「3」 18.5%
ナ	2	22.3	76.8	0.9	「1」 15.5% , 「3」 34.3% , 「4」 27.1%	

【考察】

正答率が低く、1割台に落ち込んだのは問題チ、ツであった。問題チは半数以上が“where”を選択した。先行詞“the place”に惑わされ、他動詞“visit”を考慮できなかったと考えられる。問題ツに関しては<否定の副詞>及び<倒置の語順>の理解が十分でなかった。

次に正答率はそれほど低くないが、特定の選択肢の誤答回答率が正答率を大きく上回ったものが

問題サ, シ, ソ, ナの4つであった。これは文法・語法の知識が誤りを含んだまま定着している可能性を示すものである。問題サでは、<be looking forward to>の前置詞“to”を不定詞と捉え“to see”を選択した誤答率が57.0%であった。問題シは<特定・不特定を表す代名詞>の理解が不十分で、38.5%が“another”を選択した。問題ソにおいては<would rather do>という助動詞の用法が解らず、36.5%が“to stay”を選択した。問題ナに関しては「余地, 可能性」という意味の名詞を選ぶ問題であったが34.3%が“area”, 27.1%が“place”を選択してしまった。

問題コ, セに関しては、解答のばらつきが最も大きかった。これは文法知識が極めて不十分なために正解を絞り切れなかったためと考えられる。問題コは<分詞の形容詞的用法>を問う問題であるが、選択肢にある分詞は現在分詞の“beginning”のみだったにも関わらず正答率は24.1%に留まった。また問題セは使役動詞<make+目的語+原型不定詞>を問う問題であったが、正答の“wonder”を選んだのは27.3%に留まった。

一方、正答率が高かったのは問題ス, タ, テ, トであった。問題スは<否定の副詞>を問う問題であり、問題タは倍数表現を問う問題であった。また、問題テは正答率が高い中において30.8%が“in front of”を選んでしまった点が気になる。問題トは仮定法の時制を正しく理解していれば“were”を選ぶことができた。しかし、全体的に見ると正答率は低く、基礎的な知識の一層の定着が必要であるといえる。

5 整序問題：与えられた語句を正しい語順に並びかえて英文を構成することにより、言語に関する知識・理解と表現する力をみる問題

解答記号	正解	正答率	誤答率	無答率	選択肢ごとの誤答率	
5	ニ	2	54.7	44.4	0.9	「1」8.5%, 「3」21.8%, 「4」14.1%
	又	4	39.8	59.1	1.1	「1」24.5%, 「2」17.0%, 「3」17.6%
	ネ	1	57.4	41.8	0.8	「2」28.5%, 「3」7.4%, 「4」5.8%
	ノ	1	54.3	44.6	1.1	「2」15.9%, 「3」20.0%, 「4」8.8%
	ハ	2	51.8	47.2	1.0	「1」22.9%, 「3」14.7%, 「4」9.6%

【考察】

問題二に関しては、高い正答率から、前置詞“without”の後には動名詞が続くことを理解している生徒が多いことがわかる。また、選択肢3の誤答から“go out of~”の表現の理解度の低さがうかがえる。問題又は正答率が一番低く、「~するために」の目的を表す不定詞を“in order to~”ではなく“to~”としてしまった誤答が目立った。問題ネでは、Yes - No 疑問文の理解度の高さが見られるが、形式目的語itの用法を理解していない生徒が多いことも推測される。問題ノでは“there used to be~”の用法の理解度が比較的高いことがうかがえる。ただし、“over there”を“over to there”にする誤答が目立った。問題ハでは関係代名詞の目的格which(that)の省略に気づき、後半のS+Vをしっかりと組み立てられるかがポイントとなった。正答率は5問中4問において5割以上であり、全体の正答率の平均は51.6%であった。

6 HPに掲載されている周遊券に関する案内文をもとに必要な情報を読み取る情報検索問題

解答記号	正解	正答率	誤答率	無答率	選択肢ごとの誤答率	
6	ヒ	1	52.0	46.7	1.3	「2」16.3%, 「3」13.0%, 「4」17.3%
	フ	3	37.2	61.1	1.7	「1」18.3%, 「2」29.6%, 「4」13.2%
	へ	3	35.4	62.9	1.8	「1」18.2%, 「2」27.1%, 「4」17.6%
	ホ	1	27.3	71.0	1.7	「2」30.5%, 「3」17.4%, 「4」23.1%
	マ	2	33.7	64.1	2.2	「1」15.5%, 「3」27.4%, 「4」21.2%

【考察】

問題ヒは「1ヶ月間ヨーロッパの11カ国を旅行する」場合に、もっとも安価なチケットはどれで

あるかを問う問題である。これは本文中にある価格表の No. 1 に「30 日間有効，22 カ国に入国可」とあるので正解は選択肢 1 となる。本文中の該当箇所を見つけやすかったためか正答率も高かった。

問題フは本文中の Lowest Prices と Various Payment Methods の箇所にその記述がある。「ヨーロッパで最も安いチケットを提供するため為替相場を調査しており，他の会社より平均 20%安く買え，支払いはその地域の通貨で大丈夫」と読み取れる。よって正解は選択肢 3 となる。

問題ヘは「旅行中トラブルが起きた場合」についての問いである。本文中の Assistance Service がその該当箇所に当たる。本文中に“ Available 7 days a week , from 7 a.m. to 10 p.m. ”とあるので選択肢 3 が正解となる。

問題ホはチケットを受け取る日を基準に，何曜日に注文するべきかを問う問題である。「日本にいるあなたの友人」がチケットを受け取るので“ To Asia ”の部分を読めばよい。「午後 4 時前に注文すれば，3 日で受け取ることができる」とあるが，2 の注釈に“ We can't accept your order on weekends ”とあるので，金曜日に注文しないと火曜日までに受け取ることができない。従って選択肢 1 が正解となる。注釈部分が読み取れなかったためか，正答率は低かった。

問題マの正解は選択肢 2 である。これは大人 2 人，子供 2 人(5 歳の少年と 8 歳の女の子)の 4 人家族が Regional Pass を購入する場合の合計金額を表している。1 の注釈に“ Price for children under 12 is half ”とあり，大人 2 人(\$ 2 4 8)+子供 2 人(\$ 1 2 4)= \$ 3 7 2 となり正解。選択肢 1 は，船や飛行機に関する記述が無いので誤り。選択肢 3 は，人気に関する記述が無いので誤り。また選択肢 4 に関しては Fast Delivery の部分に“ Tickets are sent to all over the world ”とあるので，「アジア・南北アメリカ・ヨーロッパ以外」という部分が誤りとなる。

7 長文問題 A エッセイを読んで，その概要を理解し，的確に内容を読み取る力をみる問題

解答記号	正解	正答率	誤答率	無答率	選択肢ごとの誤答率	
7	ミ	4	26.0	70.1	3.9	「1」17.2%，「2」27.9%，「3」25.0%
	ム	3	32.1	63.6	4.3	「1」20.7%，「2」23.3%，「4」19.5%
	メ	2	26.7	68.8	4.6	「1」26.7%，「3」24.0%，「4」18.1%
	モ	3	26.3	68.9	4.8	「1」23.5%，「2」25.8%，「4」19.6%
	ヤ	1	19.9	75.4	4.7	「2」25.5%，「3」30.1%，「4」19.8%

【考察】

長文問題 A の正答率は約 26% と全体的に低かった。リスニングを除いた約 35 分という時間の中で，じっくりと英文を読む時間を確保できなければ，この問題に費やす時間は限られてくる。解答傾向から，熟考する間もなく，解答せざるを得ない生徒が多数いたのではないかと推測できる。また，時間不足ゆえに，本文中に出てきた表現からの推測や部分的な読み取りになってしまったことが誤答選択につながっているのではないだろうか。よって，語彙力だけでなく，ある程度の語数の英文を読み，短い時間で大意を把握する力を養うことが必要とされる。

問題ミは，第 1 段落冒頭の“ with only a little land around my home ”を読み取り，それに続く接続詞以降の“ I grow a variety of vegetables on my roof ”とのつながりを理解できれば正答を導き出せる。選択肢 2 の“ an exciting hobby ”は「家庭菜園」の話題を大まかに推測して誤答率が高くなったと思われる。

問題ムは，第 2 段落の内容を読み取れば正答を導き出せる。ただし，本文中に to 不定詞の目的用法や“ keep my room cool ”という表現が使用されており，文法項目や語句内容の理解不足のためからか，正答率はさほど高くなかった。

問題メは，比較的解答しやすい問題であると思われる。ただし，選択肢 1 は第 3 段落，選択肢 3 は第 2 段落，選択肢 4 は第 5 段落に書かれているため，解答するためには本文全体に目を通し，情報をしっかりと読み取る力が必要である。また，“ a trendy bitter melon ”が“ goya ”の言い換え表現であることに気づくことが読み取りのポイントとなる。

問題モは“ my little piece of heaven ”の“ heaven ”が場所を表す言葉の比喩表現であることに気づくことがポイントである。“ heaven ”（楽園）が収穫物を得る場所、すなわち“ the author’s rooftop garden ”であることが理解できれば正答を導き出せる。選択肢1と2の誤答は、熟考せずに解答を選んだ可能性がある。

問題ヤは文脈を読み取り、空所に適切な語を入れる問題であるが、最も正答率が低かった。第6、7段落を読み取ることができれば選択肢1を導くことができる。その中でも第6段落の“ the pleasure of using vegetables ”や“ real happiness ”、第7段落の“ within reach ”などの記述をしっかりと読み取ることがポイントとなる。

7 長文問題B：説明文を読んで、その概要・要点を理解し、的確に内容を読み取る力をみる問題

解答記号	正解	正答率	誤答率	無答率	選択肢ごとの誤答率	
7	ミ	2	32.0	66.0	2.1	「1」19.4%、「3」16.1%、「4」30.4%
	ム	3	49.9	46.7	3.4	「1」11.4%、「2」20.4%、「4」14.9%
	メ	2	29.0	66.4	4.6	「1」18.7%、「3」29.5%、「4」18.2%
	モ	1	24.7	70.1	5.3	「2」24.4%、「3」23.5%、「4」22.2%
	ヤ	3	38.5	56.2	5.4	「1」16.0%、「2」20.6%、「4」19.6%

【考察】

絶滅の危機に瀕しているトラの話であり、人間による乱獲がその最大の要因になっているという内容を読み取らせる問題である。英文の量は800語前後で、昨年とあまり差はない。難しい表現もあるが、前後関係から内容を推測し、読み解くことができる難易度だと考える。しかし、後半の問題に進むにつれて無答率が高くなっていることから、全体的に、限られた時間の中で精読し、更に正解に結びつく情報を見つけ出すことが困難だったようである。

問題ミは、筆者が最も主張したい事柄を選ぶ問題である。解答に当たる英文は、第1段落のキーセンテンス中にあり、そこから解答を選択することができる。しかし、設問の意味をよく理解せずに、本文中の表現がそのまま記述されてある他の選択肢を選んだ傾向が見られる。特に、選択肢4の内容は、第2段落の終盤にあるため、まとめの英文、つまり筆者の主張だと読み違い、誤答率が高くなったものと思われる。問題ムについては、半数近くの生徒は、第8、9段落からキーワードとなる“ body parts ”や“ medicine ”を見つけ、正答を選択したものと考えられる。しかし、選択肢3以外の記述は、そもそも本文にないため、もう少し高い正答率を期待していた。問題メは、下線部直後の“ In reality, the tiger does not usually hunt any animal larger than itself, such as the elephant. ”から、選択肢2の「自分より大きな動物を攻撃する」が正解になる。しかし、誤答である選択肢3を選んだ割合が正解を選んだ割合とほぼ同じという結果が出た。これは、トラにとって何がリスクなのかということや、なぜそのような状況に陥っているのかという内容を十分に読み取ることができず、本文中に使用されている語句が使われている選択肢を選んだのではないかと推測する。問題モは、本文中に述べられていないものを選ぶ問題である。設問、選択肢ともに平易な英文、あるいは本文と同様の語彙表現を使っているが、本文すべてに目を通していないと答えが選択できない設問であるため、正答率が低く、さらに無答率も高かった。問題ヤについては、最後の段落から答えを読み取ることができる。また、選択肢3以外は本文の内容に合わないものであることから、約4割という高い正答率になったと考える。しかし、問題モ同様、無答率が高いため、解答時間が足らなかった生徒も多いようである。

以上の結果から、今回の問題では、設問の意味や筆者の主張を捉えきれずに誤答しているケースが見られる。長文読解には、必要な情報や筆者の考えなどを的確に読み取る力が必要である。語彙力や構文を把握する力の強化の他に、様々な長文に触れ、introduction(導入)body(展開)conclusion(結論)といった英文独特の段落構成や、キーワードやキーセンテンスを意識した読み方をし、読解力をつける必要がある。また、スキミング(情報検索読み)などを行い、限られた時間の中で

素早く要点を捉える練習も必要である。

3 分析のまとめと指導上の改善

< 分析のまとめと課題 >

(1) リスニングの力について

基本的な聞き取る力は、正答率が6～7割程度であることから、定着度合いは概ね良好と思われる。ただし、長めの英文に対しては対応できておらず、今後の課題として考えておく必要がある。

中学校までに習う基本的表現に関して、その定着度合いは高い。

語法が多岐にわたる動詞が含まれる比較的長い英文の中で、その語がどの用法で使用されているかをつかみ取ることなど、細部にわたる読み取る力について課題が見えた。

課題1：まとまった量の英語を聞き取る際、使われている動詞の語法などを文脈に応じて理解し内容を聞き取る力が不足している。

(2) 語彙・熟語・文法の力について

出題された問題はいずれも、文法・語法の基本的な内容を扱ったものである。しかしながら、正答率が5割を超えたものは1問だけであり、2～3割の問題が多くを占めた。学習した内容が知識として定着しておらず、問題としてその活用を問われた場合に、ほとんど対応できていないことが見て取れる。

高校で学習する語彙・熟語・文法を正しく使用できるレベルまで到達していない。

特に動詞に関する表現に関しては、多くの分野で活用力が身に付いていない。

課題2：高校段階で学習する語彙・熟語・文法、とりわけ動詞に関する知識・正確に身に付いていない。

(3) 表現する力について

整序問題において、日本語にはない英語特有の語順に関して対応できていた生徒が、ある程度は認められた。しかしながら、対話表現にお

< 指導上の改善ポイント >

聞き取る力の土台となる基礎的な文法・語法の定着を図り、まずは音読指導を多く取り入れる。その上で英語を聞く機会を多く設け、音声への慣れを促す。

誤答傾向をきちんと把握することが必要である。何が分からなかったから正しく聞き取ることができないのかの分析が必須である。

英語を聞く機会を多く設ける。

多様な音読指導を通じ、英語のリズムなどに慣れさせ、英語を聞くことを苦にしない態度を育成することが必要である。

聞く目的を持たせた上でリスニング活動を実施することが重要である。そのためには、授業における教師のモールトークなどの活用が望まれる。

文法・語法を言語活動と効果的に関連づけて指導することが重要である。知識を定着させ、活用できるまでに高める指導が求められる。

教師が既習の文法・語法を用いたモールトーク等をするにより、生徒に活用場面を意識させる。

授業において生徒が既習の文法・語法を用いたコミュニケーションをする場面を作り出す。

生徒の言語活動に対して、教師からの明示的なアドバイスを欠かすことなく与え続け、どのように英語を運用すべきかを、文法・語法の活用を通して体得させる。

話すこと・書くことを中心とした言語活動を充実させ、生徒の表現活動を多く取り入れることが望まれる。

既習の言語事項を様々な活動で生徒



いては、日本語の感覚をそのまま英語に当てはめて考えてしまうなど、コミュニケーションの場面において必要とされる運用力には課題がある。

日本語との語順の違いに注意して英語を表現できる能力については、ある程度身に付いている。

英語特有の言い回しなど、日本語の感覚が当てはまらない表現に関する理解が不足している。

課題3：日本語とは異なる英語特有の表現に関する理解の定着が十分ではない。

(4) 読解する力について

長文を読むために必要な語彙力・文法力・構文を把握する力などを総合的に身に付けることは容易ではなく、正答率の低調さがそのことを表している。単純に情報を読み取るだけの設問には半数の生徒が対応できてはいたが、ある程度以上深い読み取りを必要とする設問になると、正答率は大きく低下していた。誤答傾向にも有意なデータは少なく、長文を読むという行為そのものに苦手意識を持っていることがうかがえる。

英語で示された資料などから、必要な情報を探し出す力はある程度認められる。

未知の単語について、その意味を推測することなどをせず、早々に読むことをあきらめる傾向が見受けられる。

課題4：英語の長文を読むという活動に対する慣れが不足している。また、読解に必要な語彙が不足している。



に活用させる場面を多く持つ。

生徒が話したこと・書いたことに関して、その都度教師が適切なアドバイスを与えるなど、よりよい表現モデルを提示することが大切である。

教師の説明が大半を占めるような授業ではなく、説明した事柄を生徒が実践する場を確保する。

生徒が興味関心を示し、表現したくなるような題材を選ぶことも重要である。

自ら進んで英文を読もうとする態度の育成が急務。そのためには言語に関する基礎基本事項を定着させることが必要である。

英語という言語に関する関心を持たせる。その上で生徒の興味を引く題材を活用して、生徒自らが進んで読もうとする場面作りを工夫する。

読む活動をする前に、背景知識を与える、使用語彙を定着させるなどの活動を行い、前向きに取り組む下地を作る。

読解の手助けとなるような発問を工夫して、生徒が読み続ける姿勢を支援する。

パラグラフリーディングやスキミング等の読解の手法を示し、目的を持って長文を読む態度を育成する。

平成25年度から新学習指導要領が高校外国語科においても施行され、「聞く」「話す」「読む」及び「書く」の4技能を総合的に育成することが求められる。そこには小学校での外国語活動でコミュニケーションの素地を養うという目的から始まり、中学校での指導を経て、高校3年間の指導を通じてコミュニケーション能力を育成するという大きな流れがある。しかしながら、今回の学習状況調査を見る限り、高校1年生段階において、コミュニケーション能力を支える基礎基本となる英語力が十分に身につけているとは言えない状況である。これには生徒が英語を活用するという英語力を高めるためには当然の活動が欠如していることが考えられる。これは新学習指導要領において、「英語による授業」が求められていることとは不可分ではないであろう。教師はこのことを肝に銘じて、これからの英語教育に携わって行くべきであろう。

質問紙調査結果 Q1～Q25(2学年)

Q1 高校卒業後、進みたいと考えている進路のうち、現在最も強く希望しているのは次のうちどれですか。

南部 中部南 中部北 北部 東部 全体						1年次 H23		
18.1%	37.3%	43.7%	23.0%	19.6%	31.8%	34.2%	32.6%	4年制国立大学
12.1%	20.6%	20.9%	10.3%	15.0%	17.0%	11.0%	16.2%	4年制私立大学
3.2%	1.7%	2.5%	4.1%	3.4%	2.9%	3.0%	3.2%	短期大学
19.7%	14.0%	12.5%	18.3%	20.1%	15.9%	16.7%	15.6%	専修学校・各種学校
32.7%	16.6%	11.4%	27.3%	22.9%	19.6%	16.7%	20.2%	民間就職
5.7%	2.8%	2.8%	6.5%	5.4%	4.2%	4.1%	3.8%	公務員就職
0.0%	0.2%	0.1%	0.6%	0.5%	0.3%	0.3%	0.3%	家業
6.4%	5.1%	4.7%	7.7%	10.4%	6.5%	12.4%	6.5%	未定
2.0%	1.2%	1.0%	2.2%	2.3%	1.6%	1.3%	1.5%	その他
0.2%	0.6%	0.4%	0.2%	0.3%	0.4%	0.3%	0.1%	記入ミス・無答

・ の「国立大」、 の「短大」進学希望者は、1年次よりそれぞれ2.4、0.1ポイント減少。 の「私立大」は6.0ポイント増加
 ・ 大学進学希望者（～）は51.7%で、前年度より0.3ポイント減少
 ・ 就職希望者（～）は24.1%で、前年度より0.2ポイント減少
 ・ の「未定」は、1年次より5.9ポイント減少
前年度より大学進学希望者が2年連続で減少
各学校の入学時からの進路指導等により、1年次より未定者が減少し、進路希望が具体化してきており、今後は、目標実現に向けた継続的な指導が必要である。

Q2 自分の進路希望の達成について、どのように考えていますか。

南部 中部南 中部北 北部 東部 全体						1年次 H23		
62.5%	66.9%	67.9%	65.9%	63.7%	66.1%	55.0%	61.0%	卒業までに絶対達成しようと思っている。
8.8%	8.2%	8.0%	8.7%	9.6%	8.5%	12.3%	9.1%	達成するまで、卒業後1、2年かかってかまわないと思っている。
15.5%	13.6%	13.2%	13.1%	13.6%	13.6%	19.7%	16.8%	卒業までに達成できなければ他の進路に変えてもいいと思っている。
8.9%	7.7%	7.6%	8.6%	8.4%	8.1%	8.3%	9.1%	何とかなるだろうと思っている。
3.9%	2.9%	2.9%	3.3%	4.3%	3.3%	4.6%	3.8%	あまり考えないようにしている。
0.3%	0.6%	0.5%	0.4%	0.4%	0.5%	0.1%	0.2%	記入ミス・無答

・ の「卒業までに絶対達成しようと思っている」が、1年次よりも5.1ポイント増加
 ・ の進路達成意識が弱い層の割合は、1年次よりも3.8ポイント減少
進路達成意識が向上している者が増加していることから、今後は、達成意識が低い者について、さらなる働きかけが重要である。

Q3 普段どんな気持ちで勉強していますか。最も強く思っているものを選んでください。

南部 中部南 中部北 北部 東部 全体						1年次 H23		
10.1%	9.0%	9.3%	7.9%	8.6%	8.9%	12.5%	10.5%	分からないことでも自分の力で答えを見つけられるようになりたい。
10.5%	12.6%	11.6%	12.8%	11.1%	11.9%	15.8%	13.6%	多くのことを知り社会に出て役立つ力を身につけたい。
14.1%	16.3%	17.0%	15.0%	13.9%	15.6%	14.8%	15.4%	入学試験や就職試験に備えたい。
1.4%	1.1%	1.4%	1.0%	0.9%	1.2%	1.0%	0.9%	親や先生にほめられたい。
32.3%	35.3%	36.1%	37.0%	35.0%	35.5%	33.4%	34.8%	成績を上げたい。
2.5%	2.6%	2.8%	2.1%	2.7%	2.6%	2.3%	2.1%	先生や家族に言われるから勉強している。
26.5%	20.0%	19.0%	21.6%	24.4%	21.4%	17.4%	19.9%	特に考えていない。
2.3%	2.5%	2.3%	2.3%	3.1%	2.5%	2.3%	2.4%	その他
0.4%	0.8%	0.5%	0.4%	0.4%	0.5%	0.5%	0.4%	記入ミス・無答

・ 1年次同様、 の成績向上を意識して勉強している者が35.5%と高い。
 ・ の知的好奇心・探究心や社会で役立つことを意識している者が合わせて20.8%で前年度より3.3ポイント減少。
 ・ の進路に関する動機付けと捉えている者が、1年次より1.0ポイント増加
 ・ の学習に消極的な層の割合は24.0%で、前年度より2.0ポイント減少
学ぶ楽しさや学ぶ意欲を実感させ、学習意欲を喚起していく様々な活動を取り入れた授業実践が今後も望まれる。

Q4 学校の授業の内容がどの程度理解できますか。

南部 中部南 中部北 北部 東部 全体						1年次 H23		
6.4%	6.5%	7.9%	6.0%	6.9%	6.9%	7.2%	6.9%	ほとんどの授業がよく理解できる。
36.2%	39.6%	38.0%	35.7%	35.7%	37.4%	42.9%	38.1%	理解できる授業の方が多い。
43.5%	40.8%	41.3%	45.7%	44.8%	42.8%	40.5%	42.7%	理解できる授業と理解できない授業が半分くらいずつある。
11.1%	10.3%	10.4%	9.8%	10.1%	10.3%	7.6%	9.6%	理解できない授業の方が多い。
2.3%	2.1%	2.0%	2.1%	2.0%	2.1%	1.4%	2.3%	ほとんどの授業が理解できない。
0.6%	0.7%	0.5%	0.7%	0.5%	0.6%	0.4%	0.4%	記入ミス・無答

・ の「概ね理解できる」と回答した者は44.3%で、前年度より0.7ポイント減少し、1年次より5.8ポイント減少
 ・ の「あまり理解できない」と回答した者は12.4%で、前年度と比べ0.5ポイント、1年次より3.4ポイント増加
各学校の「分かる授業」に向けた組織的な授業改善への取組をしているが、「授業が分かりやすい」と感じている層がはじめて減少した。また、「半分以上の授業が理解できない」と感じている層の割合が、まだ約50%以上もあり、1年次より増加していることから、学習内容が難しくなっても「分かる授業」に向けた一層の授業改善が今後も望まれる。

Q5 授業で分からないことがあったら、どうすることが多いですか(該当するものをすべて選んでください)。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	H23	
52.4%	62.6%	60.0%	54.5%	57.4%	58.4%	55.5%	54.5%	自分で調べる。
41.3%	40.3%	38.9%	39.9%	40.0%	39.8%	35.7%	37.7%	学校の先生に質問する。
68.2%	76.9%	69.6%	74.5%	72.2%	72.5%	73.2%	71.5%	友達に聞く。
11.6%	14.3%	13.5%	11.6%	10.9%	12.7%	19.3%	12.4%	家族に聞く。
9.8%	12.9%	12.0%	12.4%	9.7%	11.7%	11.6%	10.2%	塾・予備校や家庭教師の先生に質問する。
20.4%	18.7%	19.1%	19.2%	19.5%	19.2%	13.6%	17.9%	そのまましておく。
3.1%	2.4%	2.3%	2.9%	3.2%	2.7%	2.1%	2.4%	その他

- ・ の「自分で調べる」と回答した者は、1年次よりも2.9ポイント、前年度より3.9ポイント増加した。
- ・ 最も多いのが の「友達に聞く」の72.5%で、前年度より1.0ポイント増加
- ・ の「そのままにしておく」と回答した者は、前年度より1.3ポイント増加、1年次より5.6ポイント増加
「そのままにしておく」生徒もまだ多いことから、生徒の理解度を計画的にチェックする等の工夫が必要である。

Q6 次の教科のうち、最も得意だと感じる教科はどれですか。また、最も不得意だと感じる教科はどれですか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	H23	得意教科
21.1%	20.0%	21.6%	20.0%	19.9%	20.6%	18.9%	18.6%	国語
11.9%	14.2%	15.9%	12.9%	15.5%	14.5%	11.6%	14.9%	地理歴史
4.8%	2.6%	2.5%	2.4%	3.1%	2.8%	4.2%	2.8%	公民
20.7%	21.3%	23.5%	22.0%	21.8%	22.1%	22.4%	20.7%	数学
9.6%	11.9%	8.5%	10.7%	8.0%	9.7%	13.3%	10.4%	理科
12.0%	14.1%	15.0%	12.2%	10.3%	13.2%	15.1%	14.6%	英語
10.9%	8.9%	6.5%	10.1%	12.3%	9.1%	6.5%	8.5%	専門教科
9.0%	6.2%	6.4%	9.3%	9.1%	7.6%	7.3%	8.9%	その他
0.1%	0.8%	0.3%	0.5%	0.1%	0.4%	0.7%	0.6%	記入ミス・無答

- ・ 数学、国語、地理歴史、英語、理科の順番であり、前年度より数学が1.4ポイント、国語が2.0ポイント増加し、英語が1.4ポイント、地理歴史が0.4ポイント、理科が0.7ポイント減少

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	H23	不得意教科
10.5%	12.7%	13.8%	9.1%	10.5%	11.8%	12.5%	13.0%	国語
10.1%	9.0%	7.4%	9.9%	7.5%	8.5%	11.6%	9.6%	地理歴史
2.6%	1.8%	2.0%	1.9%	2.9%	2.1%	2.9%	2.3%	公民
33.6%	32.1%	32.1%	29.6%	30.2%	31.5%	28.2%	33.0%	数学
7.5%	7.1%	9.5%	9.1%	7.3%	8.3%	9.4%	7.8%	理科
29.4%	33.1%	32.0%	33.8%	36.1%	33.0%	30.1%	29.0%	英語
4.8%	2.1%	1.9%	4.2%	3.8%	3.0%	2.8%	2.7%	専門教科
1.4%	1.4%	1.0%	1.7%	1.5%	1.3%	1.3%	1.8%	その他
0.3%	0.8%	0.3%	0.6%	0.3%	0.5%	1.2%	0.8%	記入ミス・無答

- ・ 英語、数学、国語、地理歴史、理科の順番である。
- ・ 英語、数学を不得意とする回答が、1年次よりそれぞれ2.9、3.3ポイント増加している。
- ・ 英語、数学は1年次同様不得意が得意を上回っている。
英語または数学を不得意と感じている生徒を合わせると約6割にのぼることから、それらの生徒に対し、学習習慣確立に向けての支援を工夫する必要がある。

Q7 学校からどのくらいの割合で宿題・課題が出されていますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	H23	
6.0%	22.9%	20.1%	10.1%	9.9%	15.8%	22.9%	18.6%	ほとんど毎日出ている。
28.2%	39.7%	37.7%	36.4%	26.0%	35.0%	40.5%	32.9%	週に2～3回出ている。
44.3%	28.2%	36.6%	43.7%	44.9%	38.2%	30.4%	35.3%	週に1回くらい出ている。
21.3%	8.8%	5.2%	9.4%	19.0%	10.7%	5.8%	12.9%	ほとんど出していない。
0.3%	0.5%	0.4%	0.3%	0.3%	0.4%	0.4%	0.3%	記入ミス・無答

- ・ ， を合わせた「週あたり2回以上宿題・課題が出される」割合が、1年次より12.6ポイント減少
- ・ の「ほとんど宿題が出されない」割合は、1年次よりも4.9ポイント増加
1年次よりも家庭学習時間が減少していることから、2年次においても家庭学習習慣確立に向けて、宿題・課題を効果的に活用していくことが必要である。

Q8 学校からどのくらいの割合でテスト(小テストや確認テストを含む)がありますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	H23	
5.5%	13.6%	13.0%	11.0%	4.3%	10.6%	10.1%	14.1%	ほとんど毎日ある。
27.9%	39.1%	43.4%	35.3%	25.9%	36.4%	36.4%	37.7%	週に2～3回ある。
37.9%	26.2%	29.1%	30.1%	29.5%	29.6%	35.3%	29.6%	週に1回くらいある。
28.3%	20.6%	14.1%	23.5%	40.0%	23.1%	18.0%	18.4%	ほとんどない。
0.4%	0.6%	0.3%	0.3%	0.2%	0.4%	0.2%	0.2%	記入ミス・無答

- ・ ， を合わせた「週2回以上テストが行われる」割合は47.0%で、1年次より0.5ポイント増加、前年度よりも4.8ポイント減少
- ・ の「ほとんど実施しない」割合は、前年度よりも4.7ポイント増加し、1年次よりも5.1ポイント増加
生徒の理解度を計画的に調査し、学習内容の定着を図るためにも、小テストの活用を推進していくことが必要である。

Q9 あなたが受けた授業はどんな授業ですか、最も近いものを選んでください。

南部 中部南 中部北 北部 東部 全体						1年次 H23		
32.5%	31.4%	30.9%	32.0%	31.2%	31.5%	37.0%	33.0%	基礎・基本からじっくり分かるまで教えてくれる授業
4.9%	7.0%	6.5%	4.6%	4.1%	5.7%	6.7%	6.4%	発展的な内容まで教えてくれる授業
37.7%	40.5%	42.7%	39.8%	38.4%	40.5%	38.0%	39.6%	興味や関心がもてるような授業
16.8%	16.1%	15.7%	16.9%	17.9%	16.5%	13.2%	15.6%	進路希望達成につながる授業
7.9%	4.4%	3.8%	6.3%	8.1%	5.5%	4.9%	5.2%	資格取得につながる授業
0.2%	0.5%	0.4%	0.3%	0.4%	0.4%	0.2%	0.2%	記入ミス・無答

・ の「基礎・基本からじっくり分かるまで教えてくれる授業」を望む割合が、1年次より5.5ポイント減少し、 の「興味関心がもてるような授業」や の「進路希望達成につながる授業」を望む割合が、1年次よりそれぞれ2.5、3.3ポイント増加
 生徒の発達段階、進路希望の具体化、学習内容の深まりに合わせ、生徒の探究心を向上させる授業づくりや学習意欲を向上させる授業内容・授業形態について、各校の創意工夫が望まれる。

Q10 平日(テスト期間や長期休業中などを除く通常の月曜日から金曜日)に、学校の授業時間以外にどのくらい勉強していますか。(塾・予備校で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしている時間も含む。)

南部 中部南 中部北 北部 東部 全体						1年次 H23		
44.1%	31.0%	28.6%	35.7%	42.3%	34.3%	21.8%	33.2%	全く、またはほとんどしない。
13.0%	11.9%	13.3%	13.2%	11.4%	12.6%	12.3%	13.1%	30分より少ない。
14.4%	16.9%	17.8%	17.4%	16.3%	16.9%	18.5%	16.3%	30分～
18.3%	24.6%	24.6%	24.2%	19.4%	23.0%	29.1%	22.8%	1時間～
8.2%	11.8%	12.5%	7.8%	8.2%	10.3%	14.4%	11.2%	2時間～
1.5%	2.2%	2.3%	1.0%	1.4%	1.8%	3.1%	2.4%	3時間～
0.2%	0.5%	0.3%	0.3%	0.5%	0.4%	0.5%	0.5%	4時間～
0.3%	0.4%	0.2%	0.2%	0.4%	0.3%	0.1%	0.3%	5時間以上
0.1%	0.9%	0.4%	0.3%	0.3%	0.4%	0.2%	0.2%	記入ミス・無答

・ の「全く、またはほとんどしない」は、前年度より1.1ポイント増加し、1年次より12.5ポイントも増加
 ・ ~ の「1時間以上」は35.8%で、前年度より1.1ポイント増加しているが、1年次より11.4ポイントも減少
 ・ ~ の「2時間以上」の家庭学習にしっかり取り組んでいる層の割合は12.8%で、前年度より1.6ポイント減少しており、1年次より5.3ポイントも減少
 平日の家庭学習時間は、前年度よりも増加する傾向が続いていたが、減少に転じ、また、1年次よりも大幅に減少しており、2年次に

Q11 休日に、どのくらい勉強していますか。(塾・予備校で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしている時間も含む。)

南部 中部南 中部北 北部 東部 全体						1年次 H23		
42.6%	27.6%	22.1%	34.3%	41.1%	30.9%	19.8%	30.2%	全く、またはほとんどしない。
11.1%	7.4%	8.9%	12.1%	9.8%	9.5%	9.4%	10.0%	30分より少ない。
11.1%	11.2%	12.4%	13.2%	11.6%	12.0%	11.9%	11.5%	30分～
16.8%	18.6%	20.8%	18.8%	17.9%	19.0%	20.8%	18.1%	1時間～
11.2%	17.9%	18.4%	13.4%	11.2%	15.4%	18.9%	15.2%	2時間～
4.2%	10.3%	10.2%	5.7%	4.9%	7.9%	11.7%	8.7%	3時間～
1.8%	3.4%	4.1%	1.4%	1.7%	2.8%	4.3%	3.6%	4時間～
0.6%	1.3%	1.7%	0.4%	0.9%	1.1%	1.9%	1.4%	5時間～
0.0%	0.6%	0.6%	0.2%	0.3%	0.4%	0.8%	0.7%	6時間～
0.3%	0.4%	0.4%	0.2%	0.4%	0.4%	0.3%	0.5%	7時間以上
0.3%	1.4%	0.5%	0.3%	0.3%	0.6%	0.2%	0.1%	記入ミス・無答

・ の「全く、またはほとんどしない」は前年度より0.7ポイント増加し、1年次より11.1ポイント増加
 ・ ~ の「2時間以上」は28.6%で、前年度より2.1ポイント増加しているが、1年次より9.9ポイント減少
 各学校における「週末課題」等の取組の結果、休日の家庭学習時間が前年度より増加する傾向は続いているが、1年次よりも減少しており、2年次の週末における学習時間増加へのさらなる取組が望まれる。

Q12 家庭学習の仕方に、最も近いものはどれですか。

南部 中部南 中部北 北部 東部 全体						1年次 H23		
9.4%	18.2%	17.8%	13.3%	11.9%	15.2%	20.8%	17.3%	ほぼ毎日している。
3.3%	3.9%	3.8%	4.4%	3.4%	3.8%	5.0%	4.4%	主に平日にしている。
6.0%	5.4%	7.1%	6.0%	3.1%	5.7%	9.5%	6.5%	主に休日にしている。
18.8%	16.3%	16.0%	18.3%	21.2%	17.6%	11.7%	18.3%	主に定期考査前にしている。
4.7%	6.9%	7.6%	6.0%	5.1%	6.4%	8.3%	6.1%	主に宿題・課題のあるときにしている。
23.3%	27.9%	27.7%	24.2%	24.6%	26.1%	24.4%	23.2%	主に宿題・課題があるときと定期考査前にしている。
1.9%	1.3%	1.3%	1.7%	1.5%	1.5%	1.1%	1.2%	主に塾・予備校のあるときや家庭教師の先生がくるときにしている。
15.2%	9.8%	10.3%	12.7%	14.4%	11.8%	11.7%	11.0%	気が向いたときにしている。
16.2%	8.6%	7.4%	11.9%	13.4%	10.4%	6.5%	10.8%	家庭学習はほとんどしない。
1.2%	0.5%	0.6%	1.2%	1.1%	0.8%	0.7%	1.0%	その他
0.1%	1.5%	0.5%	0.4%	0.4%	0.6%	0.3%	0.2%	記入ミス・無答

・ の「ほぼ毎日している」者の割合は、前年度より2.1ポイント増加しているが、1年次より5.6ポイント減少
 ・ の「家庭学習はほとんどしない」者の割合は、前年度より0.4ポイント減少しているが、1年次より3.9ポイント増加
 ・ ~ の自発的な学習となっていない者は50.1%で、1年次より5.7ポイント増加
 2年次において、その場しのぎの学習となっている者が1年次よりも増えており、長期的な学習計画に従って継続的に学習する姿勢が身に付くように、家庭と連携した学習環境整備と学習習慣の確立のための取組が必要である。

Q13 次の教科のうち、家庭学習で最も力を入れて取り組んでいる教科はどれですか。

南部 中部南 中部北 北部 東部 全体						1年次 H23		
6.9%	3.4%	4.8%	5.9%	4.7%	4.9%	4.8%	5.0%	国語
4.5%	4.0%	6.1%	6.8%	7.0%	5.7%	4.3%	6.3%	地理歴史
2.0%	0.4%	0.9%	1.6%	1.1%	1.1%	1.5%	1.1%	公民
33.1%	45.7%	45.8%	36.8%	34.4%	40.9%	45.5%	41.4%	数学
5.2%	4.7%	3.3%	3.9%	5.2%	4.2%	5.9%	3.8%	理科
15.4%	25.0%	25.6%	22.0%	21.6%	23.1%	23.0%	22.5%	英語
21.4%	9.5%	7.4%	11.1%	14.6%	11.2%	8.4%	10.2%	専門教科
11.4%	6.1%	5.6%	11.5%	10.9%	8.3%	6.2%	9.4%	その他
0.2%	1.3%	0.5%	0.5%	0.6%	0.7%	0.4%	0.3%	記入ミス・無答

・ 1年次同様、数学、英語に力を入れて取り組んでいる者の割合が高い。
 Q6の不得意教科において、数学、英語という回答が最も多いことから、数学、英語の学習方法について改めて考えさせるなど、学習方法の指導の在り方を工夫する必要がある。

Q14 家庭学習をする上で悩んでいることはありますか。最も近いものを選んでください。

南部 中部南 中部北 北部 東部 全体						1年次 H23		
13.3%	11.9%	12.8%	14.8%	14.5%	13.3%	14.0%	13.4%	家庭学習の方法が分からない。
24.4%	30.3%	32.9%	27.8%	27.9%	29.7%	26.6%	28.5%	家庭学習に集中できない。
15.7%	16.1%	14.7%	17.8%	16.1%	15.9%	15.2%	14.7%	学習の計画を立てても長続きしない。
14.4%	17.9%	17.7%	13.7%	13.6%	16.0%	21.4%	16.4%	家庭学習と部活動の両立が難しい。
7.3%	6.5%	5.2%	7.2%	5.8%	6.2%	6.4%	7.3%	家庭学習を一生懸命やっても成績が伸びない。
2.9%	2.9%	3.5%	3.0%	2.5%	3.0%	2.8%	3.8%	その他
21.9%	13.8%	13.0%	15.7%	19.6%	15.7%	13.4%	15.8%	特に悩みはない。
0.1%	0.5%	0.3%	0.2%	0.2%	0.3%	0.2%	0.1%	記入ミス・無答

・ の「家庭学習の方法が分からない」、の「家庭学習と部活動の両立が難しい」が1年次よりもそれぞれ0.7、4.4ポイント減少
 ・ の「家庭学習に集中できない」が、1年次より3.1ポイント増加
 悩みの内容が1年次よりも「家庭学習に集中できない」ことに集中してきており、個人面談等で家庭学習の集中を阻害する要因を再確認し、家庭学習に集中できる環境づくりを生徒及び保護者に考えてもらうなど、家庭との連携をさらに深めていく必要がある。

Q15 学校に行く前に朝食をとりますか。

南部 中部南 中部北 北部 東部 全体						1年次 H23		
69.7%	76.5%	76.5%	71.8%	69.2%	73.7%	77.3%	74.1%	必ずとる。
16.1%	12.9%	13.3%	15.1%	15.4%	14.2%	13.8%	14.8%	たいていとる。
8.4%	5.0%	5.9%	6.9%	8.2%	6.5%	5.1%	6.1%	とらないことが多い。
5.7%	5.0%	4.0%	6.0%	6.9%	5.3%	3.6%	4.8%	全く、または、ほとんどとらない。
0.1%	0.6%	0.3%	0.2%	0.4%	0.4%	0.2%	0.2%	記入ミス・無答

・ の「朝食を必ずとる」生徒は、1年次より3.6ポイント減少し、の朝食をとる習慣のない者の割合が11.8%で、1年次より2.1ポイント増加
 数学・国語・英語3教科とも、「朝食を必ずとる」と「基礎学力定着度の高さ」との相関関係が強く、朝食をとらないことが学習に及ぼす影響を、生徒だけでなく家庭にも周知していく必要がある。

Q16 平日に、家の中で最も時間をかけて行っていることは何ですか。

南部 中部南 中部北 北部 東部 全体						1年次 H23		
4.1%	9.1%	8.9%	4.9%	4.6%	7.0%	10.8%	8.4%	家庭学習
18.8%	20.4%	20.0%	21.9%	19.2%	20.2%	19.6%	21.8%	テレビやビデオ
23.3%	21.6%	21.2%	24.1%	25.2%	22.7%	15.8%	18.1%	ゲームやインターネット H22は「ゲームやパソコン」
18.5%	12.1%	14.6%	15.8%	16.4%	14.9%	17.8%	15.9%	電話やメール
4.0%	3.8%	3.1%	3.6%	3.4%	3.5%	3.6%	3.9%	読書
15.5%	14.1%	13.8%	16.1%	16.5%	14.9%	14.9%	15.0%	自分の趣味
3.8%	5.9%	4.6%	3.0%	3.8%	4.4%	5.1%	4.1%	家族との会話
1.2%	1.0%	1.1%	1.6%	1.6%	1.3%	1.4%	1.2%	手伝い
10.5%	11.2%	12.4%	8.7%	9.1%	10.7%	10.8%	11.3%	その他
0.3%	0.9%	0.4%	0.3%	0.3%	0.4%	0.2%	0.3%	記入ミス・無答

・ の「家庭学習」は前年度より1.4ポイント減少し、1年次より3.8ポイント減少
 ・ の「テレビやビデオ」、の「ゲームやパソコン」、の「電話やメール」、の「自分の趣味」の時間が多く、この4項目を合わせると72.7%で、このことがQ14の「家庭学習に集中できない」に影響していると考えられる。
 ・ 選択項目の変更から、前年度までの「電話やメール」に含まれていたと思われる携帯電話によるインターネット使用の割合分、の「ゲームやインターネット」が前年度より増加
 ゲームやインターネットの時間が大幅に増えており、家庭学習時間を確保させていくためには、学校と家庭とのさらなる連携が必要である。

Q17 平日に、だいたいどのくらいテレビやビデオを見ますか。

南部 中部南 中部北 北部 東部 全体						1年次 H23		
7.1%	9.2%	9.5%	7.3%	7.5%	8.4%	8.6%	9.0%	全く、またはほとんど見ない。
8.5%	9.8%	9.8%	6.8%	7.8%	8.8%	9.2%	9.0%	30分より少ない。
11.3%	14.5%	15.4%	11.0%	10.8%	13.2%	13.8%	13.6%	30分～
24.1%	29.0%	28.0%	23.7%	24.1%	26.4%	27.5%	26.7%	1時間～
24.0%	21.2%	22.2%	24.2%	22.7%	22.6%	21.1%	21.2%	2時間～
13.6%	10.1%	9.9%	16.1%	15.1%	12.3%	11.5%	11.8%	3時間～
5.6%	3.2%	3.0%	6.0%	6.6%	4.5%	4.5%	4.8%	4時間～
5.7%	2.5%	2.0%	4.6%	5.1%	3.5%	3.5%	3.6%	5時間以上
0.2%	0.7%	0.2%	0.4%	0.4%	0.4%	0.3%	0.3%	記入ミス・無答

・ ~ のテレビやビデオを3時間以上見ている者は、1年次より0.8ポイント増加し、約20%もいる。
長時間のテレビやビデオの視聴が「家庭学習に集中できない」という悩みの原因の一つになっていると考えられる。

Q18 平日に、だいたいどのくらいゲームやインターネットをしますか。(H22は「ゲームやパソコン」)

南部 中部南 中部北 北部 東部 全体						1年次 H23		
20.4%	22.0%	24.4%	20.9%	19.2%	21.9%	28.7%	28.9%	全く、またはほとんどしない。
10.5%	14.0%	15.1%	11.2%	9.9%	12.8%	15.9%	14.3%	30分より少ない。
14.4%	17.0%	17.1%	14.1%	13.8%	15.7%	14.9%	13.8%	30分～
22.7%	21.8%	19.6%	20.3%	21.4%	20.8%	19.1%	19.5%	1時間～
15.7%	13.2%	12.5%	15.6%	18.2%	14.5%	11.3%	11.5%	2時間～
8.3%	6.5%	6.9%	10.2%	9.2%	8.0%	5.6%	6.3%	3時間～
3.4%	2.5%	2.1%	3.1%	3.6%	2.7%	2.0%	2.3%	4時間～
4.3%	2.5%	2.1%	4.2%	4.4%	3.2%	2.3%	2.9%	5時間以上
0.2%	0.6%	0.3%	0.4%	0.4%	0.4%	0.2%	0.5%	記入ミス・無答

・ 質問事項の変更から、 ~ の「全く、またはほとんどしない」が前年度より7.0ポイント減少しているが、Q19において「電話やメール」の使用時間が大きく変わっていないことから、パソコンだけでなく携帯電話によるインターネット利用が多いことが窺える。このため、 ~ の「3時間以上」の者も、前年度よりも2.4ポイント増加している。
携帯電話によるインターネット利用については、家庭学習に影響の少ない利用の仕方を指導項目に含めていく必要がある。

Q19 平日に、だいたいどのくらい電話やメールをしますか。

南部 中部南 中部北 北部 東部 全体						1年次 H23		
19.8%	20.5%	18.8%	20.3%	21.3%	20.0%	11.8%	19.8%	全く、またはほとんどしない。
22.3%	30.6%	27.1%	24.7%	22.4%	26.2%	25.4%	26.0%	30分より少ない。
14.4%	16.7%	16.5%	14.4%	14.2%	15.5%	17.5%	14.8%	30分～
14.9%	12.9%	15.4%	13.9%	13.8%	14.2%	17.9%	14.4%	1時間～
10.0%	8.1%	10.8%	9.2%	10.7%	9.8%	11.8%	9.9%	2時間～
9.1%	4.4%	6.0%	7.7%	6.6%	6.3%	7.1%	6.1%	3時間～
3.3%	2.5%	2.1%	3.3%	4.2%	2.9%	3.3%	3.3%	4時間～
6.0%	3.5%	3.1%	6.0%	6.4%	4.6%	4.8%	5.5%	5時間以上
0.3%	0.9%	0.3%	0.6%	0.5%	0.5%	0.4%	0.2%	記入ミス・無答

・ ~ の2時間以上電話やメールを行っている者は、1年次より3.4ポイント減少しているが、まだ27.0%もいる。
電話やメールは、相手の時間も拘束することから、使用する際のマナーも含めて、家庭と連携を取りながら指導していく必要がある。

Q20 平日に、だいたいどのくらい読書(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く。)をしますか。

南部 中部南 中部北 北部 東部 全体						1年次 H23		
56.3%	61.5%	62.2%	53.6%	57.2%	59.0%	54.6%	58.9%	全く、またはほとんどしない。
18.2%	15.5%	16.6%	21.5%	16.9%	17.5%	20.6%	18.2%	30分より少ない。
11.4%	11.1%	10.8%	12.2%	11.4%	11.3%	11.7%	9.9%	30分～
7.5%	7.0%	6.3%	7.7%	8.7%	7.3%	8.0%	7.3%	1時間～
4.0%	2.8%	2.5%	2.6%	3.6%	2.9%	2.7%	3.0%	2時間～
1.3%	0.6%	0.8%	1.1%	1.4%	1.0%	1.4%	1.4%	3時間～
0.5%	0.4%	0.3%	0.3%	0.3%	0.3%	0.4%	0.4%	4時間～
0.6%	0.4%	0.2%	0.8%	0.3%	0.4%	0.4%	0.6%	5時間以上
0.3%	0.9%	0.4%	0.3%	0.2%	0.4%	0.2%	0.3%	記入ミス・無答

・ 約6割近くの者が「全く、またはほとんどしない」状況で、平日の読書はあまり習慣化されていない。
・ Q17～Q19の「テレビやビデオ」、「ゲームやインターネット」、「電話やメール」にかけている時間に比べて、「読書」にかけている時間は極端に短くなっている。
朝読書を実施している学校が増加しているものの、読解力を育成していくためには、読書の楽しさ等を伝え、家庭や学校において適量の読書を習慣化していく指導が必要である。

Q21 休日に、家の中で最も時間をかけて行っていることは何ですか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	H23	
2.3%	5.6%	6.6%	2.7%	2.8%	4.6%	6.6%	5.4%	家庭学習
18.5%	20.0%	19.3%	20.0%	17.7%	19.2%	18.8%	19.6%	テレビやビデオ
21.9%	23.3%	21.8%	24.7%	25.1%	23.2%	18.7%	19.7%	ゲームやインターネット H22は「ゲームやパソコン」
9.4%	6.1%	6.9%	9.7%	9.1%	7.9%	11.0%	9.7%	電話やメール
2.9%	2.6%	2.3%	2.2%	2.2%	2.4%	2.7%	2.9%	読書
24.7%	21.9%	22.3%	21.6%	22.7%	22.4%	22.5%	21.7%	自分の趣味
2.9%	3.8%	2.9%	2.3%	2.3%	2.9%	3.2%	2.8%	家族との対話
2.2%	1.5%	1.1%	2.2%	1.9%	1.6%	1.6%	1.5%	手伝い
15.1%	14.6%	16.4%	14.4%	15.9%	15.4%	14.5%	16.4%	その他
0.2%	0.8%	0.4%	0.3%	0.4%	0.5%	0.4%	0.3%	記入ミス・無答

・平日に比べて「ゲームやインターネット」の割合が高くなっており、次いで「自分の趣味」、「テレビやビデオ」の順となっている。

Q22 休日に、だいたいどのくらいテレビやビデオを見ますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	H23	
6.0%	5.6%	6.5%	5.1%	5.9%	5.9%	5.0%	6.3%	全く、またはほとんど見ない。
3.2%	4.0%	4.1%	3.0%	3.4%	3.7%	4.0%	4.1%	30分より少ない。
5.7%	5.9%	6.5%	5.3%	5.0%	5.8%	5.9%	6.4%	30分～
13.5%	17.3%	18.0%	13.8%	14.0%	15.9%	16.8%	16.5%	1時間～
18.9%	24.4%	24.8%	20.3%	21.0%	22.6%	22.6%	21.8%	2時間～
20.9%	20.1%	19.3%	21.3%	17.9%	19.8%	19.1%	18.7%	3時間～
13.7%	9.5%	9.8%	11.6%	12.1%	10.9%	11.1%	10.6%	4時間～
8.1%	6.5%	5.5%	9.2%	9.2%	7.3%	7.2%	7.3%	5時間～
3.2%	2.6%	2.5%	4.1%	4.5%	3.2%	3.1%	3.1%	6時間～
6.6%	3.8%	2.7%	6.0%	6.7%	4.6%	4.7%	4.7%	7時間以上
0.2%	0.6%	0.3%	0.3%	0.3%	0.4%	0.5%	0.5%	記入ミス・無答

・2時間から3時間見ている者が最も多く22.6%であり、次いで3時間から4時間見ているものが多く19.8%である。
 ・3時間以上見ている者は、1年次よりは0.6ポイント増加し、45.8%と多い状況である。
 平日に長時間の学習時間を確保することは難しいため、休日を上手に活用できるかが学習時間確保に大きく影響することから、休日の時間を有効的・計画的に活用させる指導が必要である。

Q23 休日に、だいたいどのくらいゲームやインターネットをしますか。(H22は「ゲームやパソコン」)

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	H23	
14.8%	15.1%	17.7%	16.4%	15.3%	16.2%	21.5%	22.6%	全く、またはほとんどしない。
8.3%	8.3%	9.4%	7.8%	6.9%	8.3%	11.1%	10.6%	30分より少ない。
9.2%	11.7%	11.6%	8.8%	8.7%	10.4%	10.6%	10.2%	30分～
18.7%	19.8%	18.5%	17.5%	17.4%	18.4%	19.1%	17.6%	1時間～
17.0%	19.3%	18.0%	16.8%	16.6%	17.7%	15.3%	15.3%	2時間～
13.6%	11.4%	11.4%	13.7%	14.5%	12.6%	10.0%	10.3%	3時間～
6.1%	5.5%	5.8%	6.5%	7.7%	6.2%	4.7%	4.8%	4時間～
4.6%	3.5%	3.3%	5.0%	5.1%	4.1%	3.2%	3.5%	5時間～
1.9%	1.9%	1.1%	1.9%	1.9%	1.6%	1.3%	1.4%	6時間～
5.8%	3.3%	2.9%	5.1%	5.5%	4.1%	2.9%	3.4%	7時間以上
0.2%	0.5%	0.5%	0.5%	0.5%	0.5%	0.3%	0.3%	記入ミス・無答

・「全く、またはほとんどしない」が前年度より6.4ポイント減少しているが、Q24において「電話やメール」の使用時間が大きく変わっていないことから、パソコンだけでなく携帯電話によるインターネット利用が多いことが窺える。このため、～の「3時間以上」の者も、前年度よりも5.2ポイント増加している。

Q24 休日に、だいたいどのくらい電話やメールをしますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	H23	
18.5%	18.4%	17.7%	18.6%	20.4%	18.6%	10.7%	17.8%	全く、またはほとんどしない。
17.3%	25.2%	21.0%	19.8%	17.9%	20.8%	20.3%	22.1%	30分より少ない。
14.5%	16.0%	15.7%	13.6%	13.6%	14.9%	15.4%	13.5%	30分～
14.8%	14.4%	15.7%	14.4%	13.5%	14.7%	17.8%	14.7%	1時間～
10.5%	10.1%	12.2%	9.7%	10.6%	10.8%	12.0%	10.3%	2時間～
8.9%	6.0%	7.6%	8.2%	7.6%	7.5%	9.2%	7.4%	3時間～
4.7%	3.5%	3.5%	4.8%	4.7%	4.1%	4.9%	4.2%	4時間～
3.4%	2.1%	2.5%	3.6%	4.8%	3.1%	3.8%	3.6%	5時間～
2.2%	1.1%	1.0%	2.1%	1.4%	1.4%	1.5%	1.5%	6時間～
5.1%	2.6%	2.6%	4.6%	5.1%	3.7%	3.9%	4.5%	7時間以上
0.2%	0.6%	0.4%	0.6%	0.4%	0.5%	0.5%	0.4%	記入ミス・無答

・～の「1日3時間以上」の長い時間を電話やメールで過ごしている者は、1年次よりも3.5ポイント減少しているものの、まだ19.8%いる。

Q25 休日に、だいたいどのくらい読書(教科書や参考書,漫画や雑誌は除く。)をしますか。

南部 中部南 中部北 北部 東部 全体						1年次 H23		
59.6%	60.8%	62.6%	57.4%	60.6%	60.6%	56.1%	60.5%	全く、またはほとんどしない。
12.9%	12.5%	12.6%	14.3%	11.2%	12.7%	15.5%	13.6%	30分より少ない。
8.9%	9.0%	8.9%	9.5%	8.8%	9.0%	10.1%	8.5%	30分～
8.6%	8.8%	8.3%	10.2%	9.0%	8.9%	9.2%	8.5%	1時間～
4.5%	4.7%	4.2%	4.3%	5.0%	4.5%	4.7%	4.4%	2時間～
2.5%	1.9%	1.9%	2.1%	2.8%	2.2%	2.3%	2.3%	3時間～
1.4%	0.9%	0.6%	0.5%	1.3%	0.8%	0.7%	0.7%	4時間～
0.7%	0.3%	0.2%	0.5%	0.6%	0.4%	0.5%	0.6%	5時間～
0.3%	0.1%	0.1%	0.3%	0.2%	0.2%	0.3%	0.2%	6時間～
0.5%	0.3%	0.1%	0.5%	0.3%	0.3%	0.4%	0.4%	7時間以上
0.1%	0.7%	0.4%	0.4%	0.3%	0.4%	0.2%	0.3%	記入ミス・無答

・ 「全く、またはほとんどしない」者の割合が、平日での割合をさらに上回り、60%を超える高い割合になっている。
 多くの生徒が、平日に読書の時間を確保することが難しい状況にあることも窺えることから、休日を上手に活用するなど、計画的な生活習慣を確立させる指導が必要である。

まとめ

<進路希望の変化と学習意欲>

進路希望の実現に向けた意識は向上しているものの、家庭学習時間が減少するなど、具体的な取組が伴わないため、2年次においては、より学ぶ楽しさや学ぶ意義を実感させ、実感の伴った理解が得られる授業づくりが求められる。また、個々の目標達成に向けた学習方法や学習習慣を身に付けさせ、学習意欲を向上させていくための踏み込んだ指導が必要とされる。

<学習習慣の確立>

「中だるみ」とも言われる2学年においては、1年次以上に、家庭での学習状況を把握し、個人面談等を通して、家庭学習の集中を阻害する要因を確認し、家庭学習に集中できる環境づくりを家庭と連携しながら推進していく必要がある。

進路希望を実現するための学習に留まらず、これからの社会で生き抜くために必要な「主体的に考え学ぶ態度」を身に付けるために、日頃、学習に取り組む姿勢などを適宜アドバイスし、明確な目標を定めさせ積極的に学習に取り組ませるための指導の工夫が必要である。
 また、授業が理解できないために学習意欲が低下し、逃避的な生活とならないように、興味・関心が高まり、探究心が育まれるような授業づくりが、1年次以上に必要であり、普段の授業等を通して「学ぶ喜び」をいかに与えていくかを検討していく必要がある。また、

質問紙調査結果 Q26～Q60(2学年) (H24から実施)

	当てはまる
	どちらかといえば、当てはまる
	どちらかといえば、当てはまらない
	当てはまらない
	記入ミス・無答

Q26 毎日同じくらいの時刻に起きている

	南部	中部南	中部北	北部	東部	全体
	67.7%	69.5%	70.1%	66.9%	65.5%	68.3%
	25.9%	25.3%	24.9%	27.7%	27.9%	26.1%
	3.8%	3.1%	3.3%	3.9%	4.3%	3.6%
	1.8%	1.2%	1.4%	1.3%	1.6%	1.4%
	0.9%	0.9%	0.4%	0.3%	0.7%	0.6%

Q27 毎日同じくらいの時刻に寝ている

	南部	中部南	中部北	北部	東部	全体
	30.6%	34.2%	33.1%	31.2%	29.1%	32.0%
	44.4%	42.3%	43.1%	43.9%	43.0%	43.2%
	17.0%	16.2%	16.7%	18.2%	18.9%	17.3%
	7.2%	6.6%	6.6%	6.3%	8.3%	6.9%
	0.9%	0.8%	0.6%	0.5%	0.7%	0.7%

Q28 体調はよい

	南部	中部南	中部北	北部	東部	全体
	41.5%	42.2%	42.5%	39.0%	39.4%	41.2%
	38.2%	39.2%	37.9%	42.1%	40.5%	39.5%
	15.0%	13.8%	14.8%	15.1%	15.7%	14.8%
	4.0%	3.9%	4.3%	3.3%	3.6%	3.9%
	1.2%	0.9%	0.6%	0.5%	0.8%	0.8%

Q29 熟睡ができています

	南部	中部南	中部北	北部	東部	全体
	38.7%	46.1%	43.6%	40.2%	41.1%	42.6%
	37.5%	33.0%	33.9%	37.2%	35.4%	34.9%
	17.5%	15.8%	17.0%	16.9%	17.0%	16.8%
	5.3%	4.3%	4.9%	5.1%	5.7%	5.0%
	1.0%	0.8%	0.6%	0.5%	0.8%	0.7%

Q30 食欲はある

	南部	中部南	中部北	北部	東部	全体
	59.0%	66.6%	63.6%	60.2%	60.2%	62.6%
	31.2%	25.7%	28.2%	31.3%	30.9%	29.0%
	7.7%	6.0%	6.3%	7.0%	6.9%	6.6%
	1.2%	0.9%	1.3%	1.0%	1.3%	1.1%
	1.0%	0.9%	0.7%	0.4%	0.8%	0.8%

Q31 学校生活に充実感や満足感を感じている

	南部	中部南	中部北	北部	東部	全体
	23.9%	30.1%	28.9%	23.2%	25.5%	27.1%
	44.5%	42.4%	42.8%	48.0%	42.1%	43.7%
	21.7%	17.3%	18.8%	19.9%	21.5%	19.4%
	8.8%	9.3%	8.8%	8.4%	10.3%	9.1%
	1.1%	0.9%	0.7%	0.5%	0.7%	0.8%

Q32 楽しく過ごすことが多い

	南部	中部南	中部北	北部	東部	全体
	36.6%	42.8%	40.6%	37.6%	37.3%	39.6%
	44.1%	41.6%	42.8%	46.6%	43.0%	43.4%
	14.8%	11.5%	12.7%	12.7%	15.4%	13.1%
	3.4%	3.4%	3.4%	2.6%	3.6%	3.3%
	1.2%	0.7%	0.6%	0.5%	0.7%	0.7%

Q33 友達と、よく話をする

	南部	中部南	中部北	北部	東部	全体
	64.1%	67.7%	64.8%	66.6%	64.5%	65.6%
	27.7%	24.8%	28.4%	27.2%	27.9%	27.2%
	5.1%	5.2%	4.9%	4.6%	4.9%	5.0%
	2.0%	1.5%	1.3%	1.1%	2.0%	1.5%
	1.2%	0.9%	0.6%	0.5%	0.7%	0.7%

Q34 のんびり過ごす時間がある

	南部	中部南	中部北	北部	東部	全体
	40.2%	42.6%	39.5%	43.0%	41.7%	41.3%
	33.5%	29.9%	30.7%	34.9%	33.0%	32.0%
	19.4%	19.0%	20.6%	15.5%	17.0%	18.6%
	5.8%	7.8%	8.6%	6.0%	7.6%	7.5%
	1.1%	0.8%	0.6%	0.6%	0.7%	0.7%

Q35 人が困っている時は、進んで助けるようにしている

	南部	中部南	中部北	北部	東部	全体
	21.0%	24.0%	23.5%	21.0%	19.2%	22.2%
	54.4%	57.2%	58.8%	57.9%	56.5%	57.4%
	20.4%	15.5%	14.3%	17.9%	20.1%	16.8%
	2.9%	2.6%	2.6%	2.7%	3.4%	2.8%
	1.2%	0.8%	0.8%	0.5%	0.8%	0.8%

Q36 新聞やテレビのニュースなどに興味がある

	南部	中部南	中部北	北部	東部	全体
	15.8%	20.7%	19.1%	18.2%	17.9%	18.8%
	40.3%	40.6%	41.8%	41.3%	39.8%	40.9%
	31.0%	27.9%	28.9%	30.2%	29.7%	29.2%
	12.0%	10.0%	9.7%	9.9%	11.9%	10.4%
	1.0%	0.9%	0.6%	0.4%	0.8%	0.7%

Q37 趣味の時間を確保している

	南部	中部南	中部北	北部	東部	全体
	41.1%	41.8%	38.9%	43.5%	41.7%	41.1%
	33.6%	30.7%	31.6%	32.5%	33.0%	32.0%
	16.8%	19.5%	21.3%	17.6%	17.9%	19.2%
	7.5%	7.2%	7.7%	5.8%	6.7%	7.1%
	1.1%	0.9%	0.5%	0.6%	0.7%	0.7%

Q38 心配なことがあり、学校生活に集中できない

	南部	中部南	中部北	北部	東部	全体
	6.8%	6.3%	6.3%	7.1%	7.0%	6.6%
	17.9%	16.7%	18.9%	19.0%	17.6%	18.1%
	41.1%	41.3%	38.2%	41.6%	39.9%	40.1%
	33.3%	34.8%	36.0%	31.9%	34.8%	34.5%
	0.9%	1.0%	0.7%	0.5%	0.7%	0.7%

Q39 つまらなく過ごすことが多い

	南部	中部南	中部北	北部	東部	全体
	9.0%	6.9%	8.2%	8.0%	9.0%	8.1%
	20.9%	17.9%	17.0%	20.1%	20.1%	18.7%
	41.6%	39.7%	41.4%	42.6%	41.9%	41.3%
	27.4%	34.5%	32.8%	28.7%	28.4%	31.1%
	1.0%	1.1%	0.6%	0.7%	0.7%	0.8%

Q40 感情の起伏を抑えられないことが多い

	南部	中部南	中部北	北部	東部	全体
	7.9%	6.4%	6.8%	7.8%	7.5%	7.1%
	17.5%	15.3%	16.6%	16.3%	17.7%	16.5%
	39.8%	36.8%	37.1%	39.6%	37.8%	37.9%
	33.8%	40.8%	39.2%	35.8%	36.4%	37.9%
	1.0%	0.8%	0.5%	0.6%	0.7%	0.6%

Q42 勉強できることがうれしい

	南部	中部南	中部北	北部	東部	全体
	7.0%	7.7%	8.7%	6.6%	6.3%	7.5%
	24.3%	28.0%	27.6%	26.5%	27.3%	27.1%
	40.4%	36.8%	36.1%	39.2%	38.6%	37.7%
	27.1%	26.5%	27.2%	27.2%	27.2%	27.0%
	1.2%	1.1%	0.5%	0.6%	0.7%	0.8%

Q44 難しいことでも挑戦することが多い

	南部	中部南	中部北	北部	東部	全体
	15.4%	15.5%	14.3%	12.9%	13.6%	14.3%
	39.6%	42.4%	43.0%	42.3%	41.4%	42.1%
	38.3%	35.7%	36.5%	38.9%	38.4%	37.3%
	5.4%	5.3%	5.5%	5.3%	5.7%	5.5%
	1.4%	1.2%	0.7%	0.6%	0.9%	0.9%

Q46 夢中になれることがある

	南部	中部南	中部北	北部	東部	全体
	59.3%	61.0%	59.8%	60.4%	58.0%	59.8%
	26.2%	24.2%	24.9%	26.2%	26.8%	25.4%
	10.1%	10.2%	11.0%	10.0%	11.2%	10.6%
	3.4%	3.9%	3.7%	3.0%	3.4%	3.5%
	1.0%	0.8%	0.6%	0.4%	0.7%	0.7%

Q48 部活動に集中できている

	南部	中部南	中部北	北部	東部	全体
	38.1%	41.5%	39.3%	37.6%	33.5%	38.4%
	31.1%	29.7%	30.7%	32.5%	29.7%	30.7%
	13.3%	12.4%	12.6%	13.9%	15.2%	13.3%
	16.3%	15.5%	16.8%	15.3%	20.8%	16.9%
	1.2%	0.9%	0.7%	0.7%	0.7%	0.8%

Q50 自分の長所を伸ばそうとしている

	南部	中部南	中部北	北部	東部	全体
	27.3%	26.8%	26.6%	27.4%	25.8%	26.7%
	44.1%	43.5%	44.0%	43.1%	41.8%	43.4%
	22.7%	23.1%	23.0%	23.7%	25.1%	23.5%
	4.7%	5.7%	5.8%	5.4%	6.5%	5.7%
	1.2%	0.9%	0.7%	0.5%	0.9%	0.8%

Q52 仲間と力を合わせて活動しようとしている

	南部	中部南	中部北	北部	東部	全体
	37.7%	44.8%	42.7%	40.3%	38.8%	41.6%
	48.5%	44.1%	45.6%	48.3%	47.3%	46.3%
	9.7%	7.9%	8.5%	9.0%	10.3%	8.9%
	3.0%	2.3%	2.6%	1.9%	2.7%	2.5%
	1.2%	1.0%	0.7%	0.5%	0.9%	0.8%

Q54 自分の考えを相手に的確に伝えている

	南部	中部南	中部北	北部	東部	全体
	16.3%	16.7%	16.6%	15.5%	15.0%	16.1%
	48.7%	48.0%	48.1%	47.4%	47.2%	47.9%
	28.5%	29.0%	29.7%	31.3%	31.1%	30.0%
	5.3%	5.2%	4.9%	5.1%	5.9%	5.2%
	1.2%	1.1%	0.7%	0.7%	0.7%	0.8%

Q41 集中して勉強できている

	南部	中部南	中部北	北部	東部	全体
	9.7%	8.0%	7.4%	8.1%	8.6%	8.1%
	40.3%	37.2%	37.4%	41.4%	37.8%	38.4%
	34.7%	37.4%	38.4%	36.6%	36.6%	37.2%
	14.3%	16.5%	16.3%	13.4%	16.2%	15.6%
	1.0%	0.9%	0.5%	0.5%	0.8%	0.7%

Q43 一度始めたことは最後までやり遂げるようにしている

	南部	中部南	中部北	北部	東部	全体
	30.6%	30.2%	27.7%	28.7%	30.6%	29.2%
	51.0%	50.8%	51.8%	53.6%	49.4%	51.4%
	14.7%	15.6%	17.0%	14.7%	16.7%	16.0%
	2.3%	2.3%	2.9%	2.4%	2.3%	2.5%
	1.4%	1.2%	0.6%	0.6%	1.0%	0.9%

Q45 人の役に立つ人間になりたいと思っている

	南部	中部南	中部北	北部	東部	全体
	46.4%	51.0%	50.7%	48.3%	48.2%	49.5%
	37.6%	37.0%	37.5%	39.3%	37.6%	37.7%
	11.8%	8.1%	8.2%	8.9%	10.0%	9.0%
	2.7%	2.8%	3.1%	2.8%	3.3%	3.0%
	1.6%	1.2%	0.6%	0.6%	1.0%	0.9%

Q47 勉強と部活動の両立を目指している

	南部	中部南	中部北	北部	東部	全体
	35.7%	43.6%	41.8%	36.3%	32.8%	39.1%
	32.7%	28.8%	29.6%	32.1%	30.6%	30.4%
	16.2%	12.5%	13.6%	17.4%	19.3%	15.3%
	14.2%	14.2%	14.4%	13.6%	16.6%	14.5%
	1.2%	0.9%	0.6%	0.7%	0.7%	0.7%

Q49 自分の個性や適性が分かっている

	南部	中部南	中部北	北部	東部	全体
	22.6%	22.3%	22.7%	22.0%	21.5%	22.3%
	44.5%	44.8%	44.4%	47.3%	43.7%	44.9%
	24.7%	24.0%	24.6%	22.9%	25.9%	24.4%
	7.1%	8.0%	7.6%	7.3%	8.1%	7.7%
	1.2%	1.0%	0.6%	0.5%	0.8%	0.8%

Q51 相手の個性や考えを受け入れるようにしている

	南部	中部南	中部北	北部	東部	全体
	39.1%	43.3%	41.8%	38.4%	39.8%	40.9%
	51.3%	49.3%	50.3%	53.3%	51.0%	50.8%
	6.6%	5.2%	6.0%	6.2%	7.4%	6.1%
	1.9%	1.3%	1.3%	1.4%	1.2%	1.4%
	1.2%	0.9%	0.7%	0.8%	0.7%	0.8%

Q53 相手の言葉や意見に耳を傾けるようにしている

	南部	中部南	中部北	北部	東部	全体
	41.9%	49.2%	48.0%	45.3%	44.2%	46.5%
	50.4%	45.3%	46.5%	48.6%	48.7%	47.4%
	5.1%	3.8%	3.9%	4.6%	4.9%	4.3%
	1.2%	0.7%	1.0%	1.0%	1.4%	1.0%
	1.4%	1.0%	0.7%	0.5%	0.9%	0.8%

Q55 時と場に応じた言葉づかいをしている

	南部	中部南	中部北	北部	東部	全体
	43.5%	48.2%	46.5%	43.1%	42.8%	45.3%
	45.9%	42.9%	44.5%	46.0%	45.3%	44.7%
	7.0%	6.3%	6.6%	8.7%	8.5%	7.3%
	1.9%	1.4%	1.6%	1.6%	2.3%	1.7%
	1.7%	1.2%	0.8%	0.7%	1.2%	1.0%

Q56 校則や公共のルール・マナーを守っている

	南部	中部南	中部北	北部	東部	全体
	43.5%	42.8%	44.8%	39.0%	37.7%	41.9%
	46.5%	47.9%	46.4%	49.7%	49.6%	47.9%
	7.3%	6.7%	7.0%	8.6%	10.0%	7.7%
	1.6%	1.5%	1.1%	2.3%	2.1%	1.7%
	1.2%	1.0%	0.7%	0.5%	0.7%	0.8%

Q58 自分の役割に責任を持って行動している

	南部	中部南	中部北	北部	東部	全体
	30.8%	34.0%	32.4%	29.5%	30.0%	31.6%
	53.9%	53.0%	54.0%	56.4%	54.7%	54.3%
	12.0%	10.3%	11.0%	12.1%	12.9%	11.4%
	2.2%	1.8%	2.0%	1.5%	1.7%	1.8%
	1.2%	0.9%	0.7%	0.5%	0.7%	0.8%

Q60 ボランティア活動や地域の活動に進んで参加している

	南部	中部南	中部北	北部	東部	全体
	8.2%	6.7%	7.0%	7.5%	6.7%	7.1%
	17.0%	14.1%	15.4%	17.1%	15.8%	15.6%
	40.3%	39.6%	39.5%	43.1%	40.9%	40.5%
	33.3%	38.8%	37.6%	31.5%	35.9%	36.0%
	1.2%	0.9%	0.6%	0.7%	0.7%	0.8%

Q57 働くことの意義を理解している

	南部	中部南	中部北	北部	東部	全体
	29.7%	28.1%	28.9%	30.0%	29.3%	29.1%
	51.3%	47.6%	49.6%	50.7%	49.0%	49.4%
	14.6%	19.4%	17.2%	16.1%	18.3%	17.4%
	3.1%	4.0%	3.7%	2.5%	2.7%	3.3%
	1.3%	1.0%	0.7%	0.6%	0.7%	0.8%

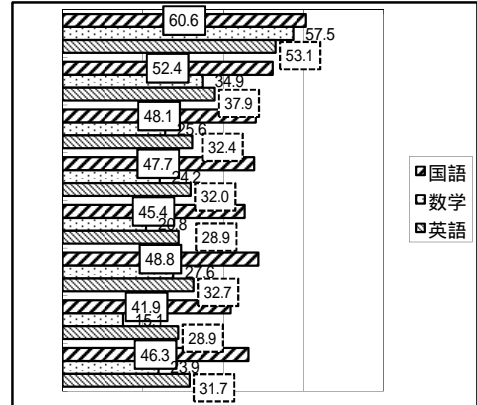
Q59 クラスや学校の行事等に積極的に取り組んでいる

	南部	中部南	中部北	北部	東部	全体
	27.3%	36.1%	36.4%	31.6%	28.5%	33.2%
	44.7%	39.2%	40.6%	43.0%	42.3%	41.4%
	20.7%	17.7%	17.0%	20.2%	21.4%	18.9%
	6.0%	5.9%	5.3%	4.6%	7.1%	5.7%
	1.2%	1.1%	0.6%	0.6%	0.7%	0.8%

質問紙調査回答別正答率(教科との関連)(2学年)

Q1 高校卒業後、進みたいと考えている進路のうち、現在もっとも強く希望しているのは次のうちどれですか。

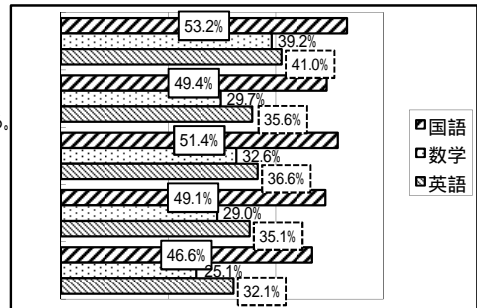
H24	1年次	
31.8%	34.2%	4年制国公立大学
17.0%	11.0%	4年制私立大学
2.9%	3.0%	短期大学
15.9%	16.7%	専修学校・各種学校
19.6%	16.7%	民間就職
4.2%	4.1%	公務員就職
0.3%	0.3%	家業
6.5%	12.4%	未定
1.6%	1.3%	その他
0.3%	0.3%	記入ミス・無答



グラフの数値は、国語、数学及び英語の正答率

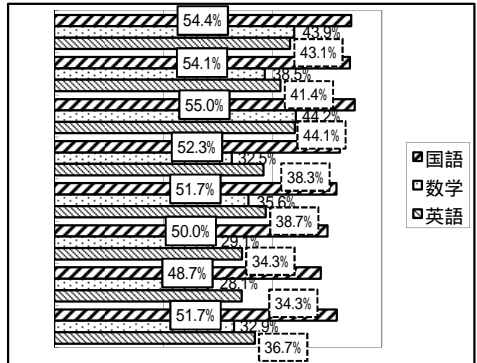
Q2 自分の進路希望の達成について、どのように考えていますか。

H24	1年次	
66.0%	55.0%	卒業までに絶対達成しようと思っている。
8.5%	12.3%	達成するまで、卒業後1,2年かかってかまわないと思っている。
13.6%	19.7%	卒業までに達成できなければ他の進路に変えてもいいと思っている。
8.1%	8.3%	何とかなるだろうと思っている。
3.3%	4.6%	あまり考えないようにしている。
0.5%	0.1%	記入ミス・無答



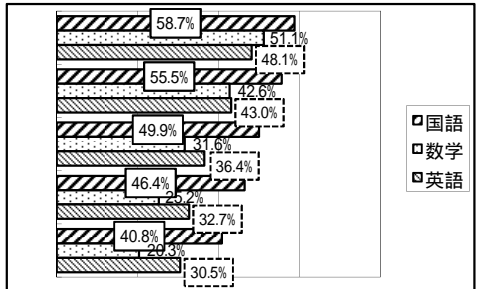
Q3 普段どんな気持ちで勉強していますか、最も強く思っているものを選んでください。

H24	1年次	
8.9%	12.5%	分からないことでも自分の力で答えを見つけられるようになりたい。
11.9%	15.8%	多くのことを知り社会に出て役立つ力を身につけたい。
15.6%	14.8%	入学試験や就職試験に備えたい。
1.2%	1.0%	親や先生にほめられたい。
35.5%	33.4%	成績を上げたい。
2.6%	2.3%	先生や家族に言われるから勉強している。
21.4%	17.4%	特に考えていない。
2.5%	2.3%	その他
0.5%	0.5%	記入ミス・無答



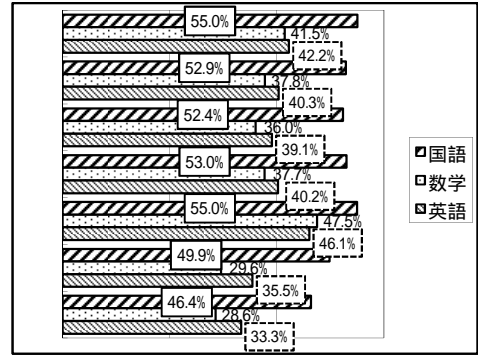
Q4 学校の授業の内容がどの程度理解できますか。

H24	1年次	
6.9%	7.2%	ほとんどの授業がよく理解できる。
37.4%	42.9%	理解できる授業の方が多い。
42.8%	40.5%	理解できる授業と理解できない授業が半分くらいずつある。
10.3%	7.6%	理解できない授業の方が多い。
2.1%	1.4%	ほとんどの授業が理解できない。
0.6%	0.4%	記入ミス・無答



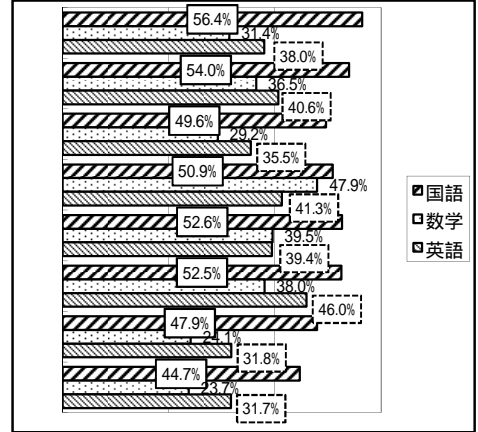
Q5 授業で分からないことがあったら、どうすることが多いですか(該当するものをすべて選んでください)。

H24	1年次	
58.4%	55.5%	自分で調べる。
39.8%	35.7%	学校の先生に質問する。
72.5%	73.2%	友達に聞く。
12.7%	19.3%	家族に聞く。
11.7%	11.6%	塾・予備校や家庭教師の先生に質問する。
19.2%	13.6%	そのままにしておく。
2.7%	2.1%	その他

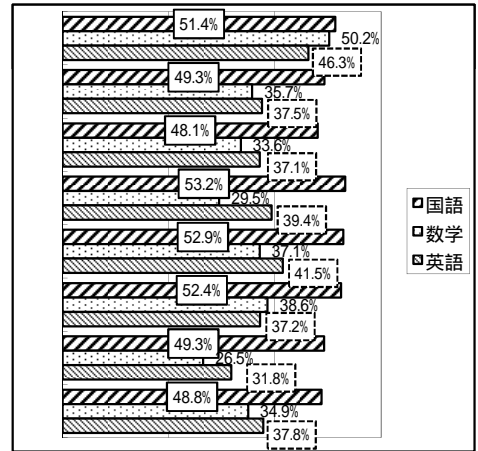


Q6 次の教科のうち、最も得意だと感じる教科はどれですか。また、最も不得意だと感じる教科はどれですか。

H24	1年次	得意教科
20.6%	18.9%	国語
14.5%	11.6%	地理歴史
2.8%	4.2%	公民
22.1%	22.4%	数学
9.7%	13.3%	理科
13.2%	15.1%	英語
9.1%	6.5%	専門教科
7.6%	7.3%	その他
0.4%	0.7%	記入ミス・無答

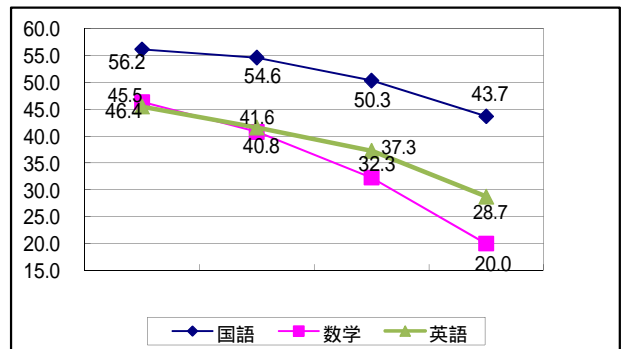


H24	1年次	不得意教科
11.8%	12.5%	国語
8.5%	11.6%	地理歴史
2.1%	2.9%	公民
31.5%	28.2%	数学
8.3%	9.4%	理科
33.0%	30.1%	英語
3.0%	2.8%	専門教科
1.3%	1.3%	その他
0.5%	1.2%	記入ミス・無答



Q7 学校からどのくらいの割合で宿題・課題が出されていますか。

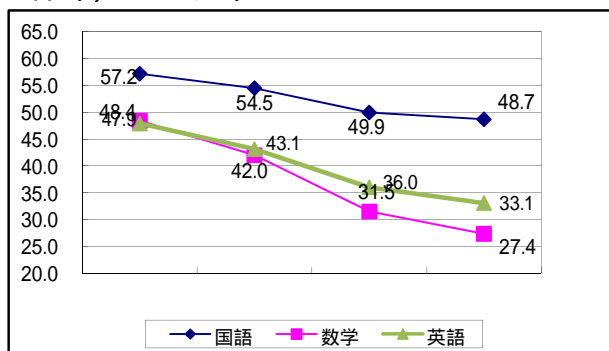
H24	1年次	
15.8%	22.9%	ほとんど毎日出ている。
35.0%	40.5%	週に2~3回出ている。
38.2%	30.4%	週に1回ぐらい出ている。
10.7%	5.8%	ほとんど出していない。
0.3%	0.4%	記入ミス・無答



Q8 学校ではどのくらいの割合でテスト(小テストや確認テストも含む。)がありますか。

H24 1年次

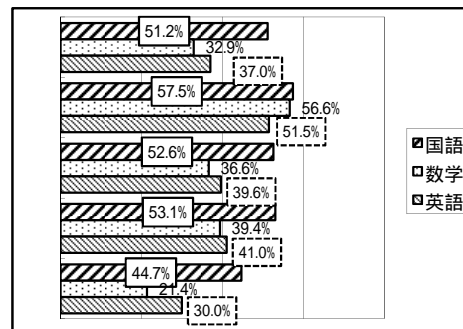
10.6%	10.1%	ほとんど毎日ある。
36.4%	36.4%	週に2~3回ある。
29.6%	35.3%	週に1回くらいある。
23.1%	18.0%	ほとんどない。
0.4%	0.2%	記入ミス・無答



Q9 あなたが受けたい授業はどんな授業ですか。最も近いものを選んでください。

H24 1年次

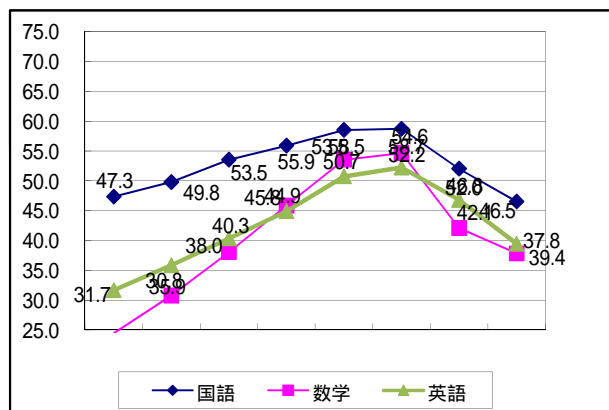
31.4%	37.0%	基礎・基本からじっくり分かるまで教えてくれる授業
5.7%	6.7%	発展的な内容まで教えてくれる授業
40.5%	38.0%	興味や関心をもてるような授業
16.5%	13.2%	進路希望達成につながる授業
5.5%	4.9%	資格取得につながる授業
0.4%	0.2%	記入ミス・無答



Q10 平日(テスト期間や長期休業中などを除く通常の月曜日から金曜日)に、学校の授業時間以外にどのくらい勉強していますか。(塾・予備校で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしている時間も含む。)

H24 1年次

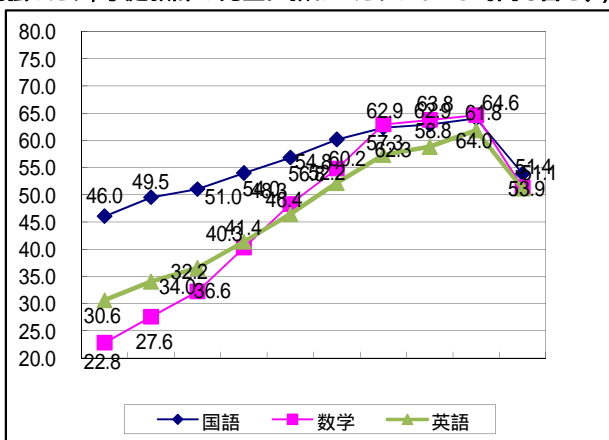
34.3%	21.8%	全く、またはほとんどしない。
12.6%	12.3%	30分より少ない。
16.9%	18.5%	30分~
23.0%	29.1%	1時間~
10.3%	14.4%	2時間~
1.8%	3.1%	3時間~
0.4%	0.5%	4時間~
0.3%	0.1%	5時間以上
0.4%	0.2%	記入ミス・無答



Q11 休日に、どのくらい勉強していますか。(塾・予備校で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしている時間も含む。)

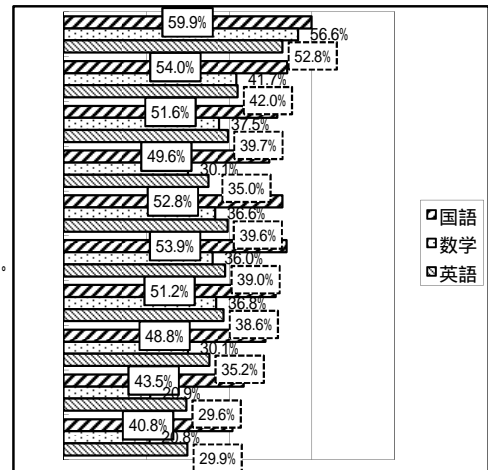
H24 1年次

30.9%	19.8%	全く、またはほとんどしない。
9.5%	9.4%	30分より少ない。
12.0%	11.9%	30分~
19.0%	20.8%	1時間~
15.4%	18.9%	2時間~
7.9%	11.7%	3時間~
2.8%	4.3%	4時間~
1.1%	1.9%	5時間~
0.4%	0.8%	6時間~
0.3%	0.3%	7時間以上
0.6%	0.2%	記入ミス・無答



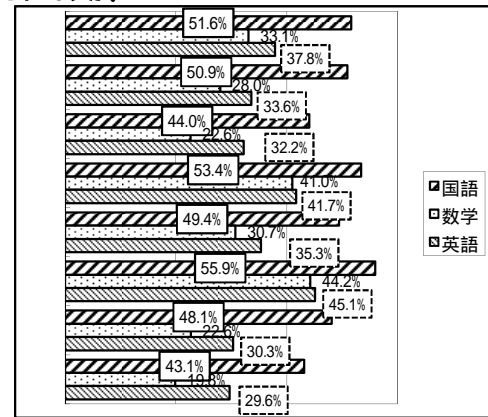
Q12 家庭学習のしかたに、最も近いものはどれですか。

H24	1年次	
15.2%	20.8%	ほぼ毎日している。
3.8%	5.0%	主に平日にしている。
5.7%	9.5%	主に休日にしている。
17.6%	11.7%	主に宿題・課題があるときと定期考査前にしている。
6.4%	8.3%	主に宿題・課題のあるときにしている。
26.1%	24.4%	主に定期考査前にしている。
1.4%	1.1%	主に塾・予備校のあるときや家庭教師の先生がくるときにしている。
11.8%	11.7%	気が向いたときにしている。
10.4%	6.5%	家庭学習はほとんどしない。
0.8%	0.7%	その他
0.6%	0.3%	記入ミス・無答



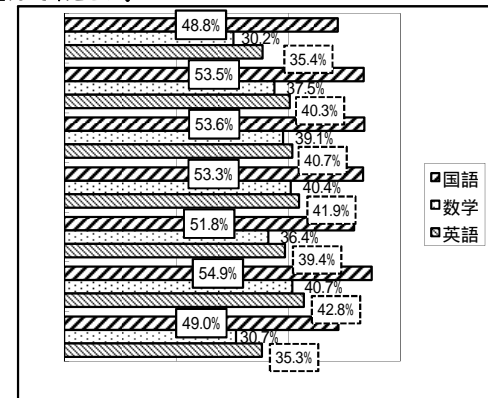
Q13 次の教科のうち、家庭学習で最も力を入れて取り組んでいる教科はどれですか。

H24	1年次	
4.8%	4.8%	国語
5.7%	4.3%	地理歴史
1.0%	1.5%	公民
40.4%	45.5%	数学
4.2%	5.9%	理科
22.8%	23.0%	英語
11.0%	8.4%	専門教科
8.2%	6.2%	その他
0.7%	0.4%	記入ミス・無答



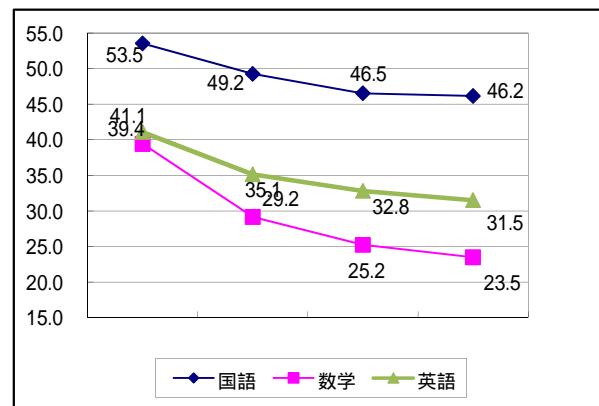
Q14 家庭学習をする上で悩んでいることはありますか。最も近いものを選んでください。

H24	1年次	
13.3%	14.0%	家庭学習の方法が分からない。
29.7%	26.6%	家庭学習に集中できない。
15.9%	15.2%	学習の計画を立てても長続きしない。
16.0%	21.4%	家庭学習と部活動の両立が難しい。
6.2%	6.4%	家庭学習を一生懸命やっても成績が伸びない。
3.0%	2.8%	その他
15.7%	13.4%	特に悩みはない。
0.3%	0.2%	記入ミス・無答



Q15 学校に行く前に朝食をとりますか。

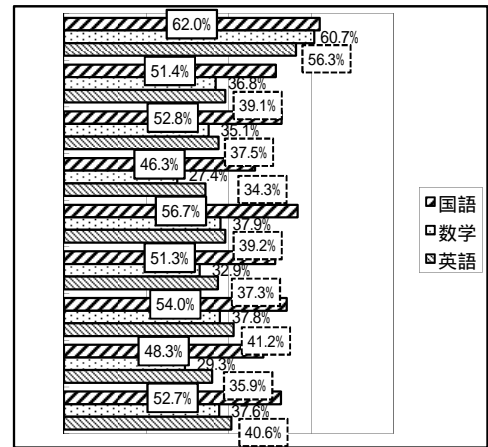
H24	1年次	
73.7%	77.3%	必ずとる。
14.2%	13.8%	たいていとる。
6.5%	5.1%	とらないことが多い。
5.3%	3.6%	全く、または、ほとんどとらない。
0.4%	0.2%	記入ミス・無答



Q16 平日に、家の中で最も時間をかけて行っていることは何ですか。

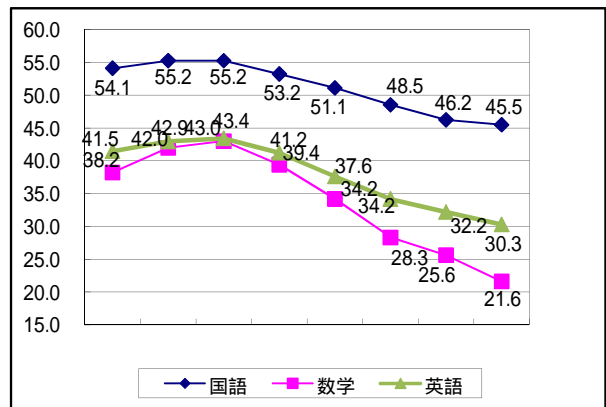
H24	1年次	
7.0%	10.8%	家庭学習
20.2%	19.6%	テレビやビデオ
22.7%	15.8%	ゲームやインターネット
14.9%	17.8%	電話やメール
3.5%	3.6%	読書
14.9%	14.9%	自分の趣味(, を除く)
4.4%	5.1%	家族との会話
1.3%	1.4%	手伝い
10.7%	10.8%	その他
0.4%	0.2%	記入ミス・無答

1年次の は「ゲームやパソコン」で集計



Q17 平日に、だいたいどのくらいテレビやビデオを見ますか。

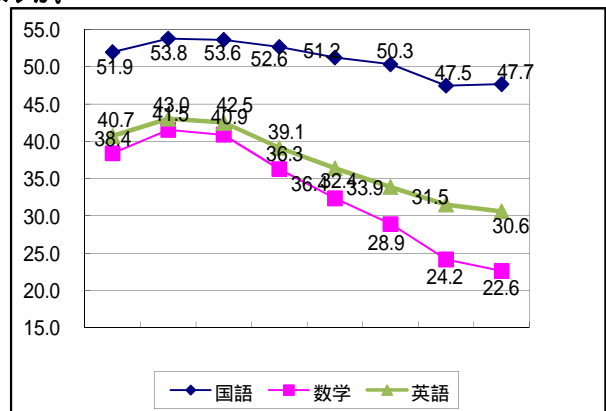
H24	1年次	
8.4%	8.6%	全く、またはほとんど見ない。
8.8%	9.2%	30分より少ない。
13.2%	13.8%	30分～
26.4%	27.5%	1時間～
22.6%	21.1%	2時間～
12.3%	11.5%	3時間～
4.5%	4.5%	4時間～
3.5%	3.5%	5時間以上
0.4%	0.3%	記入ミス・無答



Q18 平日に、だいたいどのくらいゲームやインターネットをしますか。

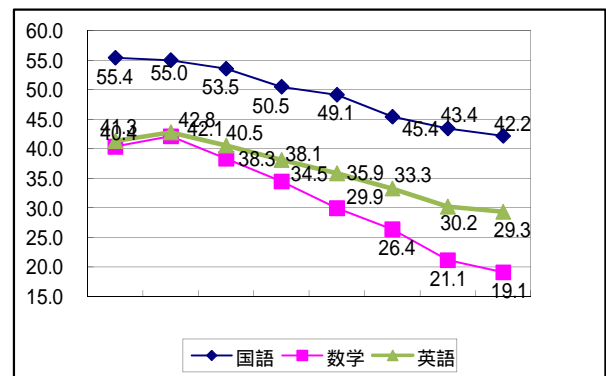
H24	1年次	
21.9%	28.7%	全く、またはほとんどしない。
12.8%	15.9%	30分より少ない。
15.7%	14.9%	30分～
20.8%	19.1%	1時間～
14.5%	11.3%	2時間～
8.0%	5.6%	3時間～
2.7%	2.0%	4時間～
3.2%	2.3%	5時間以上
0.4%	0.2%	記入ミス・無答

1年次は「ゲームやパソコン」で集計



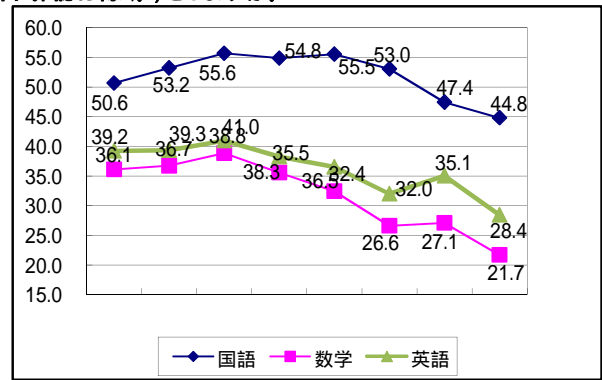
Q19 平日に、だいたいどのくらい電話やメールをしますか。

H24	1年次	
20.0%	11.8%	全く、またはほとんどしない。
26.2%	25.4%	30分より少ない。
15.5%	17.5%	30分～
14.2%	17.9%	1時間～
9.8%	11.8%	2時間～
6.3%	7.1%	3時間～
2.9%	3.3%	4時間～
4.6%	4.8%	5時間以上
0.5%	0.4%	記入ミス・無答



Q20 平日に、だいたいどのくらい読書(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く。)をしますか。

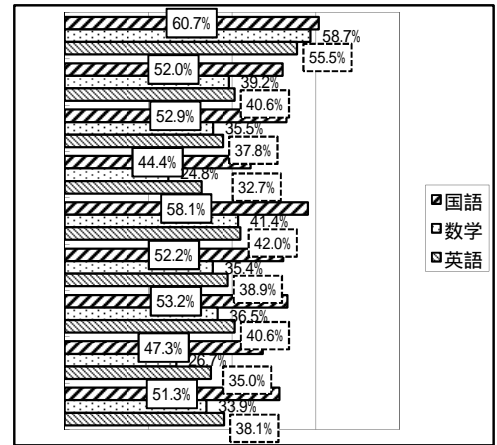
H24	1年次	
59.0%	54.6%	全く、またはほとんどしない。
17.5%	20.6%	30分より少ない。
11.3%	11.7%	30分～
7.2%	8.0%	1時間～
2.9%	2.7%	2時間～
1.0%	1.4%	3時間～
0.3%	0.4%	4時間～
0.4%	0.4%	5時間以上
0.4%	0.2%	記入ミス・無答



Q21 休日に、家の中で最も時間をかけて行っていることは何ですか。

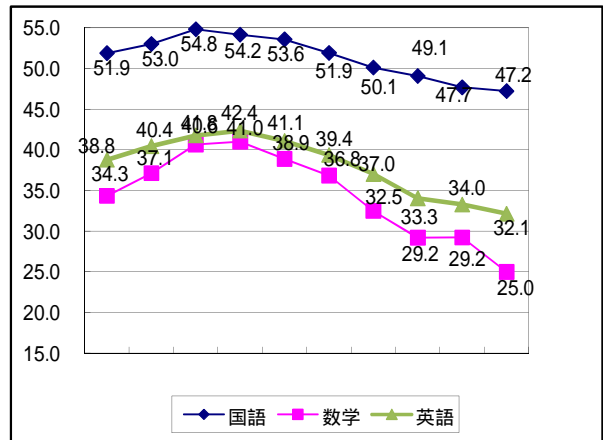
H24	1年次	
4.6%	6.6%	家庭学習
19.2%	18.8%	テレビやビデオ
23.2%	18.7%	ゲームやインターネット
7.9%	11.0%	電話やメール
2.4%	2.7%	読書
22.4%	22.5%	自分の趣味
2.9%	3.2%	家族との対話
1.6%	1.6%	手伝い
15.4%	14.5%	その他
0.4%	0.4%	記入ミス・無答

1年次のは「ゲームやパソコン」で集計



Q22 休日に、だいたいどのくらいテレビやビデオを見ますか。

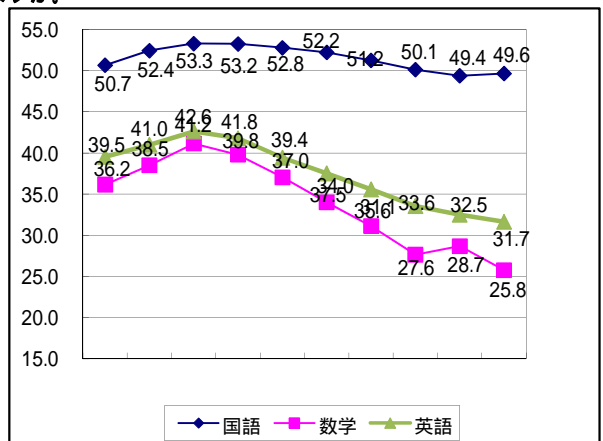
H24	1年次	
5.9%	5.0%	全く、またはほとんど見ない。
3.7%	4.0%	30分より少ない。
5.8%	5.9%	30分～
15.9%	16.8%	1時間～
22.6%	22.6%	2時間～
19.8%	19.1%	3時間～
10.9%	11.1%	4時間～
7.3%	7.2%	5時間～
3.2%	3.1%	6時間～
4.6%	4.7%	7時間以上
0.4%	0.5%	記入ミス・無答



Q23 休日に、だいたいどのくらいゲームやインターネットをしますか。

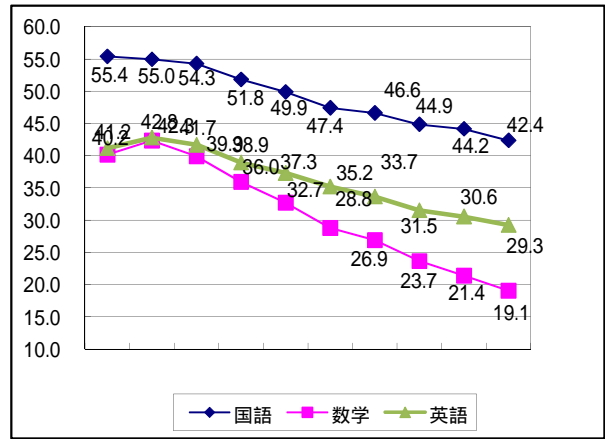
H24	1年次	
16.2%	21.5%	全く、またはほとんどしない。
8.3%	11.1%	30分より少ない。
10.4%	10.6%	30分～
18.4%	19.1%	1時間～
17.7%	15.3%	2時間～
12.6%	10.0%	3時間～
6.2%	4.7%	4時間～
4.1%	3.2%	5時間～
1.6%	1.3%	6時間～
4.1%	2.9%	7時間以上
0.5%	0.3%	記入ミス・無答

1年次は「ゲームやパソコン」で集計



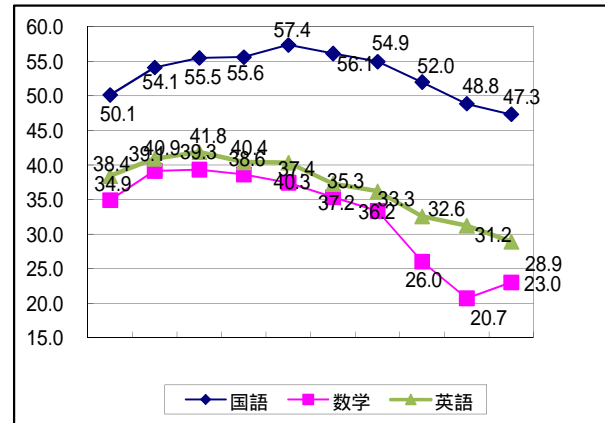
Q24 休日に、だいたいどのくらい電話やメールをしますか。

H24 1年次		
18.5%	10.7%	全く、またはほとんどしない。
20.8%	20.3%	30分より少ない。
14.9%	15.4%	30分～
14.7%	17.8%	1時間～
10.8%	12.0%	2時間～
7.5%	9.2%	3時間～
4.1%	4.9%	4時間～
3.1%	3.8%	5時間～
1.4%	1.5%	6時間～
3.7%	3.9%	7時間以上
0.5%	0.5%	記入ミス・無答



Q25 休日に、だいたいどのくらい読書(教科書や参考書, 漫画や雑誌は除く。)をしますか。

H24 1年次		
60.6%	56.1%	全く、またはほとんどしない。
12.7%	15.5%	30分より少ない。
9.0%	10.1%	30分～
8.9%	9.2%	1時間～
4.5%	4.7%	2時間～
2.2%	2.3%	3時間～
0.8%	0.7%	4時間～
0.4%	0.5%	5時間～
0.2%	0.3%	6時間～
0.3%	0.4%	7時間以上
0.4%	0.2%	記入ミス・無答



質問紙調査結果 Q1～Q25(1学年)

Q1 高校卒業後、進みたいと考えている進路のうち、現在最も強く希望しているのは次のうちどれですか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H23	
18.5%	39.7%	47.8%	23.5%	21.5%	34.1%	34.2%	4年制国公立大学
9.3%	15.1%	14.6%	6.3%	10.0%	11.9%	11.0%	4年制私立大学
2.6%	2.4%	2.4%	4.6%	3.9%	3.1%	3.0%	短期大学
19.9%	13.3%	12.5%	20.3%	20.7%	16.2%	16.7%	専修学校・各種学校
24.9%	14.1%	8.9%	20.9%	17.4%	15.4%	16.7%	民間就職
6.0%	3.8%	3.0%	5.9%	6.0%	4.5%	4.1%	公務員就職
0.3%	0.2%	0.2%	0.7%	1.0%	0.4%	0.3%	家業
16.3%	9.6%	9.2%	15.5%	17.5%	12.5%	12.4%	未定
1.9%	1.2%	1.3%	1.9%	2.0%	1.5%	1.3%	その他
0.2%	0.6%	0.3%	0.5%	0.2%	0.4%	0.3%	記入ミス・無答

- ・ の「国公立大」の進学希望者は、昨年度に引き続き0.1ポイント減少した
- ・ の「私立大」、の「短大」進学希望者は、前年度よりそれぞれ0.9、0.1ポイント増加
- ・ 大学等進学希望者（～）は、49.1%で、2.0ポイント減少した前年度に比べ0.9ポイント増加に転じた
- ・ 就職希望者（～）は、20.3%で、前年度より0.8ポイント減少

Q2 自分の進路希望の達成について、どのように考えていますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H23	
60.6%	61.3%	63.2%	57.2%	57.5%	60.4%	55.0%	卒業までに絶対達成しようと思っている。
12.5%	11.3%	11.1%	11.9%	12.8%	11.7%	12.3%	達成するまで、卒業後1、2年かかってかまわないと思っている。
13.9%	15.7%	15.0%	16.7%	14.0%	15.2%	19.7%	卒業までに達成できなければ他の進路に変えてもいいと思っている。
8.2%	7.9%	7.2%	8.8%	11.0%	8.4%	8.3%	何とかなるだろうと思っている。
4.7%	3.0%	3.1%	5.1%	4.4%	3.8%	4.6%	あまり考えないようにしている。
0.1%	0.9%	0.5%	0.4%	0.3%	0.5%	0.1%	記入ミス・無答

- ・ の「卒業までに絶対達成しようと思っている」と回答した者が、前年度より5.4ポイント増加
 - ・ の「卒業後1、2年かかってかまわない」と回答した者が、前年度より0.6ポイント減少
 - ・ ～のような進路意識の希薄な層の割合も4.4ポイントと大きな減少した。
- 現役での進路達成に対する意識が高く、自分の進路を1年時から段階的に考えている生徒が比較的多くみられることから、ライフプランを踏まえたキャリア教育を引き続き体系化して行う必要がある。

Q3 普段どんな気持ちで勉強していますか。最も強く思っているものを選んでください。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H23	
9.9%	12.0%	12.9%	9.9%	9.4%	11.2%	12.5%	分からないことでも自分の力で答えを見つけられるようになりたい。
14.0%	12.7%	14.9%	14.5%	12.7%	13.9%	15.8%	多くのことを知り社会に出て役立つ力を身につけたい。
13.3%	15.3%	16.8%	13.9%	12.9%	14.9%	14.8%	入学試験や就職試験に備えたい。
1.3%	1.1%	1.2%	1.2%	1.5%	1.2%	1.0%	親や先生にほめられたい。
36.0%	36.1%	33.1%	35.5%	36.3%	35.0%	33.4%	成績を上げたい。
2.4%	2.5%	2.7%	2.4%	2.4%	2.5%	2.3%	先生や家族に言われるから勉強している。
21.0%	17.8%	15.8%	20.8%	22.4%	18.8%	17.4%	特に考えていない。
2.0%	1.6%	2.0%	1.4%	2.2%	1.9%	2.3%	その他
0.1%	1.0%	0.6%	0.5%	0.3%	0.6%	0.5%	記入ミス・無答

- ・ の知的好奇心・探究心や社会で役立つことを意識している者が合わせて25.1%で、前年度より3.2ポイント減少
 - ・ の進路に関する動機付けと捉えている者が、前年度より0.1ポイント増加
 - ・ の学習に消極的な層の割合は21.3%で、前年度より1.6ポイント増加
- 学習に対して意欲的な生徒が減少していることから、学が楽しさや学が意義を実感させ、学習意欲を喚起していく様々な活動を取り入れた授業実践が望まれる。

Q4 学校の授業の内容がどの程度理解できますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H23	
8.2%	6.7%	7.1%	7.5%	8.3%	7.4%	7.2%	ほとんどの授業がよく理解できる。
39.9%	45.5%	43.8%	40.7%	41.0%	42.7%	42.9%	理解できる授業の方が多い。
42.0%	38.2%	40.4%	42.2%	39.8%	40.3%	40.5%	理解できる授業と理解できない授業が半分くらいずつある。
8.8%	7.4%	7.1%	8.3%	9.3%	7.9%	7.6%	理解できない授業の方が多い。
1.0%	1.3%	0.9%	0.9%	1.2%	1.1%	1.4%	ほとんどの授業が理解できない。
0.1%	0.9%	0.7%	0.5%	0.5%	0.6%	0.4%	記入ミス・無答

- ・ の「概ね理解できる」と回答した者は50.1%で、前年度と変化なく、引き続き50%を超えた。
 - ・ の「あまり理解できない」と回答した者は9.0%で、前年度と変化なし
- 各学校の「分かる授業」に向けた組織的な授業改善への取組をしているが、「授業が分かりやすい」と感じている層は横ばいである。ただし、「半分以上の授業が理解できない」と感じている層が、まだ約50%もいることから、語活動を取り入れながら「分かる授業」に向けた一層の授業改善が今後も望まれる。

Q5 授業で分からないことがあったら、どうすることが多いですか(該当するものをすべて選んでください)。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H23	
54.4%	61.5%	59.7%	54.2%	55.6%	57.8%	55.5%	自分で調べる。
37.2%	38.6%	36.7%	37.1%	35.9%	37.1%	35.7%	学校の先生に質問する。
72.2%	75.9%	70.5%	74.7%	72.8%	73.0%	73.2%	友達に聞く。
16.2%	20.3%	19.7%	17.3%	15.4%	18.3%	19.3%	家族に聞く。
13.1%	14.8%	14.6%	12.8%	13.6%	14.0%	11.6%	塾・予備校や家庭教師の先生に質問する。
17.3%	14.9%	15.5%	14.9%	17.9%	15.8%	13.6%	そのまましておく。
3.6%	1.7%	1.7%	2.3%	1.9%	2.0%	2.1%	その他

- ・ の「自分で調べる」と回答した者は、前年度より2.3ポイント増加
 - ・ 最も多いのが の「友達に聞く」の73.0%だが、前年度より0.2ポイント減少
 - ・ の「そのままにしておく」と回答した者は、前年度より2.2ポイント増加し、依然として多い。
- 分からないことは自分で調べる生徒が増加し、先生や友達に聞きやすく感じていることから、「学び合い」の授業は効果的と考えられる。「そのままにしておく」生徒もまだ多いことから、生徒の理解度を計画的にチェックする等の工夫が必要である。**

Q6 次の教科のうち、最も得意だと感じる教科はどれですか。また、最も不得意だと感じる教科はどれですか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H23	得意教科
24.6%	18.7%	18.3%	18.8%	18.8%	19.2%	18.9%	国語
8.6%	11.6%	12.0%	10.5%	11.4%	11.2%	11.6%	地理歴史
3.4%	3.5%	4.7%	3.8%	3.6%	3.9%	4.2%	公民
20.8%	20.0%	20.9%	22.6%	22.9%	21.3%	22.4%	数学
12.9%	17.9%	14.2%	14.0%	14.5%	14.9%	13.3%	理科
14.5%	15.9%	18.6%	14.1%	13.0%	15.8%	15.1%	英語
8.3%	6.8%	6.5%	7.4%	8.5%	7.3%	6.5%	専門教科
6.6%	4.9%	4.4%	7.9%	6.9%	5.8%	7.3%	その他
0.3%	0.8%	0.4%	0.9%	0.3%	0.6%	0.7%	記入ミス・無答

- ・ 数学、国語、英語、理科、地理歴史の順番であり、前年度より数学が1.1ポイント、地理歴史が0.4ポイント減少、国語が0.3ポイント、

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H23	不得意教科
7.1%	12.5%	14.1%	8.1%	10.3%	11.3%	12.5%	国語
14.9%	9.3%	9.7%	12.9%	12.1%	11.1%	11.6%	地理歴史
2.7%	2.7%	2.6%	3.8%	2.5%	2.9%	2.9%	公民
30.5%	30.8%	31.2%	27.6%	27.8%	29.8%	28.2%	数学
6.3%	7.4%	10.0%	8.6%	6.2%	8.2%	9.4%	理科
30.7%	33.3%	28.6%	33.6%	36.6%	32.1%	30.1%	英語
6.2%	2.3%	2.0%	3.3%	2.7%	2.9%	2.8%	専門教科
1.4%	0.7%	1.4%	1.3%	1.5%	1.2%	1.3%	その他
0.2%	1.0%	0.4%	0.8%	0.3%	0.6%	1.2%	記入ミス・無答

- ・ 英語、数学、国語、地理歴史、理科の順番で、英語を不得意とする者の割合が今年度も数学を上回った。
 - ・ 英語、数学は、前年度よりそれぞれ2.0、1.6ポイント増加、国語、地理歴史、理科は前年度よりそれぞれ1.2、0.5、1.2ポイント減少
 - ・ 英語及び数学は、前年度と同様に不得意が得意を上回り、国語、公民、理科については得意が不得意を上回っている。
- 英語または数学を不得意と感じている生徒を合わせると約6割以上にのぼることから、それらの生徒に対し基礎・基本の定着を**

Q7 学校からどのくらいの割合で宿題・課題が出されていますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H23	
6.5%	30.1%	28.9%	18.1%	10.5%	21.9%	22.9%	ほとんど毎日出ている。
42.2%	43.4%	38.1%	42.0%	37.4%	40.4%	40.5%	週に2～3回出ている。
39.2%	21.6%	27.8%	33.1%	45.0%	31.3%	30.4%	週に1回ぐらい出ている。
12.0%	4.2%	4.9%	6.4%	7.0%	6.1%	5.8%	ほとんど出していない。
0.1%	0.7%	0.3%	0.4%	0.2%	0.4%	0.4%	記入ミス・無答

- ・ ～ を合わせた「週あたり1回以上は宿題・課題が出される」割合が前年度より0.2ポイント減少
 - ・ の「ほとんど宿題が出されない」割合は6.1%で、前年度より0.3ポイント増加
- 家庭学習習慣確立に向けて、宿題・課題が効果的に活用することが望まれる。**

Q8 学校からどのくらいの割合でテスト(小テストや確認テストを含む)がありますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H23	
5.3%	17.5%	8.7%	17.6%	13.6%	12.8%	10.1%	ほとんど毎日ある。
23.9%	32.0%	41.6%	31.0%	45.1%	36.1%	36.4%	週に2～3回ある。
43.1%	36.5%	36.7%	28.9%	26.9%	34.3%	35.3%	週に1回ぐらいある。
27.7%	13.0%	12.6%	22.1%	14.0%	16.3%	18.0%	ほとんどない。
0.1%	1.0%	0.3%	0.4%	0.4%	0.5%	0.2%	記入ミス・無答

- ・ ～ を合わせた「週あたり1回以上テストが実施される」割合が前年度より1.4ポイント増加
 - ・ の「ほとんどテストが実施されない」割合は1.7ポイント減少
- 前年度より小テストの活用率は上昇し、今後も生徒の理解度を計画的に調査し、学習内容の定着を図るためにも、小テストの活用を推進していく必要がある。**

Q9 あなたが受けた授業はどんな授業ですか。最も近いものを選んでください。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H23	
37.9%	32.3%	34.1%	37.5%	37.9%	35.3%	37.0%	基礎・基本からじっくり分かるまで教えてくれる授業
4.8%	9.3%	9.1%	5.8%	6.0%	7.6%	6.7%	発展的な内容まで教えてくれる授業
36.3%	38.8%	40.5%	36.5%	34.7%	38.0%	38.0%	興味や関心ももてるような授業
14.6%	14.8%	12.8%	13.8%	14.1%	13.9%	13.2%	進路希望達成につながる授業
6.3%	4.2%	3.2%	6.2%	7.0%	4.9%	4.9%	資格取得につながる授業
0.2%	0.7%	0.3%	0.2%	0.3%	0.4%	0.2%	記入ミス・無答

- ・ の「興味・関心ももてる授業」に続き、の「基礎・基本からじっくり分かるまで教えてくれる授業」を望む割合が高い。
 - ・ 生徒は、学ぶ喜びや学ぶ意義が実感できる授業を望んでいる。
- 生徒の期待に応える授業実現のためにも、基礎・基本を定着させながら、学習意欲が向上するような授業内容や授業形態について、創意工夫を凝らした取組が今後も必要である。

Q10 平日(テスト期間や長期休業中などを除く通常の日曜日から金曜日)に、学校の授業時間以外にどのくらい勉強していますか。(塾・予備校で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしている時間も含む。)

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H23	
29.1%	21.6%	18.3%	25.1%	28.0%	23.0%	21.8%	全く、またはほとんどしない。
13.7%	12.4%	12.2%	12.2%	12.2%	12.4%	12.3%	30分より少ない。
16.7%	19.1%	19.4%	17.7%	16.9%	18.3%	18.5%	30分～
25.2%	27.9%	29.5%	28.4%	27.5%	28.2%	29.1%	1時間～
11.7%	15.1%	16.8%	12.6%	11.8%	14.3%	14.4%	2時間～
2.4%	2.9%	2.7%	2.7%	2.7%	2.7%	3.1%	3時間～
0.5%	0.3%	0.6%	0.5%	0.5%	0.5%	0.5%	4時間～
0.5%	0.2%	0.3%	0.2%	0.2%	0.2%	0.1%	5時間以上
0.1%	0.7%	0.3%	0.6%	0.1%	0.4%	0.2%	記入ミス・無答

- ・ ~ の「1時間以上」は45.9%で、前年度より1.3ポイント減少
 - ・ ~ の「2時間以上」の家庭学習にしっかり取り組んでいる層の割合は17.7%で、前年度より0.4ポイント減少
 - ・ の「全く、またはほとんどしない」は、前年度より1.2ポイント増加
- 平日の家庭学習時間は減少傾向に転じ、全く、またはほとんどしない生徒が増加したことを考えると、高校入学時から家庭学習習慣の定着に向けた取組の工夫と継続的な指導が必要である。

Q11 休日に、どのくらい勉強していますか。(塾・予備校で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしている時間も含む。)

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H23	
24.8%	16.3%	14.9%	24.0%	27.0%	19.9%	19.8%	全く、またはほとんどしない。
12.4%	8.1%	7.7%	11.1%	8.9%	9.1%	9.4%	30分より少ない。
12.9%	12.3%	11.6%	14.6%	12.4%	12.6%	11.9%	30分～
20.8%	20.7%	21.4%	20.5%	20.5%	20.9%	20.8%	1時間～
16.9%	20.4%	21.3%	17.1%	17.8%	19.3%	18.9%	2時間～
8.0%	13.8%	14.0%	7.9%	7.3%	11.1%	11.7%	3時間～
2.1%	5.2%	5.2%	2.8%	3.6%	4.2%	4.3%	4時間～
0.9%	1.6%	2.2%	1.0%	1.2%	1.5%	1.9%	5時間～
0.7%	0.5%	0.7%	0.3%	0.6%	0.6%	0.8%	6時間～
0.3%	0.3%	0.6%	0.2%	0.3%	0.4%	0.3%	7時間以上
0.3%	0.9%	0.4%	0.5%	0.5%	0.5%	0.2%	記入ミス・無答

- ・ の「全く、またはほとんどしない」は前年度より0.1ポイント増加したものの、前年度に引き続き20%を下回った。
 - ・ ~ の「2時間以上」は37.1%で、前年度より0.8ポイント減少
- 各学校における「週末課題」等の宿題・課題量の減少の結果、休日の家庭学習時間が減少傾向にあり、今後は週末の家庭学習習慣の定着に向けたさらなる取組が、学習習慣確立のために必要になると思われる。

Q12 家庭学習の仕方に、最も近いものはどれですか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H23	
11.2%	19.9%	21.7%	16.4%	17.7%	18.6%	20.8%	ほぼ毎日している。
5.3%	4.9%	4.6%	5.9%	4.7%	5.0%	5.0%	主に平日にしている。
9.8%	7.9%	8.8%	7.9%	7.3%	8.3%	9.5%	主に休日にしている。
12.8%	11.0%	10.8%	13.4%	11.5%	11.7%	11.7%	主に定期考査前にしている。
6.5%	8.5%	9.1%	8.0%	6.2%	8.0%	8.3%	主に宿題・課題のあるときにしている。
26.1%	27.6%	28.5%	24.4%	25.6%	26.8%	24.4%	主に宿題・課題があるときと定期考査前にしている。
2.0%	1.9%	1.6%	1.7%	1.6%	1.7%	1.1%	主に塾・予備校のあるときや家庭教師の先生がくるときにしている。
14.6%	12.8%	10.3%	13.0%	14.7%	12.5%	11.7%	気が向いたときにしている。
10.4%	4.7%	3.9%	8.1%	9.6%	6.5%	6.5%	家庭学習はほとんどしない。
0.9%	0.2%	0.5%	0.7%	0.9%	0.6%	0.7%	その他
0.3%	0.7%	0.4%	0.4%	0.2%	0.4%	0.3%	記入ミス・無答

- ・ の「ほぼ毎日している」者の割合は、前年度より2.2ポイント減少
 - ・ の「家庭学習はほとんどしない」者の割合は、前年度より0.1ポイント減少
 - ・ ~ の自発的な学習となっていない者は46.5%と依然として多く、前年度と同じ
- 授業を中心とした学習計画はもとより、長期的な学習計画に従って継続的に学習する姿勢を身に付けさせていくためにも、家庭と連携した学習環境整備と学習習慣確立のための取組が必要である。

Q13 次の教科のうち、家庭学習で最も力を入れて取り組んでいる教科はどれですか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体
2.8%	3.8%	3.9%	5.1%	3.7%	3.9%
5.6%	2.5%	4.1%	5.0%	5.2%	4.2%
1.6%	0.9%	1.2%	1.3%	1.6%	1.3%
41.2%	55.2%	49.2%	43.9%	43.5%	47.8%
7.1%	4.4%	4.4%	7.1%	4.7%	5.2%
15.0%	21.3%	27.6%	20.7%	21.8%	22.6%
18.3%	6.9%	5.5%	8.6%	10.1%	8.5%
7.9%	4.3%	3.8%	7.4%	9.0%	5.8%
0.5%	0.9%	0.3%	1.0%	0.4%	0.6%

H23	
4.8%	国語
4.3%	地理歴史
1.5%	公民
45.5%	数学
5.9%	理科
23.0%	英語
8.4%	専門教科
6.2%	その他
0.4%	記入ミス・無答

・前年度同様、数学、英語に力を入れて取り組んでいる者の割合が高い。
 Q6の不得意教科において、数学、英語という回答が最も多いことから、上級生から数学、英語の学習方法について学ぶ機会を設定するなどの学習方法の指導の在り方を工夫する必要がある。

Q14 家庭学習をする上で悩んでいることはありますか。最も近いものを選んでください。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体
16.1%	12.0%	13.0%	14.6%	14.3%	13.6%
24.1%	29.6%	31.2%	25.8%	26.2%	28.3%
15.3%	15.2%	15.6%	16.6%	16.8%	15.9%
19.3%	22.7%	22.3%	18.9%	16.5%	20.5%
6.2%	5.9%	4.9%	6.7%	6.0%	5.8%
1.9%	2.1%	2.6%	2.1%	2.5%	2.3%
16.8%	11.8%	10.2%	14.9%	17.5%	13.3%
0.3%	0.9%	0.2%	0.4%	0.2%	0.4%

H23	
14.0%	家庭学習の方法が分からない。
26.6%	家庭学習に集中できない。
15.2%	学習の計画を立てても長続きしない。
21.4%	家庭学習と部活動の両立が難しい。
6.4%	家庭学習を一生懸命やっても成績が伸びない。
2.8%	その他
13.4%	特に悩みはない。
0.2%	記入ミス・無答

・8割以上の者が何らかの悩みを抱えおり、その中でも「家庭学習に集中できない」、「家庭学習と部活動の両立が難しい」ことが悩みである者の割合が高い。
 ・の「家庭学習と部活動の両立が難しい」が前年度より0.9ポイントの減少
 前年度も同様の結果であったが、「学習記録簿」等を活用し、家庭での学習状況を把握するとともに、個人面談等で家庭学習の集中を阻害する要因を確認し、家庭学習に集中できる環境づくりを生徒及び保護者に考えてもらうなど、家庭との連携を進めていく必要がある。また、部活動と両立できる環境づくりを各学校が工夫するとともに、両立するための工夫について、上級生による相談会を設定するなど、「部活動との両立の仕方」を考え工夫させていく指導も必要と思われる。

Q15 学校に行く前に朝食をとりますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体
71.2%	79.9%	80.5%	73.7%	73.3%	77.0%
16.4%	11.2%	12.3%	14.9%	16.0%	13.6%
7.4%	4.8%	4.4%	6.9%	5.9%	5.5%
4.8%	3.3%	2.7%	4.1%	4.7%	3.6%
0.2%	0.8%	0.2%	0.4%	0.1%	0.4%

H23	
77.3%	必ずとる。
13.8%	たいていとる。
5.1%	とらないことが多い。
3.6%	全く、または、ほとんどとらない。
0.2%	記入ミス・無答

・の学校に行く前に「朝食を必ずとる」者が77.0%で、前年度より0.3ポイント減少
 ・の朝食をとる習慣のない者の割合は9.1%で、前年度より0.4ポイント増加に転じた
 全体的に、「朝食を必ずとる」者の学力調査の正答率が高く、生活習慣についての指導も学力向上に向けて必要である。

Q16 平日に、家の中で最も時間をかけて行っていることは何ですか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体
5.7%	11.3%	12.9%	6.9%	7.5%	9.8%
17.1%	17.7%	17.2%	19.1%	19.1%	18.0%
19.0%	18.8%	17.5%	18.6%	20.1%	18.6%
21.6%	14.2%	15.8%	19.8%	19.0%	17.3%
4.0%	3.8%	3.9%	4.0%	4.1%	3.9%
14.8%	14.6%	15.0%	15.6%	14.8%	15.0%
3.8%	5.3%	5.3%	4.3%	3.1%	4.6%
1.5%	1.2%	0.8%	1.9%	1.7%	1.3%
12.3%	11.8%	11.3%	9.1%	10.5%	11.0%
0.2%	1.3%	0.3%	0.6%	0.1%	0.6%

H23	
10.8%	家庭学習
19.6%	テレビやビデオ
15.8%	ゲームやインターネット H22は「ゲームやパソコン」
17.8%	電話やメール
3.6%	読書
14.9%	自分の趣味(, を除く)
5.1%	家族との会話
1.4%	手伝い
10.8%	その他
0.2%	記入ミス・無答

・の「家庭学習」は前年度より1.0ポイント減少
 ・の「ゲームやインターネット」、の「テレビやビデオ」、の「電話やメール」、の「自分の趣味」の時間が多く、この4項目を合わせると68.9%で、このことがQ14の「家庭学習に集中できない」に影響していると考えられる。
 ・選択項目の変更から、前年度までの「電話やメール」に含まれていたと思われる携帯電話によるインターネット使用の割合分、の「ゲームやインターネット」が増加
 携帯電話の多機能化によって、携帯電話の使用時間が増えており、家庭学習時間を確保させていくためには、学校と家庭とのさらなる連携が必要である。

Q17 平日に、だいたいどのくらいテレビやビデオを見ますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H23	
7.8%	9.6%	9.8%	8.7%	7.5%	9.0%	8.6%	全く、またはほとんど見ない。
10.5%	10.5%	10.5%	7.9%	7.2%	9.5%	9.2%	30分より少ない。
14.1%	16.1%	17.9%	12.4%	12.4%	15.2%	13.8%	30分～
23.0%	29.2%	28.2%	24.5%	23.7%	26.5%	27.5%	1時間～
22.3%	19.9%	20.5%	22.4%	23.4%	21.4%	21.1%	2時間～
14.2%	8.7%	8.2%	13.4%	14.4%	10.9%	11.5%	3時間～
4.6%	3.1%	2.8%	5.8%	6.4%	4.2%	4.5%	4時間～
3.6%	2.0%	1.9%	4.6%	4.7%	3.1%	3.5%	5時間以上
0.1%	1.0%	0.2%	0.4%	0.2%	0.4%	0.3%	記入ミス・無答

～ のテレビやビデオを3時間以上見ている者は、前年度より1.3ポイント減少しているが、まだ18.2%いる。
長時間のテレビやビデオの視聴が「家庭学習に集中できない」という悩みの原因の一つになっていると考えられる。

Q18 平日に、だいたいどのくらいゲームやインターネットをしますか。(H22は「ゲームやパソコン」)

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H23	
23.4%	24.5%	25.8%	23.7%	21.1%	24.1%	28.7%	全く、またはほとんどしない。
14.3%	15.3%	17.2%	13.3%	12.3%	15.0%	15.9%	30分より少ない。
15.4%	17.2%	17.8%	14.6%	14.2%	16.2%	14.9%	30分～
20.2%	21.0%	20.3%	21.5%	21.4%	20.8%	19.1%	1時間～
12.9%	11.9%	10.6%	13.6%	15.5%	12.5%	11.3%	2時間～
7.4%	5.3%	4.6%	7.1%	7.5%	6.0%	5.6%	3時間～
2.8%	1.7%	1.7%	2.8%	3.8%	2.4%	2.0%	4時間～
3.6%	2.2%	1.6%	2.9%	4.1%	2.6%	2.3%	5時間以上
0.1%	0.9%	0.3%	0.5%	0.2%	0.4%	0.2%	記入ミス・無答

～ の「全く、またはほとんどしない」が前年度より4.6ポイント減少している。
このため、～ の「3時間以上」の者も、前年度よりも0.7ポイント増加している。
携帯電話によるインターネット利用については、家庭学習に影響の少ない利用の仕方を指導項目に含めていく必要がある。

Q19 平日に、だいたいどのくらい電話やメールをしますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H23	
14.0%	13.8%	12.6%	14.1%	13.9%	13.5%	11.8%	全く、またはほとんどしない。
22.2%	28.4%	27.8%	22.5%	23.0%	25.6%	25.4%	30分より少ない。
15.4%	19.2%	19.4%	15.7%	17.3%	17.9%	17.5%	30分～
17.7%	16.6%	17.5%	16.7%	15.7%	16.9%	17.9%	1時間～
12.2%	10.1%	10.5%	11.9%	11.2%	11.0%	11.8%	2時間～
8.7%	5.9%	6.4%	8.3%	8.5%	7.2%	7.1%	3時間～
4.2%	2.1%	2.3%	4.9%	3.8%	3.2%	3.3%	4時間～
5.5%	2.9%	3.1%	5.5%	6.5%	4.3%	4.8%	5時間以上
0.1%	1.0%	0.3%	0.5%	0.1%	0.5%	0.4%	記入ミス・無答

～ の2時間以上電話やメールを行っている者は、前年度より1.3ポイント減少しているが、まだ25.7%もいる。
電話やメールは、相手の時間も拘束することから、使用する際のマナーも含めて、家庭と連携を取りながら指導していく必要がある。

Q20 平日に、だいたいどのくらい読書(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く。)をしますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H23	
51.9%	56.6%	52.8%	49.2%	53.7%	53.1%	54.6%	全く、またはほとんどしない。
19.5%	18.9%	21.7%	24.1%	18.5%	20.8%	20.6%	30分より少ない。
13.4%	12.1%	13.4%	12.7%	12.8%	12.9%	11.7%	30分～
9.0%	7.5%	7.5%	8.6%	8.6%	8.0%	8.0%	1時間～
3.0%	2.8%	2.7%	3.5%	3.5%	3.0%	2.7%	2時間～
1.5%	0.8%	0.9%	1.0%	1.5%	1.1%	1.4%	3時間～
0.7%	0.3%	0.3%	0.2%	0.6%	0.4%	0.4%	4時間～
0.9%	0.2%	0.2%	0.3%	0.7%	0.4%	0.4%	5時間以上
0.1%	0.8%	0.4%	0.4%	0.1%	0.4%	0.2%	記入ミス・無答

・半数以上の者が「全く、またはほとんどしない」状態で、平日の読書はあまり習慣化されていない。
・Q17～Q19の「テレビやビデオ」、「ゲームやインターネット」、「電話やメール」にかけている時間に比べて、「読書」にかかる時間は極端に短くなっている。
朝読書を実施している学校が増加しているものの、読書力を育成していくためには、読書の楽しさ等を伝え、家庭や学校において適量の読書を習慣化していく指導が必要である。

Q21 休日に、家の中で最も時間をかけて行っていることは何ですか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H23	
4.3%	7.8%	8.9%	3.9%	4.6%	6.5%	6.6%	家庭学習
16.8%	19.1%	17.8%	19.6%	17.9%	18.3%	18.8%	テレビやビデオ
22.6%	21.5%	18.9%	21.2%	23.4%	21.0%	18.7%	ゲームやインターネット H22は「ゲームやパソコン」
13.2%	7.3%	8.0%	13.2%	11.4%	9.9%	11.0%	電話やメール
2.8%	2.5%	2.7%	2.9%	3.1%	2.7%	2.7%	読書
21.2%	22.7%	24.1%	21.9%	21.6%	22.7%	22.5%	自分の趣味
2.9%	3.9%	3.3%	2.3%	2.2%	3.0%	3.2%	家族との対話
1.5%	1.2%	1.1%	1.7%	1.8%	1.4%	1.6%	手伝い
14.6%	13.3%	14.8%	12.8%	13.7%	13.9%	14.5%	その他
0.2%	0.8%	0.4%	0.6%	0.4%	0.5%	0.4%	記入ミス・無答

・平日に比べて「自分の趣味」の割合が高くなっており、次いで「ゲームやインターネット」の順となっている。

Q22 休日に、だいたいどのくらいテレビやビデオを見ますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H23	
4.2%	5.2%	5.4%	4.1%	5.2%	4.9%	5.0%	全く、またはほとんど見ない。
3.4%	4.0%	4.0%	3.9%	3.5%	3.8%	4.0%	30分より少ない。
6.2%	6.4%	7.1%	5.2%	4.9%	6.1%	5.9%	30分～
16.2%	17.8%	20.1%	14.2%	12.8%	16.9%	16.8%	1時間～
21.0%	24.7%	23.6%	22.4%	20.0%	22.8%	22.6%	2時間～
19.2%	19.7%	18.9%	19.0%	20.0%	19.3%	19.1%	3時間～
12.8%	9.7%	9.9%	11.8%	12.9%	11.0%	11.1%	4時間～
7.8%	5.6%	5.7%	7.8%	9.0%	6.8%	7.2%	5時間～
4.6%	2.6%	2.3%	4.3%	4.3%	3.3%	3.1%	6時間～
4.5%	3.4%	2.6%	6.8%	7.2%	4.5%	4.7%	7時間以上
0.2%	1.0%	0.3%	0.6%	0.3%	0.5%	0.5%	記入ミス・無答

・2時間から3時間見ている者が最も多く22.8%であり、次いで3時間から4時間見ているものが多く19.3%である。
 ・3時間以上見ている者は、前年度よりは0.3ポイント減少しているものの、依然として約45%と多い状況である。
 平日に長時間の学習時間を確保することは難しいため、休日を上手に活用できるかが学習時間確保に大きく影響することから、休日の時間を有効的・計画的に活用させる指導が必要である。

Q23 休日に、だいたいどのくらいゲームやインターネットをしますか。(H22は「ゲームやパソコン」)

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H23	
15.9%	17.7%	18.4%	17.5%	15.6%	17.4%	21.5%	全く、またはほとんどしない。
9.4%	9.2%	11.2%	9.1%	7.8%	9.6%	11.1%	30分より少ない。
9.3%	10.5%	12.4%	9.4%	8.2%	10.4%	10.6%	30分～
17.6%	20.3%	19.5%	17.1%	16.1%	18.5%	19.1%	1時間～
18.3%	18.4%	17.8%	18.0%	19.4%	18.3%	15.3%	2時間～
12.4%	10.6%	10.2%	13.5%	13.0%	11.6%	10.0%	3時間～
6.8%	5.1%	4.1%	5.5%	7.0%	5.3%	4.7%	4時間～
4.0%	3.1%	2.7%	3.9%	5.1%	3.5%	3.2%	5時間～
2.5%	1.5%	1.0%	2.0%	2.1%	1.6%	1.3%	6時間～
3.6%	3.0%	2.4%	3.6%	5.4%	3.4%	2.9%	7時間以上
0.3%	0.8%	0.5%	0.5%	0.3%	0.5%	0.3%	記入ミス・無答

・の「全く、またはほとんどしない」が前年度より4.1ポイント減少している。このため、～の「3時間以上」の者も、前年度より

Q24 休日に、だいたいどのくらい電話やメールをしますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H23	
13.4%	12.7%	11.2%	12.4%	12.2%	12.2%	10.7%	全く、またはほとんどしない。
15.3%	22.4%	21.5%	18.1%	17.3%	19.7%	20.3%	30分より少ない。
14.9%	17.0%	17.4%	14.6%	15.8%	16.3%	15.4%	30分～
15.8%	16.5%	18.5%	15.4%	16.1%	16.8%	17.8%	1時間～
14.1%	12.7%	12.7%	12.6%	12.3%	12.8%	12.0%	2時間～
9.3%	7.9%	7.3%	8.8%	8.2%	8.1%	9.2%	3時間～
5.9%	3.7%	4.2%	5.7%	5.8%	4.8%	4.9%	4時間～
3.8%	2.5%	2.7%	4.4%	3.8%	3.3%	3.8%	5時間～
2.0%	1.2%	1.4%	2.1%	1.8%	1.6%	1.5%	6時間～
5.3%	2.4%	2.7%	5.2%	6.4%	4.0%	3.9%	7時間以上
0.2%	1.1%	0.4%	0.8%	0.4%	0.6%	0.5%	記入ミス・無答

・～の「1日3時間以上」の長い時間を電話やメールで過ごしている者は、前年度よりも1.5ポイント減少しているものの、まだ20%以上いる。

Q25 休日に、だいたいどのくらい読書(教科書や参考書, 漫画や雑誌は除く。)をしますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H23	
55.3%	55.5%	53.2%	55.2%	55.7%	54.7%	56.1%	全く,またはほとんどしない。
14.0%	14.8%	16.4%	15.0%	13.8%	15.1%	15.5%	30分より少ない。
11.3%	11.3%	11.5%	11.1%	10.3%	11.2%	10.1%	30分～
8.6%	9.0%	10.3%	8.8%	9.2%	9.4%	9.2%	1時間～
5.4%	4.8%	4.5%	5.6%	5.0%	5.0%	4.7%	2時間～
3.0%	2.2%	2.1%	1.8%	3.0%	2.3%	2.3%	3時間～
0.9%	0.8%	0.8%	1.2%	0.9%	0.9%	0.7%	4時間～
0.5%	0.3%	0.4%	0.5%	0.9%	0.5%	0.5%	5時間～
0.1%	0.2%	0.1%	0.1%	0.4%	0.2%	0.3%	6時間～
0.9%	0.2%	0.2%	0.4%	0.6%	0.4%	0.4%	7時間以上
0.1%	1.0%	0.4%	0.5%	0.3%	0.5%	0.2%	記入ミス・無答

・ の「全く,またはほとんどしない」者の割合が,平日での割合をさらに上回り,54.7%と高い割合になっている。
 多くの生徒が,平日に読書の時間を確保することが難しい状況にあることも窺えることから,休日を上手に活用するなど,計画的な生活習慣を確立させる指導が必要である。

まとめ

<学習意欲の向上>

学習意欲を向上させるためには,徹底した教材研究により,生徒の興味・関心を高め,理解が得られる授業づくりが求められる。

進路指導においては,自己の進路に進むに当たって今後自分に必要となる力について,さらに踏み込んで考えさせる指導が必要と思われる。

<学習習慣の確立>

入学時から,家庭学習習慣を新たにつくり上げるため,「学習記録簿」等を活用するなど,家庭での学習状況を把握し,家庭学習時間の確保を阻害する要因を確認し,家庭学習に集中できる環境づくりを学校から家庭に呼びかけていくことが必要である。

生徒自らが社会で果たすべき役割を見据え,主体的に学ぶ姿勢を育てていくためには,キャリア教育等において,体験学習やインターンシップ等を効果的に活用し,志をもって進路希望実現に向けた具体的な目標が持てるような進路指導がなお一層求められる。また,学校においては,家庭との連携を一層深め,学習環境の整備を推進し,家庭学習習慣の確立に向けた指導をさらに工夫していくとともに,徹底した教材研究を軸とした授業改善へのさらなる取り組みが求められる。

質問紙調査結果 Q26～Q60(1学年) (H24から実施)

当てはまる
どちらかといえば、当てはまる
どちらかといえば、当てはまらない
当てはまらない
記入ミス・無答

Q26 毎日同じくらいの時刻に起きている

	南部	中部南	中部北	北部	東部	全体
	65.8%	69.1%	68.1%	65.1%	63.6%	66.8%
	29.4%	25.9%	26.9%	29.4%	30.1%	27.9%
	2.8%	3.4%	3.5%	3.9%	4.0%	3.6%
	1.8%	0.9%	1.3%	1.3%	2.0%	1.4%
	0.2%	0.7%	0.3%	0.3%	0.3%	0.4%

Q27 毎日同じくらいの時刻に寝ている

	南部	中部南	中部北	北部	東部	全体
	29.8%	33.2%	33.2%	30.7%	31.6%	32.1%
	43.0%	43.5%	43.1%	45.2%	42.6%	43.5%
	20.0%	16.9%	17.2%	17.1%	18.3%	17.6%
	6.9%	5.8%	6.0%	6.5%	7.2%	6.3%
	0.3%	0.7%	0.5%	0.5%	0.4%	0.5%

Q28 体調はよい

	南部	中部南	中部北	北部	東部	全体
	38.0%	44.3%	43.6%	36.9%	41.6%	41.6%
	42.0%	39.2%	39.9%	43.1%	39.8%	40.5%
	16.2%	12.8%	12.9%	16.0%	14.7%	14.1%
	3.6%	3.0%	3.2%	3.6%	3.5%	3.3%
	0.2%	0.8%	0.5%	0.5%	0.4%	0.5%

Q29 熟睡ができています

	南部	中部南	中部北	北部	東部	全体
	39.7%	44.4%	44.8%	41.8%	48.7%	44.3%
	35.7%	33.5%	33.1%	36.0%	31.9%	33.8%
	18.7%	16.4%	16.9%	17.0%	14.1%	16.6%
	5.7%	4.9%	4.6%	5.0%	5.0%	4.9%
	0.2%	0.8%	0.5%	0.3%	0.3%	0.5%

Q30 食欲はある

	南部	中部南	中部北	北部	東部	全体
	58.3%	67.7%	65.2%	58.7%	64.2%	63.7%
	32.2%	25.5%	27.5%	32.8%	28.3%	28.7%
	7.9%	5.1%	5.7%	6.7%	5.3%	5.9%
	1.3%	0.9%	1.1%	1.4%	1.7%	1.2%
	0.3%	0.8%	0.5%	0.5%	0.4%	0.5%

Q31 学校生活に充実感や満足感を感じている

	南部	中部南	中部北	北部	東部	全体
	31.3%	39.0%	37.4%	29.0%	34.0%	35.0%
	45.5%	40.9%	42.8%	45.3%	43.0%	43.2%
	16.2%	13.8%	14.1%	17.7%	15.9%	15.2%
	6.7%	5.5%	5.0%	7.5%	6.7%	6.0%
	0.3%	0.9%	0.7%	0.5%	0.4%	0.6%

Q32 楽しく過ごすことが多い

	南部	中部南	中部北	北部	東部	全体
	40.9%	50.6%	49.7%	43.5%	47.3%	47.5%
	43.4%	37.3%	37.8%	40.2%	39.2%	38.9%
	12.6%	9.2%	9.5%	13.1%	10.3%	10.6%
	2.8%	2.0%	2.4%	2.7%	2.8%	2.5%
	0.3%	0.8%	0.6%	0.6%	0.4%	0.6%

Q33 友達と、よく話をする

	南部	中部南	中部北	北部	東部	全体
	70.7%	70.7%	72.0%	70.1%	70.2%	70.9%
	24.1%	23.4%	22.3%	24.4%	23.0%	23.3%
	4.0%	3.8%	4.2%	3.9%	4.9%	4.1%
	0.9%	1.2%	0.9%	0.9%	1.5%	1.0%
	0.3%	1.0%	0.6%	0.7%	0.4%	0.7%

Q34 のんびり過ごす時間がある

	南部	中部南	中部北	北部	東部	全体
	37.7%	40.9%	38.5%	38.8%	40.9%	39.4%
	32.5%	29.6%	29.8%	33.1%	34.7%	31.4%
	20.6%	19.7%	22.3%	19.8%	17.3%	20.3%
	8.8%	8.9%	8.9%	7.5%	6.7%	8.3%
	0.4%	1.0%	0.6%	0.9%	0.5%	0.7%

Q35 人が困っている時は、進んで助けるようにしている

	南部	中部南	中部北	北部	東部	全体
	21.2%	25.0%	26.4%	22.4%	21.1%	24.0%
	58.4%	58.5%	57.1%	58.2%	58.2%	58.0%
	17.4%	13.6%	13.9%	16.7%	17.6%	15.3%
	2.4%	2.0%	1.9%	1.8%	2.5%	2.1%
	0.5%	0.9%	0.7%	0.8%	0.6%	0.7%

Q36 新聞やテレビのニュースなどに関心がある

	南部	中部南	中部北	北部	東部	全体
	15.6%	19.5%	19.0%	15.4%	15.1%	17.5%
	39.5%	40.0%	42.0%	40.5%	41.1%	40.8%
	32.7%	29.7%	29.1%	32.5%	30.4%	30.5%
	11.9%	9.9%	9.2%	11.2%	13.0%	10.6%
	0.3%	1.0%	0.6%	0.5%	0.4%	0.6%

Q37 趣味の時間を確保している

	南部	中部南	中部北	北部	東部	全体
	37.7%	41.0%	38.6%	39.5%	40.8%	39.6%
	32.3%	30.3%	32.9%	32.7%	32.4%	32.1%
	20.8%	19.8%	20.2%	19.7%	19.3%	20.0%
	8.9%	8.0%	7.6%	7.5%	7.0%	7.7%
	0.2%	0.9%	0.7%	0.6%	0.4%	0.6%

Q38 心配なことがあり、学校生活に集中できない

	南部	中部南	中部北	北部	東部	全体
	5.6%	5.3%	5.0%	5.7%	5.3%	5.3%
	18.4%	15.1%	15.2%	17.3%	16.1%	16.1%
	39.5%	37.7%	39.2%	40.2%	37.7%	38.8%
	36.2%	41.0%	40.1%	36.2%	40.2%	39.2%
	0.3%	1.0%	0.6%	0.7%	0.6%	0.7%

Q39 つまらなく過ごすことが多い

	南部	中部南	中部北	北部	東部	全体
	7.6%	4.9%	4.8%	7.9%	6.8%	6.0%
	17.2%	14.3%	13.9%	16.1%	15.9%	15.1%
	38.3%	39.2%	39.2%	40.4%	38.4%	39.2%
	36.7%	40.7%	41.4%	35.2%	38.4%	39.1%
	0.2%	0.8%	0.7%	0.5%	0.5%	0.6%

Q40 感情の起伏を抑えられないことが多い

	南部	中部南	中部北	北部	東部	全体
	6.4%	5.7%	4.9%	6.5%	6.3%	5.7%
	15.5%	14.1%	15.0%	15.1%	16.1%	15.0%
	38.6%	35.6%	37.0%	37.8%	35.3%	36.7%
	39.3%	43.7%	42.7%	40.0%	41.9%	41.9%
	0.2%	1.0%	0.5%	0.6%	0.5%	0.6%

Q42 勉強できることがうれしい

	南部	中部南	中部北	北部	東部	全体
	6.2%	7.9%	9.5%	7.2%	6.9%	7.9%
	29.8%	29.7%	31.7%	31.6%	27.7%	30.4%
	39.1%	38.8%	37.3%	37.5%	37.1%	37.8%
	24.7%	22.5%	21.0%	23.1%	27.7%	23.2%
	0.3%	1.1%	0.5%	0.7%	0.6%	0.7%

Q44 難しいことでも挑戦することが多い

	南部	中部南	中部北	北部	東部	全体
	14.6%	16.7%	17.8%	14.6%	14.2%	16.0%
	43.1%	44.5%	44.0%	42.2%	42.4%	43.4%
	36.6%	33.3%	33.6%	37.4%	36.2%	35.0%
	5.3%	4.6%	4.0%	5.1%	6.2%	4.9%
	0.3%	1.0%	0.6%	0.7%	1.0%	0.7%

Q46 夢中になれることがある

	南部	中部南	中部北	北部	東部	全体
	62.1%	65.7%	64.1%	64.1%	62.7%	64.0%
	25.2%	22.1%	23.8%	24.6%	25.1%	23.9%
	10.0%	8.9%	8.4%	8.7%	9.1%	8.8%
	2.5%	2.5%	3.2%	2.1%	2.7%	2.7%
	0.2%	0.7%	0.6%	0.6%	0.4%	0.5%

Q48 部活動に集中できている

	南部	中部南	中部北	北部	東部	全体
	45.6%	47.6%	51.3%	44.4%	46.3%	47.7%
	31.5%	30.7%	29.9%	32.9%	29.9%	30.8%
	11.9%	11.6%	9.5%	12.7%	11.4%	11.1%
	10.7%	9.2%	8.6%	9.4%	11.8%	9.6%
	0.3%	1.0%	0.8%	0.6%	0.6%	0.7%

Q50 自分の長所を伸ばそうとしている

	南部	中部南	中部北	北部	東部	全体
	30.0%	31.5%	32.6%	28.5%	28.3%	30.6%
	41.7%	42.6%	43.8%	44.5%	43.2%	43.3%
	23.0%	20.6%	19.2%	21.2%	22.0%	20.7%
	5.0%	4.4%	3.8%	5.3%	6.0%	4.7%
	0.3%	1.0%	0.7%	0.6%	0.6%	0.7%

Q52 仲間と力を合わせて活動しようとしている

	南部	中部南	中部北	北部	東部	全体
	44.7%	49.7%	49.1%	42.4%	44.0%	46.7%
	46.6%	41.0%	42.1%	46.9%	44.5%	43.6%
	6.8%	6.7%	6.7%	8.0%	9.0%	7.3%
	1.7%	1.6%	1.4%	2.1%	2.0%	1.7%
	0.2%	1.0%	0.7%	0.6%	0.6%	0.7%

Q54 自分の考えを相手に的確に伝えている

	南部	中部南	中部北	北部	東部	全体
	14.1%	17.5%	17.7%	15.1%	16.0%	16.5%
	52.3%	50.9%	50.9%	49.4%	49.6%	50.6%
	29.0%	27.0%	26.8%	30.2%	28.1%	27.9%
	4.5%	3.7%	4.0%	4.7%	5.8%	4.4%
	0.2%	1.0%	0.6%	0.7%	0.6%	0.7%

Q41 集中して勉強できている

	南部	中部南	中部北	北部	東部	全体
	10.1%	9.2%	9.5%	9.8%	10.6%	9.7%
	45.1%	41.5%	40.4%	43.7%	40.9%	41.8%
	33.6%	35.3%	36.8%	34.2%	33.4%	35.1%
	11.0%	13.3%	12.8%	11.7%	14.3%	12.8%
	0.3%	0.8%	0.6%	0.6%	0.8%	0.6%

Q43 一度始めたことは最後までやり遂げるようにしている

	南部	中部南	中部北	北部	東部	全体
	31.2%	34.5%	33.8%	31.1%	30.8%	32.7%
	50.5%	48.7%	49.7%	51.4%	50.6%	50.0%
	15.4%	13.7%	14.1%	14.3%	15.1%	14.3%
	2.6%	2.1%	2.0%	2.6%	2.7%	2.3%
	0.3%	1.0%	0.5%	0.6%	0.9%	0.7%

Q45 人の役に立つ人間になりたいと思っている

	南部	中部南	中部北	北部	東部	全体
	51.1%	53.7%	53.9%	50.9%	48.7%	52.2%
	38.5%	35.3%	35.6%	39.3%	38.4%	37.0%
	7.7%	7.2%	7.7%	7.0%	9.0%	7.7%
	2.4%	2.4%	2.1%	2.0%	2.7%	2.3%
	0.3%	1.4%	0.7%	0.7%	1.3%	0.9%

Q47 勉強と部活動の両立を目指している

	南部	中部南	中部北	北部	東部	全体
	42.2%	50.6%	51.7%	43.2%	42.6%	47.4%
	35.3%	28.8%	30.3%	32.9%	31.3%	31.1%
	12.7%	11.8%	10.2%	14.5%	15.3%	12.5%
	9.6%	7.8%	7.1%	8.9%	10.4%	8.4%
	0.3%	1.0%	0.7%	0.5%	0.5%	0.6%

Q49 自分の個性や適性が分かっている

	南部	中部南	中部北	北部	東部	全体
	24.1%	25.5%	25.5%	23.2%	23.6%	24.6%
	46.5%	46.0%	44.7%	47.1%	46.0%	45.8%
	22.6%	21.1%	22.8%	22.5%	22.7%	22.3%
	6.6%	6.4%	6.4%	6.4%	7.2%	6.6%
	0.3%	1.1%	0.6%	0.8%	0.5%	0.7%

Q51 相手の個性や考えを受け入れるようにしている

	南部	中部南	中部北	北部	東部	全体
	39.1%	45.6%	46.1%	40.5%	42.3%	43.6%
	53.5%	47.7%	48.0%	51.6%	50.4%	49.6%
	6.0%	4.6%	4.4%	5.9%	5.5%	5.1%
	1.2%	1.0%	0.8%	1.4%	1.4%	1.1%
	0.2%	1.2%	0.7%	0.6%	0.4%	0.7%

Q53 相手の言葉や意見に耳を傾けるようにしている

	南部	中部南	中部北	北部	東部	全体
	46.2%	51.1%	51.4%	45.9%	46.7%	49.0%
	48.2%	43.5%	43.6%	48.5%	47.4%	45.6%
	4.4%	3.6%	3.9%	4.2%	4.5%	4.0%
	0.9%	0.6%	0.5%	0.8%	0.9%	0.7%
	0.3%	1.1%	0.6%	0.7%	0.5%	0.7%

Q55 時と場に応じた言葉づかいをしている

	南部	中部南	中部北	北部	東部	全体
	47.3%	52.5%	51.1%	45.4%	48.4%	49.5%
	44.1%	39.0%	41.8%	45.7%	42.7%	42.3%
	7.2%	6.4%	5.6%	6.7%	6.3%	6.3%
	0.9%	0.9%	0.8%	1.2%	1.8%	1.1%
	0.6%	1.2%	0.7%	1.0%	0.8%	0.9%

Q56 校則や公共のルール・マナーを守っている

	南部	中部南	中部北	北部	東部	全体
	46.4%	49.3%	53.3%	43.8%	44.6%	48.5%
	46.6%	43.2%	41.1%	46.7%	45.8%	44.0%
	5.3%	5.6%	4.4%	7.5%	7.3%	5.8%
	1.3%	0.7%	0.6%	1.3%	1.7%	1.0%
	0.3%	1.2%	0.5%	0.7%	0.5%	0.7%

Q57 働くことの意義を理解している

	南部	中部南	中部北	北部	東部	全体
	27.6%	29.2%	28.2%	29.4%	29.2%	28.8%
	53.8%	49.1%	51.7%	53.0%	51.3%	51.5%
	16.2%	17.6%	16.6%	15.0%	16.4%	16.4%
	2.0%	2.8%	2.8%	2.0%	2.6%	2.5%
	0.4%	1.3%	0.8%	0.7%	0.5%	0.8%

Q58 自分の役割に責任を持って行動している

	南部	中部南	中部北	北部	東部	全体
	32.3%	36.2%	34.0%	30.5%	31.3%	33.2%
	54.2%	52.4%	53.8%	55.6%	54.2%	54.0%
	11.6%	9.1%	10.4%	12.0%	12.7%	10.9%
	1.3%	1.2%	1.1%	1.2%	1.3%	1.2%
	0.7%	1.1%	0.7%	0.7%	0.6%	0.8%

Q59 クラスや学校の行事等に積極的に取り組んでいる

	南部	中部南	中部北	北部	東部	全体
	31.1%	39.6%	39.7%	34.9%	34.3%	37.0%
	45.1%	40.9%	41.2%	44.5%	41.9%	42.3%
	18.9%	15.0%	15.0%	16.3%	18.8%	16.2%
	4.6%	3.3%	3.4%	3.6%	4.4%	3.7%
	0.5%	1.3%	0.7%	0.7%	0.6%	0.8%

Q60 ボランティア活動や地域の活動に進んで参加している

	南部	中部南	中部北	北部	東部	全体
	8.1%	7.2%	7.9%	6.8%	9.0%	7.7%
	17.6%	17.4%	20.3%	21.1%	18.5%	19.2%
	42.7%	41.9%	42.4%	42.4%	39.3%	41.8%
	29.9%	32.4%	28.7%	28.8%	32.7%	30.3%
	1.8%	1.2%	0.7%	0.9%	0.6%	0.9%